

ナンバリングコード B2THB-bdeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000101) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 日本の歴史と現代社会A The History of Japan and Modern Society A	科目区分 主題科目	時間割 1Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bdeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 鈴木 正行	関連授業科目	歴史学	
	履修推奨科目	日本の歴史と現代社会B	
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 歴史認識問題, 安全保障問題, 地域の課題 この授業では, 21世紀社会の諸課題として, 主に国内外の歴史認識問題と安全保障問題を取り上げます。為政者を中心とした歴史だけでなく, 民衆の視点から歴史の動きを捉えることによって, 国内外における現代社会の抱える問題やこれからの社会の在り方について, 市民・民衆の立場から深く考えられるようにします。自分の考えを他者に伝え, 他者の意見から自分の考えを広げていけるよう, 発表や討論を取り入れた授業を行います。とくにテキストは指定しませんが, 映像資料やプリント資料などを用いて授業を進めます。授業を通して, よりよい社会の形成を担う市民へと成長することを期待します。			
<b>授業の目的</b> グローバル化の進展, 紛争の激化, 安全保障問題, 少子高齢・人口減少社会の急激な進行など, 私たちを取り巻く状況は常に変化し複雑化・深刻化している。歴史学の論争や地域の歴史事象を学ぶことを通して, 歴史的な見方・考え方を身に付け, 社会事象を批判的・論理的に捉え, 現代社会で起こる様々なできごとの本質を見抜き, 的確な社会的選択・判断ができるようになるための基盤をつくる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 歴史学の学説の変遷のほか, 国内外の歴史認識問題及び安全保障問題に関する論争の原因を理解し, 現代社会の抱える問題の発生した経緯を説明することができる。 2. 社会的な問題について, 他者とのコミュニケーション活動を通して自己の考えを拡張・深化させ, 的確に表現することができる。 3. 大学生として, よりよい社会をつくるために自分ができることについて, 具体的に述べるることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席・態度30%, レポート・報告40%, 試験30%により評価を行う。これらの総合評価により, 60点以上で合格とする。自主的に現代社会の問題や地域の社会事象について調べてきた者については加点する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 講義とグループワークを組み合わせながら, 授業を進める。毎時間, 授業のはじめに一週間の中で自分が関心をもったニュースを持ち寄り報告する。日本全体の歴史の流れを学ぶとともに, 地域の歴史や市民活動について調べる学習も行い, 現代と過去を行き来しながら, 現代日本の社会の在り方について考え, 意見を述べ合う機会を設ける。 <b>【授業計画】</b> 第1週 授業の目的・計画・学び方に関するガイダンス 第2週 アニメを通して考える社会と歴史 第3週 徴兵制の歴史と現代日本 第4週 トイレの歴史と環境問題 第5週 歴史学の論争と歴史教育①古代史・中世史の論争 第6週 歴史学の論争と歴史教育②近世・近代史の論争 第7週 瀬戸大橋の建設と地域社会 第8週 振り返り 試験			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 毎週 新聞・テレビやインターネットなどのニュースを見て, 現代社会が抱える問題について考え, 自分の意見を発表できるようにしておく。 第2週 指定されたアニメの中の社会事象についてまとめる。 第3週 戦争・紛争・難民・移民について, 自分の考えをまとめ, 日本の在り方と結びつけて, 意見を述べられるようにしておく。 第4週 自分が住んでいる地域の下水はどのように処理され, 糞尿はどうなるのか調べてくる。 第5～6週 中学・高校の教科書の中にある歴史上の論争について調べてくる。 第7週 交通が歴史に及ぼす影響について考えてくる。 第8週 ニュースをもとに, 現代社会の諸問題と歴史とのつながりについて, 自分の考えをまとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> テーマごとにプリントを配布する。参考書は授業の中で紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日の第5時限目 鈴木研究室 (幸町キャンパス8号館6階)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとる。座席の位置やグループを授業ごとに入れ替えて指定する。社会が抱える様々な問題に関心をもって積極的に授業に参加することを望む。平成30年度以前の科目「日本の歴史と現代社会（その1，その2）」と内容が同じであるため、すでにこの科目を履修した人は本科目を履修できません。

ナンバリングコード B2THB-bdeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000102) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 日本の歴史と現代社会B The History of Japan and Modern Society B	科目区分 主題科目	時間割 2Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bdeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 鈴木 正行	関連授業科目	歴史学	
	履修推奨科目	日本の歴史と現代社会A	
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 地域の課題, 安全保障問題 この授業では, 21世紀社会の諸課題として, 主に地域の課題と安全保障問題を関連させて取り上げます。その再, 為政者を中心とした歴史だけでなく, 民衆の視点から歴史の動きを捉えることによって, 現代社会の抱える問題やこれからの社会の在り方について, 市民・民衆, さらにグローバル市民としての立場から深く考えられるようにします。自分の考えを他者に伝え, 他者の意見から自分の考えを広げていけるよう, 発表や討論を取り入れた授業を行います。とくにテキストは指定しませんが, 映像資料やプリント資料などを用いて授業を進めます。授業を通して, よりよい社会の形成を担う市民へと成長することを期待します。			
<b>授業の目的</b> グローバル化の進展, 紛争の激化, 安全保障問題, 少子高齢・人口減少社会の急激な進行など, 私たちを取り巻く状況は常に変化し複雑化・深刻化している。地域の歴史と日本全体の歴史を関連づけて学ぶことにより, 歴史的な見方・考え方をもとに, 先行き不透明な現代社会で起こる様々なできごとの本質を見抜き, 時代の雰囲気流されることなく, 人々の生命の尊重と人間の尊厳に基づいた社会的選択・判断ができるようになるための基盤をつくる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本, 東アジア, そして国際社会が抱える現代の課題について, 地域の課題と日本・世界の問題との関連性を捉え, 社会のできごとのもつ意味について, 批判的・論理的に説明することができる。 2. 社会的な問題について, 他者とのコミュニケーション活動を通して自己の考えを拡張・深化させ, 的確に表現することができる。 3. 大学生として, よりよい社会をつくるために自分ができることについて, 具体的に述べるることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席・態度30%, レポート・報告40%, 試験30%により評価を行う。これらの総合評価により, 60点以上で合格とする。自主的に現代社会の問題や地域の社会事象について調べてきた者については加点する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 講義とグループワークを組み合わせながら, 授業を進める。毎時間, 授業のはじめに一週間の中で自分が関心をもったニュースを持ち寄り報告する。日本全体の歴史の流れを学ぶとともに, 地域の歴史や市民活動について調べる学習も行い, 現代と過去を行き来しながら, 現代日本の社会の在り方について考え, 意見を述べ合う機会を設ける。 <b>【授業計画】</b> 第1週 学習内容・学び方に関するガイダンス 第2週 現代社会における補助金・教育問題 第3週 日本国憲法の成立 第4週 憲法改正問題と模擬国民投票 第5週 集団的自衛権問題と憲法 第6週 地域の市民活動と若者の役割 第7週 ニュースから考える日本社会の現状と未来 第8週 振り返り 期末試験 <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 毎週 新聞・テレビやインターネットなどのニュースを見て, 現代社会が抱える問題について考え, 自分の意見を発表できるようにしてくる。 第2週 現代社会における補助金問題・教育問題について調べてくる。 第3週 大日本帝国憲法と日本国憲法について調べてくる。 第4週 憲法改正問題について調べてくる 第5週 集団的自衛権と安保関連法制について調べてくる。 第6週 地域の市民活動の具体例を調べてくる。 第7週 ニュースをもとに, 大学生として社会や地域のためにどのようなことができるか, 自分の考えをまとめてくる。			
<b>教科書・参考書等</b> テーマごとにプリントを配布する。参考書は授業の中で紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日の第5時限目 鈴木研究室 (幸町キャンパス8号館6階)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとる。座席の位置やグループを授業ごとに入れ替えて指定する。社会が抱える様々な問題に関心をもって積極的に授業に参加することを望む。平成30年度以前の科目「日本の歴史と現代社会（その1，その2）」と同じ内容であるため、すでにこの科目を履修した人は、本科目を履修できません。

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000103) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 子どもの視座から教育を考える (Thinking about Education from a Child's Viewpoint)	科目区分 主題科目	時間割 4Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 山岸 知幸	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】教育課題 この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(教師論、居場所論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。			
授業の目的 21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる。			
成績評価の方法と基準 コメント・ワークシート(毎時の授業終了時に提出)60%、小レポート40%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 我が国における「教育」の変遷－戦後新教育から現在まで－ 第2・3回 教師論－教師のものの見方・考え方、教師自身が変えること－ 第4・5回 居場所論－受容とは何か、子どもと教師との関係性－ 第6・7回 部活動論－個と集団、教師の指導性とは－ 第8回 まとめと小レポート作成			
【授業及び学習の方法】 配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。			
【自学自習のためのアドバイス】 配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めてください。			
教科書・参考書等 毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。			
オフィスアワー 木曜日4校時 教育学部附属教職支援開発センター1階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000104) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 戦後の日本経済－戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで 20世紀日本の繁栄 Japanese Economy after WW II: Japan's Prosperity in 20th Century	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目 りまで	戦後の日本経済－バブル発生から平成の終わりまで	
	履修推奨科目 りまで	戦後の日本経済－バブル発生から平成の終わりまで	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】 経済成長 日本経済の現状を理解するためには、そこへ至った歴史・変遷を知ることが重要である。戦後の日本経済はなぜに高い経済成長を成し遂げたのか、戦後における国際関係、とくに日米関係は、戦後経済にどのように作用したのか学修する。			
授業の目的 本講義は、戦後日本経済の発展とその変遷について、産業・政府の役割・国際関係など複合的な視点から把握することを目的とし、上述の疑問に対する回答を、学生諸君が、自ら説明できるようになることを目標とする（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 戦後の日本経済が高度成長を成し遂げた理由を説明できる。 2. 日本経済が石油危機の影響を軽微に乗り越えた経緯を説明できる。 3. 東欧・ソ連の崩壊が日本経済に与えた影響を説明できる。			
成績評価の方法と基準 講義毎に課すレポート (20点) グループワーク参加 (20点) 試験 (小テストを含む) (60点) 以上の合計100点満点に基づき、学則にしたがった成績を付ける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画</li> <li>板書筆記・口述筆記による。</li> <li>(1) イントロダクション</li> <li>(2) 日本経済は今</li> <li>(3) 敗戦からの復興</li> <li>(4) 飛躍的な高度成長</li> <li>(5) ニクソンショックとオイルショック</li> <li>(6) スタグフレーションの時代</li> <li>(7) 経済大国と経済成長のコスト</li> <li>(8) 東欧・ソ連の崩壊と日本経済</li> <li>・自学自習に関するアドバイス</li> <li>講義毎にレポートを課すので、授業（レクチャーとグループワーク）を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取り纏めて提出すること。</li> </ul>			
教科書・参考書等 教科書： 指定しない。適宜、講義プリントを配布する。			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ スマートフォン・携帯電話の使用を禁止する。違反した者は、違反1回につき最終成績から20点減点する。 レクチャー中は静粛に。私語についての注意を受けた者は、注意1回につき最終成績から10点減点する。 グループワークは活発に。グループワークに積極的に参加し認められた者は、認証1回につき10点加点する。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000105) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 戦後の日本経済－バブル発生から平成の終わりまで 21世紀日本の低迷 Japanese Economy after WW II: Japan's Sluggishness in 21st Century	科目区分 主題科目	時間割 2Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目 壊まで	戦後の日本経済－戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで	
	履修推奨科目 壊まで	戦後の日本経済－戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】経済成長 日本経済の現状を理解するためには、そこへ至った歴史・変遷を知ることが重要である。日本経済が、1990年代以降に、なぜ「失われた20年」と呼ばれるほど、低成長（マイナス成長）に落ち込み低迷したのか。再生のための政府による政策（規制や財政）はどうあるべきか学修する。			
授業の目的 本講義は、戦後日本経済の発展とその変遷について、産業・政府の役割・国際関係など複合的な視点から把握することを目的とし、上述の疑問に対する回答を、学生諸君が、自ら説明できるようになることを目標とする（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. バブル経済の発生と崩壊の過程について説明できる。 2. 「失われた20年」からの脱出の方策について提案できる。			
成績評価の方法と基準 講義毎に課すレポート (20点) グループワーク参加 (20点) 試験 (小テストを含む) (60点) 以上の合計100点満点に基づき、学則にしたがった成績を付ける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
(1) イントロダクション (2) 経済成長のコスト (3) バブルの発生 (4) バブルの崩壊 (5) 「失われた20年」とは何か (6) 負の遺産を乗り越える (7) 日本経済を支える新たな需要 (8) まとめ  ・ 自学自習に関するアドバイス  講義毎にレポートを課すので、授業（レクチャーとグループワーク）を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取り纏めて提出すること。			
教科書・参考書等 教科書： 指定しない。適宜、講義プリントを配布する。			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ スマートフォン・携帯電話の使用を禁止する。違反した者は、違反1回につき最終成績から20点減点する。 レクチャー中は静粛に。私語についての注意を受けた者は、注意1回につき最終成績から10点減点する。 グループワークは活発に。グループワークに積極的に参加し認められた者は、認証1回につき10点加点する。			

ナンバリングコード B2THB-cexG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード:000106) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 知プラe科目 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 一四国の収容所を中心に — (Focusing on Camps in Shikoku) German Prisoners of the War in Japan 1914-1920 (Focusing on Camps in Shikoku)	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cexG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 井戸 慶治	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 捕虜、第一次世界大戦、青島 (チンタオ)、ドイツ  第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所一特に四国の収容所一における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。			
授業の目的 第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)のきっかけとする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテクストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。			
成績評価の方法と基準 小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1. 導入。板東を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所 (久留米、福岡、熊本、大分) 5. 中国・近畿の収容所 (姫路、青野原、似島、大阪) 6. 関東・東海の収容所 (名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン? 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』 10. 板東収容所 (1)。収容所新聞『ディ・バラック』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所 (2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ポーターとマイスナー。 13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史 (世界と日本) 15. 捕虜待遇の歴史 (捕虜と「武士道」) 16. 定期試験 (レポート)  【授業時間外学習について】 各授業のビデオを見て、1) 内容の自分なりのまとめ、2) 感想ないし考察、3) 質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらおう。執筆時の留意点については、「履修上の注意・担当教員からのメッセージ」の欄を参照のこと。 「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」ホームページ <a href="http://homepage3.nifty.com/akagaki/">http://homepage3.nifty.com/akagaki/</a>			

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書1 書名 『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』

I S B N 4-8102-0450-2 著者名 瀬戸武彦

出版社 同学社 出版年 2006年

参考書1 書名 『どこにしようと、そこがドイツだ』

著者名 田村一郎（編著）

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2006年(第3版)

参考書2 書名 『ディ・バラック』(1-4巻)

著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 1998年—2007年

参考書3 書名 CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」

著者名 ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2012年

参考書4 書名 板東俘虜収容所

著者名 富田弘

出版社 法政大学出版局 出版年 1991年、(新装版)2006年

オフィスアワー 徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: [ido.keiji@tokushima-u.ac.jp](mailto:ido.keiji@tokushima-u.ac.jp)

メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ることを。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。

レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1) 参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2) 得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的文章をめざすこと。3) 特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んできると、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。

ナンバリングコード B2THB-bdaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000107) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 福祉国家と地方財政A 福祉国家における地方公共団体の役割 Local Governments at the Frontline of Welfare State	科目区分 主題科目	時間割 3Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bdaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目 経済政策	福祉国家と地方財政B、福祉経済論、社会政策、	
	履修推奨科目	福祉国家と地方財政B	
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 福祉国家 現代社会では、警察・消防や公共事業、教育、社会保障など私達の生活の様々な面に政府活動が関わっています。この授業では、住民に最も身近な政府であり政策現場を担う地方公共団体に焦点をあて、日本の福祉国家システムにおける役割と財政構造、地域間の財政調整メカニズムを勉強します。 授業時間と予復習の課題において教科書を使用しますので、必ず第1回目の授業時までに入手して毎回の授業に持参して下さい。			
<b>授業の目的</b> 地方行財政システムの基本構造の理解を通じて、日本型福祉国家システムの特徴を理解する（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の福祉国家システムにおける地方公共団体の位置づけを説明できる。 2. 地方公共団体が担う主要政策の内容を説明できる。 3. 国と地方の役割分担を説明できる。 4. 地方公共団体の財源を説明できる。 5. 地域間の財政調整の仕組みを説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・期末テスト70%、小課題30%(宿題や授業内の作業など) ・授業時に出题する小課題(宿題)は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。詳しくは、第1回目の授業で指示します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> ・授業は基本的に、テキストを使用した講義形式によって行います。毎回の授業では、教科書を必ず持参してください。 ・受講者には、発言や意見を求める予定です。また、受講者の人数によっては、グループワークを行うこともあります。 ・予復習のための課題を、適宜、出題します。必ず取り組んで、提出してください。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 イントロダクション：福祉国家と地方財政をみる眼 第2回 地方公共団体の役割(1) 第3回 地方公共団体の役割(2) 第4回 地方財政システム(1) 第5回 地方財政システム(2) 第6回 地域間格差と財政調整(1) 第7回 地域間格差と財政調整(2) 第8回 まとめ+試験(45分間)			
※上記の授業計画は、進捗状況などの関係で変更となる可能性があります。その場合には、授業内で適宜、アナウンスを行います。			
<b>【自主学习について】</b> ・授業の各回の内容は、指定教科書の以下の章となります。自学自習として、予復習を行ってください。 第1回 序章 第2-3回 第1章 第4-5回 第2章 第6-7回 第3章			

- ・教科書のほか、授業内の配布資料も理解を深めるための教材の一部ですので、予復習を行うことを勧めます。
- ・授業内に小課題を複数回出題する予定です。期限までに必ず提出してください。

教科書・参考書等

【教科書】

渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春『福祉国家と地方財政 改訂版』、2018年、本体2,100円＋税  
※必ず「改訂版」を購入すること。

オフィスアワー 水曜日12:00-12:40

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書を毎回持参すること。

私語厳禁。

授業に関係の無いスマートフォン等の使用も厳禁。

ナンバリングコード B2THB-bdcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000108) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 福祉国家と地方財政B 高齢社会と社会保障 social security in aged society	科目区分 主題科目	時間割 4Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bdcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目 経済政策	福祉国家と地方財政A、福祉経済論、社会政策、	
	履修推奨科目	福祉国家と地方財政A	
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】国民皆保険 この授業では福祉国家について、公的医療保障を中心に、国の制度設計と現場を担う地方公共団体のデータ等を検討し、日本のシステムの特徴と課題を明らかにします。 なお、授業時間および予復習の課題において、教科書を使用します。必ず第1回目の授業時までに入手し、必ず毎回の授業に持参してください。			
授業の目的 福祉国家の特質について、高齢社会における課題を通して理解します(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の人口構造の特徴を説明できる。 2. 国民健康保険制度について説明できる。 3. 後期高齢者医療制度について説明できる。 4. 皆保険制度のほころびとその背景について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ・期末テスト70%、小課題30%(宿題や授業内の作業など) ・授業時に出席する小課題(宿題)は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。詳しくは、第1回目の授業で指示します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 ・授業は基本的に、テキストを使用した講義形式によって行います。毎回の授業では、教科書を必ず持参してください。 ・受講者には、発言や意見を求める予定です。また、受講者の人数によっては、グループワークを行うこともあります。 ・予復習のための課題を、適宜、出題します。必ず取り組んで、提出してください。			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 高齢社会と福祉国家の現場(1) 第3回 高齢社会と福祉国家の現場(2) 第4回 国民皆保険システムと地方公共団体(1) 第5回 国民皆保険システムと地方公共団体(2) 第6回 市町村と医療福祉(1) 第7回 市町村と医療福祉(2) 第8回 まとめ+ 試験(45分間)			
※上記の授業計画は、進捗状況などの関係で変更となる可能性があります。その場合には、授業内で適宜、アナウンスを行います。			
【自主学習のアドバイス】 ・授業の各回の内容は、指定教科書の以下の章となります。自学自習として、予復習を行ってください。 第1回 第1章、第4章 第2-3回 第4章 第4-5回 第6章 第6-7回 第7章  ・教科書のほか、授業内の配布資料も理解を深めるための教材の一部ですので、予復習を行うことを勧めます。 ・授業内に小課題を複数回出題する予定です。期限までに必ず提出してください。			

教科書・参考書等

**【教科書】**

渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春『福祉国家と地方財政 改訂版』、2018年、本体2,100円＋税

※必ず「改訂版」を購入すること。

オフィスアワー 水曜日12:00-12:40

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書を毎回持参すること。

私語厳禁。

授業に関係の無いスマートフォン等の使用も厳禁。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000109) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 少子高齢化と経済学 Introduction to Economics	科目区分 主題科目	時間割 3Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	経済学A、B	
	履修推奨科目	経済学A、B	
学習時間 講義・演習90分×8回+自学自習 ※授業と自学自習(課外時間)の両方で、グループワークを含みます。			
<b>授業の概要</b> 大学に入り初めて経済学的思考に触れる受講生を対象に、「経済学」という学問分野がどのような視点から世の中の出来事を見ているのか、私たちの暮らしに関連するテーマを題材に解説します。今年度は特に、担当教員が近年聴講した講演会、セミナー、シンポジウム内で、実際に取り扱われた内容を紹介しながら、経済学の扱うテーマが一般社会に対してどのように還元されているのか、学術的知見を含めてお話しします。 また大学生として、自分たちの生きる社会に関心を持ち、自ら進んで知識を獲得していくきっかけとなるようプレゼンテーションの機会を課しています。グループワークでの作業とプレゼン報告準備を通して、今後の授業や社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上をはかっていきます。			
【キーワード】経済理論、少子高齢化、経済成長、労働、教育			
<b>授業の目的</b> 『社会科学の女王』と称される「経済学」は、私たちの暮らしを取り巻く様々な現象を分析対象としています。この授業では、「経済学」がどのような視点でこの少子高齢化社会を捉え、どのような観点から分析を行っているのかについて学んでいきます。 授業内では、講義に加え、毎回メンバーを変えてのグループワークを実施することで、学部異なる初対面の人たちとのグループワークの機会に慣れ、今後の大学生活及び職業生活において必要とされるコミュニケーション能力の向上に努めます。また、他者のプレゼンテーション報告を見ることで、授業内容の理解を深め、人にわかりやすく伝えるためにはどのように工夫したら良いか、プレゼン技術の向上にも役立てることが出来ます。			
【香川大学共通教育スタンダード】①、②-1、②-2、②-4			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・日本における人口の少子高齢化現象について、経済学の枠組みではどのような問題として捉え、分析しているのか、具体的なポイントを挙げて説明することができる。 ・他者と協力して、授業内容の理解に努め、他の受講生にもわかりやすく説明することができる。			
※試験では、上記以外のことも出題します。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「毎回の授業への取り組み・プレゼンテーション等50%+小テスト50%」の『総合得点』で評価します。  2019年度(4月～11月下旬)に開催された、『経済学に(一部でも)関連する学内外の講演会、セミナー、シンポジウム等』に出席し、内容をまとめた感想レポート(A4用紙2枚程度)を授業内で教員が指定した期間に提出した場合、成績評価の加点材料(=未提出でも減点なし)として扱います。 ※ただし、他の授業の課題やレポート用として出席したものは除きます。参加した講演会等の案内と当日の出席を証明できるものを添付してください。 授業期間に限られているため、事前の長期休暇や空き時間を利用して、積極的に参加してみてください。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 授業のガイダンス 第2週 少子高齢化と経済学(1):人口構造の変化と経済成長の仕組み 第3週 少子高齢化と経済学(2):有効需要と女性活躍 第4週 少子高齢化と経済学(3):社会保障と消費税10%社会 第5週 授業のまとめ 第6週 プレゼンテーション(1) 第7週 プレゼンテーション(2) 第8週 小テスト			
※受講生の理解度や履修人数によって、上記の計画が変更となる場合もあります。第6、7週であらかじめ「公欠」が決まっている場合は、報告日程を配慮しますので、早めに申し出て下さい。			

**【授業及び学習の方法】**

第1週は、授業のガイダンスと共に、プレゼンテーション用の班でのグループワークを行います。2回目以降は毎回班替えをし、同じメンバーで班を組む機会はありませんので、やむを得ない事情（公欠理由）を除き、必ず出席するようにしてください。

第2～4週は、授業の前半にパワーポイントを用いた講義を行い、後半に講義内容に関連したグループワークを行います。グループは、名簿を元に、教員が毎回新しく指定します。

授業用資料は、moodleにて公開します。各自で事前に使い方を調べて印刷し、第2週の授業から持参してください。  
※登録キーは、syudai

第5週は、それまでの授業のまとめと次週以降のプレゼンテーションの確認を行います。

第6、7週は、それまでの授業内容+αについて、グループごとに内容をまとめ、パワーポイントでプレゼンテーション報告をしてもらいます。グループごとに授業時間外に集まって、報告準備と練習を進めておいてください。

第8週目は、授業内容のまとめを講義した後、小テストを実施します。

※moodle、パワーポイントの使い方は、既習事項としてこの授業内では説明しませんので、各自であらかじめ確認しておいて下さい。

**教科書・参考書等**

教科書の指定、及び購入の必要はありません。

授業に関連するテーマの書籍・雑誌記事・新聞記事などを積極的に読んで、知識と理解を深めてください。

オフィスアワー 金曜日4校時目

3号館持田研究室

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

※プレゼンのグループ分けは、初回授業で実施し、その後のグループワークは毎回メンバーを入れ替えて実施する予定です。いずれも教員が名簿を元に指定します。

※静粛な環境を保つため、授業中の私語、緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は禁止します。同様の理由から、公欠理由以外での遅刻入室（授業開始10分後以降）は認めません。遅刻して入室したい場合は、次週の授業時に公欠届を提出して下さい。受講マナーが守れない場合は、それ以降の受講をお断りします。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンなど電子機器類の使用は、一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止します。（個別に対応が必要な場合は、大学を通して申し出て下さい。）

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000110) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century 教育と経済学 Introduction to Economics	科目区分 主題科目	時間割 4Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	経済学A、B	
	履修推奨科目	経済学A、B	
学習時間 講義・演習90分×8回+自学自習 ※授業と自学自習(課外時間)の両方で、グループワークを含みます。			
<b>授業の概要</b> 大学に入り初めて経済学的思考に触れる受講生を対象に、「経済学」という学問分野の簡単な紹介と共に、学生の皆さんにとっても身近な「教育」に関連する3つのテーマを題材に、経済学からみたそれぞれの捉え方を解説します。また大学生として、自分たちの生きる社会に関心を持ち、自ら進んで知識を獲得していくきっかけとなるようフィールドワークとプレゼンテーションの機会を課しています。グループワークでの作業と報告準備を通して、今後の授業や社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上をはかっていきます。			
【キーワード】経済理論、教育、博物館、人口、労働			
<b>授業の目的</b> 『社会科学の女王』と称される「経済学」は、私たちの暮らしを取り巻く様々な現象を分析対象としています。この授業では、学生の皆さんにも身近な「学校教育」や「学力」、これまで一度は訪問していると思われる「(広義の)博物館」、今後参加機会も増えてくる「講演会・セミナー・シンポジウム等」を題材に、「経済学」が「教育」を分析対象する際には、どのような視点から捉え、検討を行っているのかについて学んでいきます。 授業内では、講義に加え、毎回メンバーを変えてのグループワークを実施することで、学部異なる初対面の人たちとのグループワークの機会に慣れ、今後の大学生活及び職業生活において必要とされるコミュニケーション能力の向上に努めます。また、フィールドワークを自分自身で計画・実施する機会を課すことで、大学生活を通じて自ら学ぶ姿勢を養うきっかけとなることを目指しています。さらに、他者のプレゼンテーション報告を見ることで、授業内容の理解を深め、人にわかりやすく伝えるためにはどのように工夫したら良いか、プレゼン技術の向上にも役立てることができそうです。			
【香川大学共通教育スタンダード】①、②-1、②-2、②-4			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育」について、経済学の枠組みではどのような問題として捉え、分析しているのか、具体的な事例を交えて説明することができる。</li> <li>・目的を持ったフィールドワークを自ら設定し、実施することができる。</li> <li>・他者と協力して、授業内容の理解に努め、他の受講生にもわかりやすく説明することができる。</li> </ul>			
※最後の小テストでは、上記以外のことも出題します。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「授業への取り組み30%+フィールドワーク・プレゼンテーション30%+小テスト40%」の『総合得点』で評価します。  2019年度(4月～2月上旬)に開催された、『経済学に(一部でも)関連する講演会、セミナー、シンポジウム等』に出席し、内容をまとめた感想レポート(A4用紙2枚程度)を授業内で教員が指定した期間に提出した場合、成績評価の加点材料(=未提出でも減点なし)として扱います。 ※ただし、他の授業の課題やレポート用として出席したものは除きます。参加した講演会等の案内と当日の出席を証明できるものを添付してください。 授業期間に限られているため、事前の長期休暇や空き時間を利用して、積極的に参加してみてください。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<b>【授業計画】</b> 第1週 授業のガイダンス 第2週 教育と経済学(1):経済学ではどのように「教育」を扱っているか? 第3週 教育と経済学(2):講演会、セミナー、シンポジウム等を通しての「生涯教育」 第4週 教育と経済学(3):博物館が提供する「教育サービス」と経済成長モデル 第5週 授業のまとめ 第6週 プレゼンテーション(1) 第7週 プレゼンテーション(2) 第8週 小テスト			

※受講生の理解度や履修人数によって、上記の計画が変更となる場合もあります。第6、7週であらかじめ「公欠」が決まっている場合は、報告日程を配慮しますので、早めに申し出て下さい。

#### 【授業及び学習の方法】

第1週は、授業のガイダンスと共に、プレゼンテーション用の班でのグループワークを行います。2回目以降は毎回班替えをし、同じメンバーで班を組む機会はありませんので、やむを得ない事情（公欠理由）を除き、必ず出席するようにしてください。

第2～4週は、授業の前半にパワーポイントを用いた講義を行い、後半に講義内容に関連したグループワークを行います。（グループは、名簿を元に、教員が毎回新しく指定します。）

授業用資料は、moodleにて公開します。各自で事前に使い方を調べて印刷し、第2週の授業から持参してください。  
※登録キーは、syudai2

第5週は、それまでの授業のまとめと次週以降のプレゼンテーションの確認を行います。

第6、7週は、皆さんが授業期間中に実際に参加・訪問した「講演会、セミナー、シンポジウム」や「博物館」について、その内容や意義、授業内容との関連についてまとめ、グループごとにパワーポイントでプレゼンテーション報告をしてもらいます。グループ、もしくは個人で上記に参加・訪問すると共に、授業時間外に集まって、プレゼンテーションの報告準備と練習を進めておいてください。

第8週目は、授業内容のまとめを講義した後、小テストを実施します。

※moodle、パワーポイントの使い方は、既習事項としてこの授業内では説明しませんので、各自であらかじめ確認しておいて下さい。

#### 教科書・参考書等

教科書の指定、及び購入の必要はありません。

授業に関連するテーマの書籍・雑誌記事・新聞記事などを積極的に読んで、知識と理解を深めてください。

オフィスアワー 金曜日4校時目

3号館持田研究室

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※プレゼンのグループ分けは、初回授業で実施し、その後のグループワークは毎回メンバーを入れ替えて実施する予定です。いずれも教員が名簿を元に指定します。

※教育をテーマに扱いますが、担当教員の専門分野はあくまで「経済学」です。講義内容が皆さんの想像とは異なる可能性も高いため、履修の際は十分ご注意ください。

※静粛な環境を保つため、授業中の私語、緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は禁止します。同様の理由から、公欠理由以外での遅刻入室（授業開始10分後以降）は認めません。遅刻して入室したい場合は、次週の授業時に公欠届を提出して下さい。受講マナーが守れない場合は、それ以降の受講をお断りします。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンなど電子機器類の使用は、一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止します。（個別に対応が必要な場合は、大学を通して申し出て下さい。）

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000111) 主題B-1「歴史のなかの21世紀」 Historical Perspective on the 21st Century オリンピックの歴史と文化 (History and Culture of Olympic Games)	科目区分 主題科目	時間割 2Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 石川 雄一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回(テスト含む) + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> オリンピック オリンピズム スポーツマンシップ フェアプレー スポーツ文化 1896年ギリシアのアテネで始まった近代オリンピックは、124年の時を経て来る2020年の東京大会で第32回を迎えます。近代オリンピックの発展が世界中のスポーツの発展に寄与したことは紛れもない事実です。本講義ではオリンピックの成り立ちや、近代オリンピック120年を振り返りながら、クーベルタン男爵が提唱したオリンピズムやスポーツマンシップ、フェアプレーの精神、日本のスポーツの発展などスポーツ文化的価値について考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 2020年に2回目の東京オリンピックが開催されるこの時期に、オリンピックの歴史について基本的な知識を理解し、オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について学ぶことで、スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できるようになりましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
オリンピックの歴史について基本的な知識が理解できる。 オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について説明できる。 スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業後に提出してもらう出席確認・内容(50%)とクイズ形式の試験(50%)にて判定する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業はプロジェクターを用いて行います。			
第1回 エピローグ 1964東京オリンピック 第2回 古代オリンピックについて 第3回 近代オリンピックの歴史と発展 第4回 近代オリンピックの歴史と発展 第5回 スポーツマンシップとオリンピック 第6回 オリンピックとスポーツテクノロジー 第7回 オリンピックからスポーツ文化を考える 第8回 まとめとテスト(クイズ形式)			
なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。			
<b>自学自習のアドバイス</b> 講義の中で取り上げられた、専門用語や人物等についてインターネットを使い検索してみましょう。その中で関連する事項についても調べてみましょう。			
<b>教科書・参考書等</b> 特にありません			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日1時限目。研究室は幸町北キャンパス5号館4階にあります。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 受講マナーを遵守してください			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000201) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society グローバル時代の法と国際人権ー外国人 の人権と国籍 Alien's Human Rights and Nationality	科目区分 主題科目	時間割 3Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 新井 信之	関連授業科目 グローバル時代の法と国際人権ー人の国際移動と人権諸条約		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本講義は、グローバル時代における法的諸問題について、人類の普遍的かつ共通のルールである「人権」の視点から考えていきます。国際社会は、各主権国家が構成員となって成り立っていますが、今日では国家の枠（国境）を越えて、個人がさまざまな理由で国際移動・居住を行なっています。そこでは、多くの人権問題が発生し、国際的にも国内的にも適正な解決が求められています。授業は、外国人の人権と国籍について、教科書や視聴覚教材等を活用して進めていきます。			
<b>授業の目的</b> 本講義は、これからのグローバル時代を生きていく自由で独立した個人が他者とともに現代社会で共生するために必要な国際的および国内的な人権保障のルールについて、日本国憲法および国際人権法を視点として基本的な知識と思考方法を習得する（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）ことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国際的および国内的な人権保障のあり方について、基本的な知識を習得することができる。 2. 国際人権についての問題を発見し、自ら解決するための法的思考能力を習得することができる。 3. 法的およびグローバル（国際的）な視点から現代国家と社会を幅広くリテラシー（読み解く）することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（60%）、授業中に実施する小テスト・自由研究レポート・授業への貢献度等の平常点（40%）を総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 本講義は、グローバル時代における国際人権の保障について、どのように法的ルールが適用されてその解決が図られているかを理解するために、ビデオ教材等を活用するメディア・リテラシーの教育手法をとりいれて、私たちの身近な問題としての認識能力を高めていく。			
<b>【授業計画】</b> 第1週 憲法と国籍制度（1）：国籍の現代的意味 第2週 憲法と国籍制度（2）：血統主義と生地主義 第3週 憲法と国籍制度（3）：子どもの基本的権利としての国籍取得と継承 第4週 外国人の人権（1）：国民と外国人 第5週 外国人の人権（2）：外国人の人権享有主体性 第6週 外国人の人権（3）：外国人の権利保障の状況 第7週 外国人の人権（4）：国際家族の誕生と家族生活を営む権利 第8週 期末試験+授業のまとめ			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 1. 毎回授業のまとめとして実施する小テストの設問について、教科書等を参考にして引き続き自らの考えを発展させ、次回の授業に臨むこと。（授業の初めに「国際人権フォーラム」として受講者の意見を紹介するので、そこで議論に参加できるようにしておくこと。） 2. 自らが授業で発見した国際人権の問題について、自由研究レポートを作成・提出してもよい。 3. 裁判所見学（裁判の傍聴）等を各自で実施し、その内容をまとめて自由研究レポートとして提出してもよい。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：新井信之著『日本国憲法から考える現代社会・15講—グローバル時代の平和憲法』（有信堂、2015年）			
オフィスアワー 毎週金曜日4時限目〔幸町南キャンパス6号館5F〕			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本講義は、平成30年度以前開講の「グローバル時代の法と国際人権 その1」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。（授業科目名の変更のため） また授業は、単なる知識の伝達ではなく、包括的な人間教育の場であることを自覚して参加するよう学生諸君に求めます。（なお遅刻は15分を過ぎた場合、欠席とみなします。）			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000202) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society グローバル時代の法と国際人権一人の国際移動と人権諸条約 Free Movement across Borders and International Human Rights Treaties	科目区分 主題科目	時間割 4Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 新井 信之	関連授業科目	グローバル時代の法と国際人権ー外国人の人権と国籍	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本講義は、グローバル時代における法的諸問題について、人類の普遍的かつ共通のルールである「人権」の視点から考えていきます。国際社会は、各主権国家が構成員となって成り立っていますが、今日では国家の枠（国境）を越えて、個人がさまざまな理由で国際移動・居住を行なっています。そこでは、多くの人権問題が発生し、国際的にも国内的にも適正な解決が求められています。授業は、人の国際移動と国際人権に関する諸条約の保障システムについて、教科書や視聴覚教材等を活用して進めていきます。			
<b>授業の目的</b> 本講義は、これからのグローバル時代を生きていく自由で独立した個人が他者とともに現代社会で共生するために必要な国際的および国内的な人権保障のルールについて、日本国憲法および国際人権法を視点として基本的な知識と思考方法を習得する（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）ことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国際的および国内的な人権保障のあり方について、基本的な知識を習得することができる。 2. 国際人権についての問題を発見し、自ら解決するための法的思考能力を習得することができる。 3. 法的およびグローバル（国際的）な視点から現代国家と社会を幅広くリテラシー（読み解く）することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（60%）、授業中に実施する小テスト・自由研究レポート・授業への貢献度等の平常点（40%）を総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 本講義は、グローバル時代における国際人権の保障について、どのように法的ルールが適用されてその解決が図られているかを理解するために、ビデオ教材等を活用するメディア・リテラシーの教育手法をとりいれて、私たちの身近な問題としての認識能力を高めていく。 <b>【授業計画】</b> 第1週 国際移動・居住の自由（1）：海外渡航の自由の現代的意味 第2週 国際移動・居住の自由（2）：海外渡航の制度 第3週 国際移動・居住の自由（3）：移民と難民 第4週 国際人権の保障システム（1）：国際法と国内法 第5週 国際人権の保障システム（2）：難民条約 第6週 国際人権の保障システム（3）：女子差別撤廃条約 第7週 国際人権の保障システム（4）：児童の権利条約 第8週 期末試験+授業のまとめ  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 1. 毎回授業のまとめとして実施する小テストの設問について、教科書等を参考にして引き続き自らの考えを発展させ、次回の授業に臨むこと。（授業の初めに「国際人権フォーラム」として受講者の意見を紹介するので、そこで議論に参加できるようにしておくこと。） 2. 自らが授業で発見した国際人権の問題について、自由研究レポートを作成・提出してもよい。 3. 裁判所見学（裁判の傍聴）等を各自で実施し、その内容をまとめて自由研究レポートとして提出してもよい。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：新井信之著『日本国憲法から考える現代社会・15講ーグローバル時代の平和憲法』（有信堂、2015年）			
オフィスアワー 毎週金曜日4時限目 [幸町南キャンパス6号館5F]			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本講義は、平成30年度以前開講の「グローバル時代の法と国際人権 その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。（授業科目名の変更のため） また授業は、単なる知識の伝達ではなく、包括的な人間教育の場であることを自覚して参加するよう学生諸君に求めます。（なお遅刻は15分を過ぎた場合、欠席とみなします。）			

ナンバリングコード B2THB-ecbG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード:000203) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society プロジェクトさぬきイ Project Sanuki	科目区分 主題科目	時間割 2Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecbG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 野田 久尚, 植村 友香子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 (ディスカッション+調査 90分×週1コマ×15回) + 自学自習 (レポート提出のため)			
<b>授業の概要</b> 香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。 発表は、グループ単位で主体的に実施する。 グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。 使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。 なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。 ※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
<b>授業の目的</b> 調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 ⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応する。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 香川県に関するテーマを自ら設定し、探求することができる。 2. 既存文献や資料を分析し、上記のテーマを発表・レポートとしてまとめることができる。 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 下記の観点及び割合で評価する。 グループ発表評価：30点 個人レポート：40点 相互評価：30点 合計：100点			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 1 Introduction to Sanuki Project class, aim, schedule, etc. Ice breaker game さぬきプロジェクトの概要・目的、日程などの説明。アイスブレイクのゲーム 2 Team formation, Brainstorming for project topic, Criteria for grading チーム作り、プロジェクトのトピックについてのブレインストーミング。評価基準提示 3 Group work, Brief presentation of project topic グループワーク、プロジェクトのトピックを簡潔にプレゼンテーション 4 Group work グループワーク 5 Group work グループワーク 6 Group work グループワーク 7 Final presentation 最終発表 8 Final presentation 最終発表, Peer appraisal 相互評価  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動である。 担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してほしい。  <b>【注意】</b> 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			

オフィスアワー 高水： 火曜日 13:00～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
野田： 火曜日 14:40～17:50「南キャンパス3号館2階」  
植村： 火曜日 11:00～12:00「南キャンパス3号館2階」  
ロン： 火曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THB-ecbG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000204) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society プロジェクトさぬきロ Project Sanuki	科目区分 主題科目	時間割 4Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecbG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 野田 久尚, 植村 友香子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 (ディスカッション+調査 90分×週1コマ×15回) + 自学自習 (レポート提出のため)			
<b>授業の概要</b> 香川県に関連するテーマについて、調査・考察し、発表する。 発表は、グループ単位で主体的に実施する。 グループについては、可能な限り留学生と日本人学生の混成とする。 使用言語は、学生の能力等やグループの状況に応じて、日本語または英語に決定する。 なお、クォーター末に提出するレポートの作成は、グループではなく各自で行う。 ※日本人学生の受講は大歓迎。留学生たちとの共同作業によって、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力などを向上させるきっかけとなるクラスである。			
<b>授業の目的</b> 調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 ⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応する。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 香川県に関するテーマを自ら設定し、探求することができる。 2. 既存文献や資料を分析し、上記のテーマを発表・レポートとしてまとめることができる。 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 下記の観点及び割合で評価する。 グループ発表評価：30点 個人レポート：40点 相互評価：30点 合計：100点			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 1 Introduction to Sanuki Project class, aim, schedule, etc. Ice breaker game さぬきプロジェクトの概要・目的、日程などの説明。アイスブレイクのゲーム 2 Team formation, Brainstorming for project topic, Criteria for grading チーム作り、プロジェクトのトピックについてのブレインストーミング。評価基準提示 3 Group work, Brief presentation of project topic グループワーク、プロジェクトのトピックを簡潔にプレゼンテーション 4 Group work グループワーク 5 Group work グループワーク 6 Group work グループワーク 7 Final presentation 最終発表 8 Final presentation 最終発表, Peer appraisal 相互評価  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動である。 担当教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してほしい。  <b>【注意】</b> 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			

オフィスアワー 高水： 火曜日 13:00～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
野田： 火曜日 14:40～17:50「南キャンパス3号館2階」  
植村： 火曜日 11:00～12:00「南キャンパス3号館2階」  
ロン： 火曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THB-becG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000205) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society Leading Edge Issues in Kagawa Universityイ	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 becG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
<b>授業の目的</b> 本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 最終レポート(70%)とミニレポート(30%)に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2枚以上(英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
1回目 インターナショナルオフィス担当 インTRODククション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について  2回目～7回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。  8回目 インターナショナルオフィス担当 ・振り返り ・まとめ  <自学自習について> 自分の興味のある分野、または、専門とする(予定の)分野については、特に広い視点から見つめ直す。 上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない			
オフィスアワー 高水: 火曜日 13:00～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」 塩井: 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」 ロン: 火曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 1回の無断欠席につきマイナス5点とする。			

ナンバリングコード B2THB-becG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000206) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society Leading Edge Issues in Kagawa Universityロ	科目区分 主題科目	時間割 3Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 becG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
<b>授業の目的</b> 本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 最終レポート (70%) とミニレポート (30%) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには出席等の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
1回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について  2回目～7回目 各部局・機構・センター担当 担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行います。  8回目 インターナショナルオフィス担当 ・振り返り ・まとめ  <自学自習について> 自分の興味のある分野、または、専門とする (予定の) 分野については、特に広い視点から見つめ直す。 上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない			
オフィスアワー 高水: 火曜日 13:00～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」 塩井: 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」 ロン: 火曜日 13:30～14:30「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 1回の無断欠席につきマイナス5点とする。			

ナンバリングコード B2THB-ecdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000207) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 国際協力論A (地球規模課題の解決と持続可能な開発目標) Introduction to international cooperation A - Global Issues and Sustainable Development Goals (SDGs)	科目区分 主題科目	時間割 3Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 野田 久尚	関連授業科目 国際協力論B		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、21世紀の社会の諸課題として、貧困、環境など一国だけでは解決できない課題（地球規模課題）を取り上げます。特に、2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の概要、ならびにSDGsに挙げられている様々な地球規模課題の例を取り上げ、課題の解決のために我が国をはじめとする国際社会が行っている協力の現状と展望について解説するとともに、それらの問題に対して市民として何が出来るのかを共に考えていきます。			
<b>授業の目的</b> この授業は、世界が抱える様々な問題（開発課題）について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 持続可能な開発目標の概要を知り、地球規模課題解決のための具体的な実践例に基づいて、国際協力のあり方を説明できる。 2. 国際協力の事例や、国際協力のキャリアを理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業終了時に作成するミニレポート (40%)、期末レポート (60%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション (国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上国の発展と国際協力 第3回 国際協力の潮流と「持続可能な開発目標(SDGs)」 第4～6回 地球規模課題とその解決への取り組み 第7回 我が国の国際協力、国際協力に参加するために 第8回 まとめ (45分) 上記は予定であり、詳細は最初の授業時に説明する。			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 1. 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため必要に応じてグループワークを取り入れます。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。(外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。)			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。参考書等は授業で適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日3時限目 (13:00～14:30)、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 平成30年度以前開講の「国際協力論 その1 (その2)」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-ecdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000208) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 国際協力論B (世界の諸地域が抱える課 題と国際協力) Introduction to international cooperation B - Regional Development and International Cooperation	科目区分 主題科目	時間割 4Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プロ グラムとの対応 1N
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 野田 久尚	関連授業科目 履修推奨科目	国際協力論A	
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習			
授業の概要 この授業では、21世紀の社会の諸課題として、特に開発途上国が抱える課題(開発課題)を地域ごとに取り上げ、その解決のために国際社会が行っている協力の事例を解説するとともに、市民としてどのように国際協力に関わっていくことが出来るのかを共に考えて行きます。			
授業の目的 この授業は、世界が抱える様々な問題(開発課題)について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 世界の各地域が抱える開発課題の概要を知り、課題解決のための具体的な実践例に基づいて、望ましい国際協力のあり方を説明できる。 2. 国際協力の事例や、国際協力のキャリアを理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業終了時に作成するミニレポート(40%)、期末レポート(60%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上地域の概観 第3回 地域開発各論Ⅰ(アジア地域) 第4回 地域開発各論Ⅱ(中東地域) 第5回 地域開発各論Ⅲ(アフリカ地域) 第6回 我が国による国際協力 第7回 国際協力に参加するために 第8回 まとめ(45分) 上記は予定であり、詳細は最初の授業時に説明する。			
【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため必要に応じてグループワークを取り入れます。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。(外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。)			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。参考書等は授業で適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3時限目(13:00~14:30)、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 平成30年度以前開講の「国際協力論 その1(その2)」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-ebaG-1N-Ef1 授業科目名 (時間割コード:000209) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 海外体験型異文化コミュニケーション I Study Abroad:Communicating Across Cultures I	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ebaG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Ef	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 夏季休暇中、現地（台湾）研修の予定。滞在期間はおよそ2週間。			
授業の概要 本授業は海外異文化体験の入門編です。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。授業では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士とディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回（2012年～2016年）まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。今年（2019年）で、台湾での研修は3回目となります。			
授業の目的 本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準 海外研修での参加：40% 帰国後のレポート提出：40% 発表会への参加：20% 授業・演習・発表・ガイダンス等、関連する全てに関して、出席が必要です。一つでも不参加の場合は、単位を認定できなくなることがあるので注意してください。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
本学での事前学習 (1) ガイダンスとイントロダクション、授業の説明及び確認、授業登録等の手続き (2) 台湾に関する基本情報（宗教、祭り、産業、歴史、経済、社会等） (3) 中国語の講習会（講師は、本学に留学中の嘉義大学生） (4) 中国語の講習会（講師は、本学に留学中の嘉義大学生） (5) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習 (6) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習 (7) 出国手続き、危機管理に関する講習			
現地での研修（案） (8) 相見歡、校園巡禮 (9) 華語課程、課外研修（虫の博物館） (10) 華語課程、課外研修（ヒノキ公園、嘉義公園） (11) 華語課程、課外研修（孔子寺、市民朝市場） (12) 華語課程、課外研修（パインアップル・柚子の工場） (13) プレゼンテーション、送別会			
帰国後、学内で (14) 成果発表会準備 (15) 成果発表会			
※渡航日は8月16日（金）頃の予定 現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用 嘉義大学生はバディーとして接してくれる			

教科書・参考書等

教材は授業中配布される。

オフィスアワー ロン： 火曜日 13：30～14：30 「南キャンパス 2 号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 13：30～14：30 「南キャンパス 2 号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 本授業は、海外体験型異文化コミュニケーションⅡと合わせて受講する必要があります。
- 受講生人数はおよそ20名までを想定。
- 海外研修費（為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円と想定）は自己負担。
- 台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーへ出席すること。
- 台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。
- 現地での宿泊：大学の施設
- プログラムの前後：台北での研修・見学あり。

ナンバリングコード B2THB-cexG-1N-Le2 授業科目名 (時間割コード:000210) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 知プラe科目 モラエスの徳島-グローバリズムと異邦人- Moraes's Tokushima(Globalism and People from Abroad)	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cexG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 宮崎 隆義	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人  ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め, ゆかりの場所を紹介しながら, 理解を深め, 同時に異文化理解というものを考える。			
授業の目的 グローバルという言葉が声高に叫ばれているが, その根底には越境ということがある。政治, 経済, 科学技術, 医療, 環境, 文化, 芸術など, ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで, 複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは, ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物, 芸術, 文化の往来と影響関係には長い歴史があるが, それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として, 徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは, 何回か日本にやってきた後に, 1899年から日本で暮らし, その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが, 軍人, 文人, 外交官として, その当時の日本を, 徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して, グローバリズムと異邦人ということを考えながら, 異文化の理解 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ということを考えてみたい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ, 異文化理解というものがどのようなものか, 現代のグローバリズムの中で考えてみることを目標とする。			
成績評価の方法と基準 毎回の簡単な感想と定期試験 (レポート) の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので, 毎回簡単な感想を提出してもらい, また, LMS上のアクセス履歴は, 出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに, 毎週定期的に教材にアクセスしないで, 定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合, 成績評価に反映する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 異邦人ということ</li> <li>3. モラエスの生涯</li> <li>4. モラエスの時代と同時代人ーラフカディオ・ハーン (小泉八雲)</li> <li>5. モラエスの時代と同時代人ージョーゼフ・コンラッド</li> <li>6. モラエス顕彰の概観ー戦前と戦後</li> <li>7. モラエスの著作</li> <li>8. 徳島のモラエス</li> <li>9. モラエスの徳島</li> <li>10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1</li> <li>11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2</li> <li>12. 『おヨネとコハル』1</li> <li>13. 『おヨネとコハル』2</li> <li>14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1</li> <li>15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2</li> <li>16. 定期試験 (レポート)</li> </ol>			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書1 書名 徳島の盆踊り

著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 ことのは文庫 出版年 2010年

※著者（著作権者）から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません

教科書2 書名 日本精神

I S B N 4-88202-379-2 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 1996年

参考書1 書名 おヨネとコハル

I S B N 4-88202-915-4 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 2004年

参考書2 書名 モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯

I S B N 4-88202-558-2 著者名 岡村多希子

出版社 彩流社 出版年 2000年

オフィスアワー e-mail:miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。

同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。

ナンバリングコード B2THB-caeG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000211) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society サーバント・リーダー養成入門 I Introduction to Servant Leader Training I 「地球未来創成入門」 Introduction to the Advanced Future Study	科目区分 主題科目	時間割 2Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 caeG	対象学生・特定プログラムとの対応 IN
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 早川 茂, 松村 幸江	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習			
授業の概要 「地域未来創成入門」を履修する 本授業は、持続性のある地球未来実現のため、ローカルかつグローバルに活躍できるサーバント・リーダー養成を目的とした日本・インドネシア6大学(SUIJI)農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、又は参加に興味ある学生を対象とする。 「地域未来創成入門」においては、一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける。			
授業の目的 グローバルな視野を持ちながら、未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける実践的教育を行う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
「地域未来創成入門」 ・自ら目指すサーバント・リーダーのあり方について説明することができる(意欲・関心・態度)・持続可能な地域と世界の現状について、自然・社会文化・経済の視点から説明できる(知識・思考)・一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明できる(思考・判断)・地域において学習・調査活動に持続的に関わることのできる対話方法と危機管理方法について説明できる(技能・表現)			
成績評価の方法と基準 成績評価の方法と基準 ・サーバントリーダーに要請される能力開発に対する到達目標を自ら設定し自己評価資料を作成する(30%) ・教員によるポートフォリオ総合評価(70%):授業進行に合わせて提出する成果物をもとに評価する			
授業計画並びに授業及び学習の方法 「地域未来創成入門」 第1回(対面講義) (1)サーバント・リーダー養成カリキュラムの概要 (2)持続可能な地域と世界の現状 (3)グループ討議 第2回(対面講義)かがわの食資源-野菜・果物 第3回(対面講義)かがわの食資源-オリーブ・希少糖 第4回(対面講義)世界(ASEAN諸国)の食資源+ゲストスピーカー講演1 第5回(対面講義)フードバリューチェーン+ゲストスピーカー講演2 第6回(対面講義)食資源による地域活性化 第7回 企業・官公庁・個人インタビュー 第8回 インタビューに基づくグループ発表・討論会 毎回の授業後、各自による授業の振り返り等に関するポートフォリオを作成する時間外学習を行う			
教科書・参考書等 関連プリント配布			
オフィスアワー オフィスアワー SUIJI推進室(農学部 DS301) 月～水曜日 10:00～16:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、及び参加に興味がある学生を対象とする。 保険については、学研災及び学研賠に加入すること。			

ナンバリングコード B2THB-ebxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000212) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 世界の言語と文化 Languages and culture of the World	科目区分 主題科目	時間割 4Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹 他	関連授業科目	外国語科目、古典語、言語学	
	履修推奨科目	英語および選択した初修外国語、古典語、言語学	
学習時間 講義90分×8回+自学自習			
授業の概要 世界のさまざまな地域について、その地域で用いられている多様な言語の構造や特徴にくわえ、背景となっている社会や文化について学ぶ。そのなかで異文化や未知の言語との出会いについて考察する。			
授業の目的 異文化や未知の言語との豊かな出会いとはなにかを考察する。香川大学の全学共通教育で現在開講されている言語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)をはじめとする世界の諸言語について、自分が学習している言語を含めて、その特徴、歴史、文化的背景などを学ぶことで、言語と異文化について理解が深まる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自分が学習している言語や自言語について理解できる。 2. 異文化や未知の言語についても広く理解できる。 3. 文化の背景にある言語とは何か、言語による文化とは何かについて深く考えることができる。 4. 異文化や未知の言語との出会いから、豊かな気づきを得ることができる			
成績評価の方法と基準 毎回レポート課題を設定する。それらの点数を単純合計し、成績を評価する。出席がない場合は原則としてレポート提出の権利を有しないものとする。レポートの未提出や提出遅れが3回以上ある場合は原則として0点とする。締め切りは授業の翌週の月曜日午後5時(月曜日が休日の場合は翌火曜日、提出先は修学支援グループの専用レポートボックス)。ただし、教員が個別に締め切りを設定する場合はそちらが優先される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 各講義の担当者とテーマは、以下の通り。予定(順序、担当者、タイトル)は変更となる場合があります。 1) 寺尾 徹 ガイダンス・インド亜大陸北東部の諸民族の言語と文化 2) 川端美都子 ラテンアメリカ 3) イアン・ウィリー World Englishes 4) 佐藤慶太 ヨーロッパ文化の源流—ラテン語の世界 5) 三宅岳史 フランス文化を歩く：革命からアートまで 6) 村山 聡 歴史の中のドイツ語圏とドイツ語を話す人々の世界 7) 高橋尚志 ヨークシャーの暮らし方 8) 寺尾 徹 まとめの授業 関心を幅広く持ち、講義で得た知識や発想をさらに広い範囲で自学し、週末にレポート作成をすること。授業で示される資料や参考書等をよく読み、自らの異文化や未知の言語と接した経験にも照らし合わせ、より広い事柄に触れる自学自習をすすめること。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。各回のテーマごとに参考書を紹介する。			
オフィスアワー 質問等がある場合は、授業直後ないし個別教員それぞれのオフィスアワーを利用すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席を取るので欠席しないこと。積極的な学習を期待する。 【備考】複数教員によるオムニバス形式。受講者数は120名を限度とする。			

ナンバリングコード B2THB-ecxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード:000213) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society 知プラe科目 外国人と四国遍路の歴史 The History of Foreigners and the Shikoku Pilgrimage	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 モートン 常慈	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】四国遍路、外国人、地域文化  四国遍路の1200年の歴史における外国人の歴史を細かく取り上げて、彼らが持っている四国遍路についての感想や思いを考察して、世界への四国遍路PR活動、そして、これからの課題 (例えば、世界遺産運動) を紹介する。			
授業の目的 この授業の目的は四国遍路の研究活動の中で、ほとんど調べたことがない外国人遍路の実態や歴史と今後の課題を知ってもらう (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ことです。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 外国人遍路の歴史を深く知ること。 2. 100年経っても四国遍路に関する感想が変わってないことを認識すること。 3. 今後の問題点か課題を理解して、解決方法を考えさせること。			
成績評価の方法と基準 8回分の小レポートを計60点満点、期末エッセイを40点満点で評価し、60点以上を合格とする。ただし小レポートの受験数が4回未満の場合、期末エッセイの提出資格を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、外国人遍路についての研究 2. 19世紀後期～20世紀初期 3. 20世紀初期～1960年代 4. 1960年代～2007年 5. 2007年～現在 6. 様々な問題 (Part 1) 7. その他の課題や問題 (Part2) 8. 巡礼道と世界遺産 9. 期末レポート  【授業時間外学習について】 各授業 (1～8) のビデオを見て、1000-1200字 (A4サイズ) の小レポートを提出する。 期末試験は2400字以上 (A4サイズ) のエッセイまたは調査報告を提出する。(授業で扱った1つのテーマについて) *フォントサイズを12、行間を1.5にしてください。  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 参考書1 書名 巡礼の歴史と現在—四国遍路と世界の巡礼 I S B N 978-4-87294-828-8 著者名 愛媛大「四国遍路と世界の巡礼」研究会 出版社 岩田書店 出版年 2013 金額 7900円 備考 モートン常慈・P109-126 「西洋人の目で見えた四国遍路—大正時代から昭和初期まで—」  参考書2 書名 同行二人の遍路—四国八十八ヶ所霊場 I S B N 978-4-8046-1334-5 著者名 佐藤久光 (訳) 出版社 大法輪閣 出版年 2012 金額 2000円			

参考書3 書名 回遊型巡礼の道・四国遍路を世界遺産に

I S B N 978-4-9070832-44-1 著者名 五十嵐敬喜、岩崎邦男等

出版社 ブックエンド 出版年 2017年11月

金額 1800円+税

備考 モートン常慈・ p106-118 「四国遍路の魅力を世界に伝えた西洋人・オリバー・スタットラーの功績を中心に」

オフィスアワー 電子メール (moreton@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。

ナンバリングコード B2THB-bexG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000214) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望A Music Festivals in Europe A	科目区分 主題科目	時間割 3Q月1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bexG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目	芸術A	
	履修推奨科目	芸術A	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要 ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Aで取り上げるのは、ヴェローナ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭である。			
授業の目的 ヨーロッパの音楽芸術(特にオペラ)への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
ヴェローナ、ザルツブルク、ブレゲンツの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニなどの有名なオペラの概要を知ることができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまたま実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ヴェローナ音楽祭(1) 第2回 ヴェローナ音楽祭(2) 第3回 ブレゲンツ音楽祭(1) 第4回 ブレゲンツ音楽祭(2) 第5回 ザルツブルク音楽祭(1) 第6回 ザルツブルク音楽祭(2) 第7回 ザルツブルク音楽祭(3) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 授業中に紹介するのは、長大なオペラのごく一部なので、図書館に所蔵されている DVD BOOK なども利用して作品を鑑賞して欲しい。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THB-bexG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000215) 主題B-2「グローバル社会と異文化世界」 Cross-Cultural Understanding in a Global Society ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望B Music Festivals in Europe B	科目区分 主題科目	時間割 4Q月1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bexG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目	芸術A	
	履修推奨科目	芸術A	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Bで取り上げるのは、ワーグナーが創設したバイロイト音楽祭である。			
<b>授業の目的</b> ヨーロッパの音楽芸術（特にオペラ）への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
ワーグナーの聖地として知られるバイロイトの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 ワーグナーのオペラの概要を知ることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の成績が評価の中心となるが(約90%)、ミニレポートもたまたまに実施する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 バイロイト音楽祭(1) 第2回 バイロイト音楽祭(2) 第3回 バイロイト音楽祭(3) 第4回 バイロイト音楽祭(4) 第5回 バイロイト音楽祭(5) 第6回 バイロイト音楽祭(6) 第7回 バイロイト音楽祭(7) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 授業中に紹介するのは、長大なオペラのごく一部なので、図書館に所蔵されている DVD BOOK なども利用して作品を鑑賞して欲しい。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日1時限目、またはメール等での相談。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000301) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 障害があるとはどういうことか?—コミュニケーションの視点から— What is disability?	科目区分 主題科目	時間割 1Q月1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 坂井 聡	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> キーワード 障害 この授業では、21世紀社会の諸課題として、コミュニケーションと障害について取り上げます。教育現場では、インクルーシブ教育、多様性の理解など、今後解決していかなければならない教育的課題が多くあります。しかし、障害のある人といっても、どのような人のことなのか。多様性と言われてもどのような多様なものかわかりません。その結果、理解できないまま多くの人たちが社会へ出ていくこととなります。そもそも障害とは何なのでしょう。どうすれば多様性を受け入れられるのでしょうか。どうすれば寛容になれるのでしょうか。本授業では、障害、コミュニケーションと自己、そして社会を関連付けながら、自分の障害観と向き合い、新しい社会の創造に向けて自分ができるのかについて探求してもらいます。			
<b>授業の目的</b> 21世紀の社会の課題は、多様性をどのように受け入れるのかということである。やまゆり園の事件のように、障害のある人たちを排除しようとする動きもある。そこで、本授業では、新しい障害観について知り、新しい寛容な社会を形成していくためにどのようなことができるのか探求する。その際に、コミュニケーションという切り口から考える。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 障害とは何かについて、自己と社会と関連づけながら説明することができる。 2. 自分の主張をわかりやすく記述することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 討議に参加した際のミニレポート35%、最終のレポート65%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 インTRODクション：障害とは何か？ 第2週 発達障害と特別支援教育 第3週 発達障害のある人とのコミュニケーション①：メッセージの送信 第4週 発達障害のある人とのコミュニケーション②：メッセージの受信 第5週 発達障害のある人とのコミュニケーション③：コミュニケーション手段 第6週 発達障害のある人とのコミュニケーション④：コミュニケーションのルール 第7週 発達障害のある人とのコミュニケーション⑤：コミュニケーションの評価と文脈 第8週 まとめ（45分間授業）  <b>【授業及び学習の方法】</b> 講義のあとグループで討議してもらいます。討議の内容をもとに、毎回ミニレポートを提出してもらいます。討議に参加できるように、事前準備を行ってください。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 教科書と関連する文献等も参考にして、講義に臨むことが大切です。			
<b>教科書・参考書等</b> コミュニケーションのための10のコツ 坂井聡 エンパワメント研究所 1500円＋税 (参考書) コミュニケーションのための10のアイデア エンパワメント研究所 1400円＋税			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日2時間目 北キャンパス8号館2階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 障害者差別につながる討議、またレポートになることがないように、その内容について十分に検討すること。特別な配慮が必要な学生は、遠慮することなく申し出ること			

ナンバリングコード B2THB-cabG-10-Eg1 授業科目名 (時間割コード:000302) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 「教育」と「情報/ICT」について考えよう Trying to investigate "Education" and "Information/ICT" ～「伝える・伝え合う」ために大切な要素を捉え、実践しよう～	科目区分 主題科目	時間割 2Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cabG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 松下 幸司	関連授業科目	教育の方法と技術 (教職科目)	
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 7.5回 + 自学自習			
授業の概要 【教育、ICT】教育現場でのICT環境整備・活用が進められている現在。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え分析的に整理した上で、情報伝達プレゼン作成を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。			
授業の目的 教育の営みの核は「伝えること」「伝え合うこと」とも言える。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え、グループワーク等で分析的に整理する。成果をふまえ、情報伝達プレゼン作成を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応。)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1)ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考えることができる。 (2)ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、グループワーク等で分析的に整理することができる。 (3)上記(1)(2)の成果をふまえ、見出した大切な要素を活かして、情報伝達プレゼン作成ならびにプレゼンテーションを行うことができる。 (4)上記(1)～(3)の学習活動過程において適切な自己評価・相互評価を行い、さらに自己を磨き高めようとする姿勢を持つことができる。			
成績評価の方法と基準 毎時間の個人の成果まとめ(ワークシート)+グループワーク等の成果物、最終成果物(情報伝達プレゼン+レポート)に加え、授業に参加する積極的姿勢を総合して判定する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義形式だけでなく、演習・実習を軸に授業をすすめます。受講生の授業時間外における主体的な学習を促すための自主課題を求めます(詳細は該当授業時に説明の予定)。  (1前半)オリエンテーション  (以下、概要予定。受講生とのコミュニケーションをもとに授業をすすめます。)  (1後半+2前半) [1]文字や文について考えよう。 (2後半+3前半) [2]図表について考えよう。 (3後半+4前半) [3]イラストについて考えよう。 (4後半+5前半) [4]写真について考えよう。 (5後半+6前半) [5]音や動きについて考えよう。 (6後半+7前半) 最終課題の計画と作成 (7後半+8前半) 最終課題プレゼン発表会 (8後半) まとめ・最終課題について			
教科書・参考書等 必要に応じて、講義中に示します。			
オフィスアワー 連絡が必要な場合は、教育学部附属教職支援開発センター裏階段をのぼり2階にある松下ポストにメッセージを投函し申し出てください。【注:平成30年度より連絡方法変更の可能性があります。追って周知します。】			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業への出席はもちろんのこと、主体的・積極的に「情報を伝える・伝え合うために大切な要素」について分析的に考え、他受講生と協働して問題解決しようとする姿勢と、積極的な授業参加を期待します。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000303) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 自己形成と他者をめぐる問題 Educational philosophy of self-formation	科目区分 主題科目	時間割 4Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 櫻井 佳樹	関連授業科目	教育原論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 自己形成 自己形成とは生きることそのものです。見通しがたい21世紀社会において、我々はいかに生きていくべきか。混迷する社会において、人が生きる上で、紛れもなく重要な役割を果たすのは、「自己」それ自体でしょう。さてこの「自己」とはいったい何なのか。自己は単数なのか、複数なのか。いかに自己は形成されるのか。「汝自身を知れ。」これは哲学の最も根本的な指令でしょう。本授業では、あまりに自明であるがゆえに問うことの少ない「自己」の謎を自己形成と他者の視点から考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 本授業は、「自己形成と他者」をめぐる諸問題について教育哲学的に捉える視点を養うことを目的としています。自己形成と他者をめぐる問題は、哲学、心理学、社会学、教育学等、様々な観点からアプローチ可能です。本授業を通して、当該の問題に対する諸学の理論や考え方を理解する（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）と共に、それらを用いて様々な視点から総合的（教育哲学的）に問題の解決策を提示できるようになることを目的とします（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自己形成と他者をめぐる問題の解決のために何が必要とされるのか、自己と関連づけながら説明することができる。 2. 自分の主張をわかりやすく記述することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小レポート40% 最終レポート60%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション：自己と向き合う 第2回 成長する自己とそれを支える他者 第3回 経験について、陶冶について 第4回 社会からの役割取得 第5回 自己と他者の相互作用(コミュニケーション) 第6回 演技する自己 第7回 苦悩する自己 第8回 まとめ：自己形成の勧め（45分間授業）  <b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は講義中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。毎回授業で考えたこと、疑問に思ったことを小レポートにまとめ、提出します。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 下記教科書の当該箇所を通読しておくこと、また取り上げる人物について調べておくこと。 第1回：第1章 「自分とは何か」－「自我の社会学」の課題 (ヘーゲル) 第2回： (フロイト、エリクソン、コールバーグ、ルソー) 第3回： (森有正、デューイ、ボルノウ、フンボルト) 第4回：第2章 「鏡に映った自我」－鏡としての他者、 (クーリー) 第5章 「自我の形成」－役割取得 (ミード) 第5回：第3章 自己と他者－自我の社会性 (木村敏、西田幾多郎、ジンメル、ルーマン) 第4章 「他者」の二つのタイプ－「親密な他者」と「疎遠な他者」(ブーバー、ハーバーマス) 第6回：第12章 演じる自我/装う自我－「印象操作」 (ゴフマン、ホックシールド) 第13章 他者の期待から離れる自我－「役割距離」 第7回： (フロム、キルケゴール、ヴァン・デン・ベルク) 第8回 (石田春夫)			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：船津衛著（2011）『自分とは何か－「自我の社会学」入門』恒星厚生閣。 参考書等は授業中に適宜紹介します。			

オフィスアワー 金曜日2時限目(10:30-12:00) 教育学部8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。無断欠席、遅刻厳禁。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000304) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 組織コミュニケーションA Organizations and communication A	科目区分 主題科目	時間割 4Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 吉澤康代	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> コミュニケーションの心得 この授業は、組織において重要な要素の「コミュニケーション」について多面的に捉える視点を養うことを目的とします。主に「個人」の視点に立ったコミュニケーションについて取り上げます。「基本的な理論（組織行動、産業・組織心理）」「ケース討議」「グループワーク」を通じて、組織や社会の様々な関係性において、個人が身につけておくべき「コミュニケーションの心得」を学びます。			
<b>授業の目的</b> 組織の重要な構成要素である「コミュニケーション」について、主に「個人」の視点から、コミュニケーションの特性、スタイル、課題、可能性などを理解するとともに、組織や社会の様々な関係性における多様な価値観、モチベーションのあり方について学びます。将来組織や社会で活躍するにあたり、個人のコミュニケーションがもたらす諸課題の発見、解決に取り組めるようになることを目的としています（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 個人のコミュニケーションについて、そのスタイルや癖について理解することができる。 2. 組織や社会における多様な価値観、モチベーションのあり方について理解することができる。 3. 組織や社会の様々な関係性において求められる「自己理解」と「他者理解」を身につけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業へのコミット（発言など積極的な参加態度） 40% レポート 30% 期末試験 30% ※ 以上を総合的に評価し、60%以上を合格とします。ただし、出席は3回取りますが、そのうち「2回以上の出席」、「レポートの提出」と「期末試験への出席」が全て満たされないと評価対象になりません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>第1回（12月3日） イントロダクション</b> 個人にとっての「コミュニケーション」について説明し、「授業内容（授業の進め方、全体の構成・概要、評価方法など）」を共有します。「コミュニケーション」についてこれまでの経験を振り返りグループ共有・全体共有をします。			
<b>第2回（12月10日） 対人認知とコミュニケーション</b> 円滑なコミュニケーションが機能しない背景や問題について、対人認知の点から検討します。			
<b>第3回（12月17日） パーソナリティとコミュニケーションのスタイル</b> なぜコミュニケーションがうまくいかないのか、パーソナリティや自分のスタイルと他者のスタイルの違いなどから検討します。			
<b>第4回（12月24日） パーソナリティとコミュニケーションのスタイル</b> なぜコミュニケーションがうまくいかないのか、パーソナリティや自分のスタイルと他者のスタイルの違いなどから検討します。 ※ 第5回で使う「ライフキャリアチャート」（宿題）を配布します。「ライフキャリアチャート」では、これまでのポジティブ体験、ネガティブ体験について自己分析します。			
<b>【レポート】「課題」「提出方法」「締め切り」などは後日お知らせします。（締め切りは1月末を予定）</b> ※ レポートは「締め切り」「字数」が守られていないものは減点となります。課題に適切に応える内容でない場合、論述形式で記述されていないものは減点されます。「引用（参考文献の記載が必要）」ではなく、他の既存文献を複写したものは評価対象になりません。			
<b>第5回（1月21日） 多様なモチベーションのあり方</b> 「ライフキャリアチャート」を使ったグループワークを行います。第4回に配布した「ライフキャリアチャート」に宿題として指示された内容を記入し、授業当日必ず持参して下さい。グループワークを通じて、多様なモチベーションのあり方について理解を深めます。			

第6回（1月28日） モチベーションの理論とこれから

組織は多様な「人」で構成され、それぞれの人の「やる気」「モチベーション」もさまざまです。モチベーションの理論を理解し、「モチベーション管理」と「モチベーション開発」について議論します。

第7回（2月4日） ダイバーシティとコミュニケーション

組織や社会で進められている「ダイバーシティ」について基本概念を整理し、多様な「働き方」「モチベーション」「コミュニケーション」のあり方について議論します。

第8回（2月18日） 期末試験+まとめ

授業冒頭で期末試験を行います。その後、まとめの授業と全体を通じた質疑に応えます。

※ 以上の計画は、履修者（人数、関心テーマ）や進捗状況、内容の理解度などによって変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しませんが、参考文献などは適宜お伝えします。

パーソナリティ診断質問紙に1620円かかる場合があります。

オフィスアワー オフィスアワー：電子メールにて随時受け付けます。

研究室：南3号館2階

e-mail：yoshizawa@gsm.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修者数によって授業方法を多少変更する可能性があります。

卒業して職場に入った頃に思い出されるような内容の授業です。

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード： 0003041) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 知プラe科目 コンピュータと教育 その1 Computers in Education first period	科目区分 主題科目	時間割 1Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目	コンピュータと教育 その2	
	履修推奨科目	なし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム  近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。なお、7,8回目は教育システム研究などの動向により予定と異なる内容になる場合がある。			
授業の目的 ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけでなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 教育・学習方法の概要を説明できる。 (2) (1) を支える情報通信技術を説明できる。 (3) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか概説できる。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回：各最高10点) と最終課題 (1回：最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回目：講義ガイダンス：「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか？ 第2回目：e-Learningでいかに学ぶか？ 第3回目：遠隔講義でいかに学ぶか？ 第4回目：ICTを活用した教育・学習支援 (1)：CAI(Computer Assisted Instruction)概説 第5回目：ICTを活用した教育・学習支援 (2)：CAIシステムの歴史と新しい教育システム 第6回目：ICTを活用した教育・学習支援 (3)：知的CAI概説 第7回目：トピックス： 四国におけるe-Learningによる教育連携 第8回目：トピックス：MOOCs  ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。  【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。  e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 なし			

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのもの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

**【注意】**平成30年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード： 0003042) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 知プラe科目 コンピュータと教育 その2 Computers in Education second period	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目	コンピュータと教育 その1	
	履修推奨科目	なし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム  近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。			
<b>授業の目的</b> ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか説明できる。 (2) 支援システムの活用事例などを説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 各回の課題 (8回：各最高10点) と最終課題 (1回：最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回目：講義ガイダンス：「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか？ 第2回目：教育・学習支援システム (1)：フレーム型システム 第3回目：教育・学習支援システム (2)：ドリル&プラクティス型CAIシステム 第4回目：教育・学習支援システム (3)：ゲーム&シミュレーション型システム 第5回目：教育・学習支援システム (4)：アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム 第6回目：高度教育・学習支援システム (1)：知的CAIシステム 第7回目：高度教育・学習支援システム (2)：いろいろな高度教育システム 第8回目：高度教育・学習支援システム (3)：協調学習支援システム  ※上記に加えて最終課題がありますのでご注意ください。  <b>【学習の方法】</b> e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。  e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> なし			

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのもの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

**【注意】**平成30年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000305) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 知プラe科目 学校教員の世界 School Teacher's World	科目区分 主題科目	時間割 前期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 竹口 幸志, 宮下 晃一	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> (1) 教員養成, (2) 学校教員, (3) 学校教員としての資質・能力, (4) 教員採用  キャリア教育の一環として, 様々な学部で学ぶ学生に対して学校教員という職業の魅力や課題を伝え, 学生が自らの将来設計のために大学で何を学ぶべきかに気付くための機会を提供します。			
<b>授業の目的</b> 本講義は, 学校教員の仕事の内容, 学校教員と子どものかかわり, 学校教員としての自己研鑽, 授業の様子などを取り上げ, 学校教員になるために今何をすべきかについて考えを深めます (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 教員という仕事を理解する。 2. 教員の責任を理解する。 3. 教職の専門性を理解する。 4. 教員の授業研究や自己研鑽を理解する。 5. 自己のキャリア形成について主体的かつ具体的に考えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 成績評価の方法: レポート, 討論, 試験 成績評価の観点: レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力), 討論 (学びあい, 助け合い), 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等)。 成績評価の基準: レポート (40%), 討論 (30%), 試験 (30%)  注1: 各授業回に設置された動画はすべて視聴してください。動画を視聴せず, 課題 (レポート, 討論, 試験を含む) のみを提出した場合は授業を視聴していないものと判断し, 提出された課題 (レポート, 討論, 試験を含む) は採点の対象外 (加点しない) となります。 注2: 指定された期日を過ぎて課題 (レポート, 討論, 試験を含む) を提出した場合, 提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期日内に提出してください。 注3: レポート, 討論, 試験等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合, 当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注4: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが, 内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション 第2回 学校教員になるための準備 第3回 学校教員と子どもの取り組みについて 第4回 学校教員の自己研鑽 第5回 学校教員と家庭の両立 第6回 教科教育学 数学教育の今と今後 第7回 養護教諭の世界 第8回 特別支援学校における試み 第9回 教科教育学 保健体育の授業 第10回 教科教育学 外国語 (英語) の授業 第11回 教科教育学 音楽の授業 第12回 教科教育学 技術家庭科の授業 第13回 幼稚園教諭の1日 第14回 比較教育 他国の教育と日本の教育 第15回 まとめ  <b>【授業時間外学習について】</b> 学習習慣の定着と学習理解の促進のため, 予習と復習を勧めます。  <b>【受講の条件】</b> e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので, 操作に不安がある場			

合は、所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。  
なお、本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

**【受講期間】**

受講期間を設けます。受講期間は、受講生が所属する大学の成績判定メ契に応じて設定します。開講時に教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を十分に確認して受講してください。

**【e-Learning科目の履修登録に際して】**

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

**教科書・参考書等**

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー ・特に設けない。電子メール（[ktakeguchi@naruto-u.ac.jp](mailto:ktakeguchi@naruto-u.ac.jp)）で問い合わせてください。

- ・【教務に関する質問事項】は、所属大学の教務に問い合わせてください。
- ・【技術的トラブル】は、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

**【受講の辞退について】**

受講調整期間中または履修取消期間中に所属大学 教務で手続きしてください。手続きが行われない場合、受講者として捉え、受講督促を行う場合があります。

**【禁止事項について】**

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

**【連絡先】**

（竹口）Mail: [ktakeguchi@naruto-u.ac.jp](mailto:ktakeguchi@naruto-u.ac.jp)

（宮下）Mail: [miyasita@naruto-u.ac.jp](mailto:miyasita@naruto-u.ac.jp)

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード:000306) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 知プラe科目 大学教育を考える Thinking on University Education	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 吉田 博	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント (FD)  大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。			
<b>授業の目的</b> 大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の大学教育の現状(背景・課題)を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のクイズ(15点)、毎回の小レポート提出(15点)、他者のレポートへのコメント(15点)、コメントに対する返信(15点)、期末レポート(40点)の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。 ※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信(60点配点)については、次のように確認します。吉田担当の授業(1,4,6,7,8,9,12回)の小テスト、小レポート、コメント等(28点配点)は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業(2,3,5,10,11,13,14,15回)は、小テスト、小レポート、コメント等(32点配点)は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。 ※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。 ※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。 ※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 1. ガイダンス, 大学生へのメッセージ (吉田・久保田) 2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田) 3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田) 4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田) 5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田) 6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田) 7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田) 8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田) 9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田) 10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田) 11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田) 12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田) 13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田) 14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田) 15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田) 16. 定期試験(レポート) ※担当講師: 吉田 博 (徳島大学総合教育センター) 久保田祐歌 (関西福祉科学大学社会福祉学部)			

**【e-Learning科目の履修登録に際して】**

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー      hiroschi-yoshida @tokushima-u.ac.jp

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000307) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 知プラe科目 高度情報化社会の歩き方 Way of Walking on Advanced Information Society	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 後藤田 中, 藤本 憲市	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 高度情報化社会 高度情報化に伴い、我々の身の回りの社会環境は、益々創造的で豊かになっている。AIやIoTといったテクノロジーが進化し、我々の生活に溶け込み、“便利な”サービスの根幹をなし始めている。一方で我々の生活が豊かになる反面、見落としがちな諸問題も生まれ始めている。この授業では、高度情報化社会に伴う我々の社会環境における現在、そして今後の予測に対し、光と影、それぞれの一端を紹介し、人と情報がどのように接すれば、より豊かな生活を実現できるか学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 高度情報化社会の特徴としてみられる、様々なテクノロジーの特徴を知識として獲得し、そのテクノロジーから生まれるサービスの利用例、また注意すべき点を理解すること（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）が本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
以下の項目を説明できる。 1. AIがもたらす可能性と社会的諸問題（例：人の雇用、著作権） 2. IoTにより、ネットワークにつながる便利さと注意点（例：セキュリティ）			
<b>成績評価の方法と基準</b> 7回の小テスト(50点)と期末レポート(50点)により評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの提出回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. 人工知能による創作 2. 著作物の円滑な利用について 3. AIにより置き換わる仕事・進化する体 4. 広がるIoT・迫るセキュリティ脅威 5. スポーツにICTを適用する 6. 暗号とセキュリティ 7. 学習するコンピュータ 8. 期末レポート  <b>【授業時間外学習にかかわる情報】</b> e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を確認するためのレポートを課しています。ビデオ視聴だけでなく、自ら調査を行い、レポート内容にも反映してください。  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講人数制限があるので注意すること。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない			
<b>オフィスアワー</b> 担当回教員の電子メールを利用し、随時問い合わせてください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000308) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 組織コミュニケーションB Organizations and communication B	科目区分 主題科目	時間割 4Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 吉澤康代	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 組織におけるコミュニケーション この授業は、組織において重要な要素の「コミュニケーション」について多面的に捉える視点を養うことを目的とします。主に「組織」の視点に立ったコミュニケーションについて取り上げます。「基本的な理論（組織行動、産業・組織心理）」「ケース討議」「グループワーク」を通じて、組織や社会の様々な関係性において、コミュニケーションがもたらす組織的な課題にどのように取り組むべきかを学びます。			
<b>授業の目的</b> 組織の重要な構成要素である「コミュニケーション」は、様々な形で組織を機能させる一方、機能不全をもたらすこともあります。組織におけるコミュニケーションのタイプやその重要性、集団ダイナミズム、組織風土、リーダーシップなどを理解するとともに、組織を率いることについて学びます。将来組織や社会で活躍するにあたり、コミュニケーションがもたらす組織的な課題の発見、解決に取り組めるようになることを目的としています（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 組織におけるコミュニケーションについて、その特性、機能、課題について理解することができる。 2. 組織を率いる際のコミュニケーションの重要さと困難さを理解することができる。 3. 今後の組織や社会におけるコミュニケーションのあり方について、自分の考えや意見をまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業へのコミット（発言など積極的な参加態度） 40% レポート 30% 期末試験 30% ※ 以上を総合的に評価し、60%以上を合格とします。ただし、出席は3回取りますが、そのうち「2回以上の出席」、「レポートの提出」と「期末試験への出席」が全て満たされないと評価対象になりません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>第1回（12月3日） 組織にとってのコミュニケーション</b> 「授業内容（授業の進め方、全体の構成・概要、評価方法など）」を共有します。組織における「コミュニケーション」のタイプとその重要性について説明し、職場における上司（先輩）、部下（後輩）、中間管理職の関係や役割について議論します。			
<b>第2回（12月10日） 集団ダイナミクス</b> 集団や組織がうまく機能しなくなる諸問題とその要因について理解を深めます。			
<b>第3回（12月17日） 個人と組織の調和 ～ 組織への適応 ～</b> 「朱に交われば赤くなる」と言いますが、組織に入るとそこに「馴染む」「適応する」というプロセスが起こります。新入社員が経験する「組織社会化」「リアリティショック」について説明し、「ジョブマッチング」「適材適所」について議論します。			
<b>第4回（12月24日） 組織風土と組織活性化</b> 組織メンバーの態度や行動に影響を与えたり、逆にその態度や行動を特徴づける組織風土について理解を深め、組織が活性化し、成長し続ける要因について考えます。			
<b>第5回（1月21日） リーダーとリーダーシップ</b> リーダーとリーダーシップは何が違うのでしょうか。リーダーの取るべき行動、リーダーシップのスタイルについて議論します。			
<b>第6回（1月28日） 個人、組織、社会とコミュニケーション</b> グループに分かれて「ケース討議」をします。			
<b>第7回（2月4日） 個人、組織、社会とコミュニケーション</b> 前回の「ケース討議」についてグループごとに発表を行い、全体で討議を行います。			

【レポート】「課題」「提出方法」「締め切り」などは後日お知らせします。(締め切りは2月下旬を予定)  
※ レポートは「締め切り」「字数」が守られていないものは減点となります。課題に適切に応える内容でない場合、論述形式で記述されていないものは減点されます。「引用(参考文献の記載が必要)」ではなく、他の既存文献を複写したものは評価対象になりません。

第8回(2月18日) 期末試験+まとめ  
授業冒頭で期末試験を行います。その後、まとめの授業と全体を通じた質疑に応えます。

※ 以上の計画は、履修者(人数、関心テーマ)や進捗状況、内容の理解度などによって変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しませんが、参考文献などは適宜お伝えします。  
授業で使用する「ケース」は数百円の予定です。

オフィスアワー オフィスアワー：電子メールにて随時受け付けます。

研究室：南3号館2階

e-mail：yoshizawa@gsm.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修者数によって授業方法を多少変更する可能性があります。  
卒業して職場に入った頃に思い出されるような内容の授業です。

ナンバリングコード B2THB-bcaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000309) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 消費者行動とマーケティング・コミュニケーションA Consumer Behavior and Marketing Communication A	科目区分 主題科目	時間割 3Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 関 庚炫	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+45分×1回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】消費者行動、マーケティング、マーケティング・コミュニケーション 本講義では、消費者行動とマーケティング・コミュニケーションに関わる基本的な考え方について学ぶ。特に毎回、市場環境における多様な環境変数に関連するトピックをとりあげ、それぞれ消費者心理・消費者行動を中心テーマとして捉えつつ分析を行うことで、与えられた環境や状況に応じたコミュニケーション戦略の立案過程に関する理解を深めていくための解説及びディスカッションを行う。			
授業の目的 本講義は、21世紀社会、とりわけビジネス領域に求められているマーケティング・プロセスにおける諸問題の解法に関する理解を促すと同時に、講義や文献に基づき、単に基礎理論を習得するだけではなく、実際のケースを競争環境と消費者心理に基づき考察することで、市場環境の変化に応じたマーケティング・コミュニケーション戦略の立案過程に関するロジックを習得することを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングの基本概念を習得することができる。 2. マーケティング・コミュニケーションに関する主要概念を習得することができる。 3. 消費者行動・消費者心理に関する主要概念を習得することができる。 4. 消費者行動モデルを活用したコミュニケーション戦略の立案方法を習得する基礎が築ける。			
成績評価の方法と基準 授業参加度(出席・発言・課題等)50%、テスト(50%)により評価を行う。なお、これらを総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>&lt;マーケティング・プロセスとコミュニケーション戦略&gt;</p> <p>第1週 マーケティングの基礎知識①: マーケティング・プロセスの概要 第2週 マーケティングの基礎知識②: 消費者ニーズの把握と差別化要因の抽出 第3週 マーケティング・コミュニケーションの基礎知識: 消費者行動と統合型マーケティング・コミュニケーション(IMC)の概要</p> <p>&lt;個別戦略とマーケティング・コミュニケーションの関係&gt;</p> <p>第4週 商品情報の操作①: 消費者とのコミュニケーションに基づいた商品開発戦略 第5週 商品情報の操作②: 機能的価値・情緒的価値の管理とブランディング 第6週 価格ポジショニング①: 価格戦略と価格設定要因の理解 第7週 価格ポジショニング②: 消費者の認知構造と価格戦略 第8週 テスト(45分間)</p> <p>&lt;自学自習に関するアドバイス&gt;</p> <p>第2週～第3週 前回の授業で紹介した関連資料を読む。 第4週～第7週 毎回の授業の後半で提示する課題に関連する身近な事例を調べ、ディスカッションでの発言内容を整理する。</p>			
教科書・参考書等 教科書は特になし(テーマごとにプリントを配布する)。 参考書についても授業中、適宜紹介する。			
オフィスアワー 水曜日・金曜日を除き、13:30～17:00. 幸町キャンパス南7号館3階.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業はできるだけ分かりやすく進める予定。 毎回、出席確認を兼ねたコメントシートを提出してもらいます。 また、平成30年度以前の科目「消費者行動とマーケティング・コミュニケーション その1(その2)」と内容が同じであるため、すでにこの科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-bcaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000310) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 消費者行動とマーケティング・コミュニケーションB Consumer Behavior and Marketing Communication B	科目区分 主題科目	時間割 4Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 関 庚炫	関連授業科目	消費者行動とマーケティング・コミュニケーションA	
	履修推奨科目	消費者行動とマーケティング・コミュニケーションA	
学習時間 授業90分×7回+45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 消費者行動、マーケティング、マーケティング・コミュニケーション 本講義では、消費者行動とマーケティング・コミュニケーションに関わる基本的な考え方について学ぶ。特に毎回、市場環境における多種多様な環境変数に関連するトピックをとりあげ、それぞれ消費者心理・消費者行動を中心テーマとして捉えつつ分析を行うことで、与えられた環境や状況に応じたコミュニケーション戦略の立案過程に関する理解を深めていくための解説及びディスカッションを行う。			
<b>授業の目的</b> 本講義は、21世紀社会、とりわけビジネス領域に求められているマーケティング・プロセスにおける諸問題の解法に関する理解を促すと同時に、講義や文献に基づき、単に基礎理論を習得するだけではなく、実際のケースを競争環境と消費者心理に基づき考察することで、市場環境の変化に応じたマーケティング・コミュニケーション戦略の立案過程に関するロジックを習得することを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングの基本概念を習得することができる。 2. マーケティング・コミュニケーションに関する主要概念を習得することができる。 3. 消費者行動・消費者心理に関する主要概念を習得することができる。 4. 消費者行動モデルを活用したコミュニケーション戦略の立案方法を習得する基礎が築ける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業参加度(出席・発言・課題等)50%、テスト50%により評価を行う。なお、これらを総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <個別戦略とマーケティング・コミュニケーションの関係> 第1週 チャンネル管理①: 消費者行動と流通チャンネルの選択・管理 第2週 チャンネル管理②: 空間心理学に基づいた店内コミュニケーション戦略 第3週 クリエイティブ戦略①: 消費を促すクリエイティブ・アイデア 第4週 クリエイティブ戦略②: 消費者の行動形態とメディア戦略 第5週 クリエイティブ戦略③: コミュニケーション戦略の効果測定 第6週 戦略立案ツール: ポジショニング戦略とポジショニングマップ <総括> 第7週 マーケティング・コミュニケーションにおける差別化要因の再考察 第8週 期末テスト(45分間) <自学自習に関するアドバイス> 第1週・第5週 前回の授業で紹介した関連資料を読む。 第2週～第4週・第6週～第7週 毎回の授業の後半で提示する課題に関連する身近な事例を調べ、ディスカッションでの発言内容を整理する。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は特になし(テーマごとにプリントを配布する)。 参考書についても授業中、適宜紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日・金曜日を除き、13:30～17:00。幸町キャンパス南7号館3階。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業はできるだけ分かりやすく進める予定。 毎回、出席確認を兼ねたコメントシートを提出してもらいます。 関連性の高い科目として「消費者行動とマーケティング・コミュニケーションA」の先行履修が望ましい。 また、平成30年度以前の科目「消費者行動とマーケティング・コミュニケーション (その1) その2」と内容が同じであるため、すでにこの科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000311) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 組織経営と会計 (Introduction to Accounting for Management)	科目区分 主題科目	時間割 4Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 中村 正伸	関連授業科目	会計学, 会計学総論, 原価会計論, 管理会計論	
	履修推奨科目	経営学, 経営学入門, 経営学原理	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 組織経営  組織経営のために必要な会計を学ぶための授業です。 組織において会計はどんな役割を担っているのか、これまでと、今、将来で、その役割は変わってきているのか、そのようなことを考えていく授業です。 そのために、経営とは何かを考えた上で、会計の基本的な概念・技法を学習し、経営の現場でどのように実践されているかについて考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 会計について、 ①：なぜそもそも組織経営に必要なのか、どのように役立つのかを理解し ②：基礎知識、技法を身につけ、 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)、 ③：①②を踏まえ、具体的な組織を題材に、実践できることを目指します。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<b>授業の目的を達成するために、以下の達成を目指します。</b> ①会計が前提としてきた組織の構造、そこで必要とされてきた経営を理解した上で、会計がどんな役割を果たしてきたのかを説明できる ②実組織を題材に、収益性、安定性等について、分析できる			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート50%, 平常点(出席および授業への貢献) 50%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>[授業計画]</b> 第1回 インTRODクシヨン: 授業の進め方, 受講にあたっての注意点の説明、組織経営と会計① 第2回 組織経営と会計②、会計制度の仕組み① 第3回 会計制度の仕組み②、財務諸表の役割① 第4回 財務諸表の役割②、流動資産・固定資産 第5回 純資産・負債、収益・費用 第6回 経営と予算管理① 第7回 経営と予算管理② 第8回 まとめ(45分授業)  ※履修人数にもよるが、グループを作ったのディスカッション+発表を行うことも予定している。  ※履修登録者の学習経験、授業の進捗等により、内容を一部変更、講義の順番を入れ替えることも予定している。			
<b>[自学自習]</b> 毎回の授業の復習をすること。 前回の授業の内容を理解できていないと、新しい内容を理解できないので、不明な箇所を残さず、授業に臨むこと。 <b>教科書・参考書等</b> 教科書: 毎回の授業で配布するレジュメ 参考書: 全在紋・朴大栄・谷武幸『まなびの入門会計学』中央経済社, 2013 ※その他の参考書については適宜授業内で紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日12時から13時 南7号館3階 中村研究室 ※その他の曜日・時間帯を希望する場合は、事前アポイントメントを取ること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・遅刻は出席としてカウントしない場合がある。 ・私語、飲食、内職等は、発見次第退席を命じる(次回以降の出席も認めない)			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000312) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 会計情報の持つ意味 (Meaning of accounting information)	科目区分 主題科目	時間割 3Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 中村 正伸	関連授業科目	会計学, 会計学総論, 原価会計論, 管理会計論	
	履修推奨科目	経営学, 経営学入門, 経営学原理	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】組織経営</b>  組織経営における会計情報の意味を学ぶための授業です。 特に組織内において会計はどんな役割を担っているのか、これまでと、今、将来で、その役割は変わってきているのか、そのようなことを考えていく授業です。 経営とは何かを考えた上で、会計の基本的な概念を学習し、経営の現場でどのように実践されているかについて考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 会計について、 ①：なぜそもそも組織経営に必要なのか、どのように役立つのかを理解し ②：基礎知識、技法を身につけ、 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)、 ③：①②を踏まえ、具体的な組織を題材に、実践できる ことを目指します。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<b>授業の目的を達成するために、以下の達成を目指します。</b>  ①会計が前提としてきた組織の構造、そこで必要とされてきた経営を理解した上で、会計がどんな役割を果たしてきたのかを説明できる ②会計情報が、組織の外部向け・内部向け、それぞれにどのように活用されているのかを説明できる			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート50%、平常点(出席および授業への貢献)50%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>[授業計画]</b> 第1回 イン트로ダクション：授業の進め方、受講にあたっての注意点の説明 第2回 組織経営と会計① 第3回 組織経営と会計② 第4回 情動的機能と行動的機能① 第5回 情動的機能と行動的機能② 第6回 企業における実践① 第7回 企業における実践② 第8回 まとめ(45分授業)  ※履修人数にもよるが、グループを作ったディスカッション+発表を行うことも予定している。  ※履修登録者の学習経験、授業の進捗等により、内容を一部変更、講義の順番を入れ替えることも予定している。  <b>[自学自習]</b> 毎回の授業の復習をすること。 前回の授業の内容を理解できていないと、新しい内容を理解できないので、不明な箇所を残さず、授業に臨むこと。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：毎回の授業で配布するレジュメ 参考書：伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社、2016、全在紋・朴大栄・谷武幸『まなびの入門会計学』中央経済社、2013 ※その他の参考書については適宜授業内で紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日12時から13時 南7号館3階 中村研究室 ※その他の曜日・時間帯を希望する場合は、事前アポイントメントを取ること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・遅刻は出席としてカウントしない場合がある。 ・私語、飲食、内職等は、発見次第退席を命じる(次回以降の出席も認めない)。			

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000313) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 情報数学の基礎 Fundamentals of Information Mathematics	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 情報数学(離散数学)  情報数学はコンピュータサイエンス(計算機科学)および情報科学のための数学であり、離散数学ともいわれる。本授業では、情報数学におけるいくつかの代表的な事柄についてトピックス的に取り上げて分かりやすく説明する。また、毎回演習問題を解くことによって理解を深める。基礎的な内容であるので高校数学での関数や微積分等の知識はほとんど必要としないが、論理的思考能力は必要とする。			
<b>授業の目的</b> 授業計画に挙げた各項目：2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数について理解する(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)ことを目的・達成目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数についての基礎的な問題が解ける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
(1) 2進数と16進数 (2) 情報の表現 (3) 命題論理 (4) 組合せ論理回路 (5) グラフと行列 (6) 最短路 (7) 場合の数 (8) 授業のまとめ+試験			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない。 「情報数学」、「離散数学」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa@eng.kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室：工学部1号棟7階南1705室(林町キャンパス)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 「授業の内容は、平成30年度以前開講の「情報数学の基礎 (その1)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000314) 主題B-3「情報とコミュニケーション」 Information and Communication 現代暗号入門 (Introduction to Modern Cryptography)	科目区分 主題科目	時間割 1Q木4	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 暗号、情報セキュリティ  高度情報化社会において情報セキュリティは必須の技術である。本授業では、コンピュータネットワーク・インターネットで使用されている暗号技術について学ぶ。毎回演習問題を解くことによって理解を深める。			
<b>授業の目的</b> 授業計画に挙げた各項目：暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号について理解する（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）ことを目的・達成目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号についての基礎的な問題が解ける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
(1) 暗号の基礎 (2) 秘密鍵暗号(S-DES) (3) 秘密鍵暗号(DES) (4) 公開鍵暗号(RSA暗号) (5) 公開鍵暗号(ElGamal暗号) (6) ガロア体と楕円曲線 (7) 公開鍵暗号(楕円曲線暗号) (8) 授業のまとめ+試験			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない。 「暗号」、「情報セキュリティ」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。			
オフィスアワー 電子メール(horikawa@eng.kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。 訪問の前にまずメールで連絡すること。 研究室：工学部1号棟7階南1705室(林町キャンパス)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 特になし。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000401) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 名画を読む-美術史入門- Exploration of masterpieces-Introduction to history of art-	科目区分 主題科目	時間割 3Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 古草 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】イメージ, ヴィジュアル 歴史的な名画とされる西洋絵画を数点取り上げ, 具体的なイメージ(図像)としてある美術作品(絵画)を解釈する上で大切になるヴィジュアル的な特徴を論じる。名画を鑑賞することは私たちに多くの喜びを与えてくれるが, 名画といわれる絵画ほど, とっつきにくさもある。そんな絵画をじっくりと味わいながら, その魅力をひもといていく。			
授業の目的 今日, 個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることは, ますます重要になっている。企業や学校もイメージを利用しなければ, 製品を売ることや共同体をまとめたり人の心を引きつけたりすることも難しいであろう。美術史の知識や方法論を得ることは身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするために大いに役立つ。 ここで取り上げる絵画作品は, それぞれの時代背景に沿ったヴィジュアルの特徴をもっている。本授業の目的は, そのような特徴を把握しながら, これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに, 自らがヴィジュアルの特徴を発見できること(共通教育スタンダードにおける「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)やイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についても知識の習得を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 名画のヴィジュアルの特徴を把握し説明できる。 2. 美術作品(絵画)のもつ歴史的意味や価値を説明できる。 3. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる。			
成績評価の方法と基準 毎時間に提出するレポートによって判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1～2回: 絵画を解釈する一方法について 第3～4回: カラヴァッジョの「果物籠」について 第5～6回: フラ・アンジェリコの「受胎告知」について 第7回: 絵画に接する一方法について 第8回: まとめ(45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 ヴィジュアルを重視し, 美術作品の画像を鑑賞しながら, その魅力をひもとく解説を行う。また, 学生の提出したレポートにある質問等に可能な限り応えていく。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～2回: 時代, 様式を問わず, いろいろな美術作品を画集によって鑑賞する。 (～8回): 機会をつくり近隣の美術館に行き, いろいろな美術作品を鑑賞する。 第3～4回: バロック期の絵画作品を画集によって鑑賞する。 第5～6回: 初期ルネッサンス期の絵画作品を画集によって鑑賞する。			
教科書・参考書等 テーマごとにプリントを配付する。			
オフィスアワー 金曜日 昼休憩時間 古草研究室(幸町北2号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業の内容は, 平成30年度以前開講の「美術表現の探求」-近世～現代(その1), 美術表現の探求-名画を読む(その1, その2)と同じ内容であるため, 平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できない。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000402) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 現代の美術表現 Modern Art Expression	科目区分 主題科目	時間割 4Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 吉川 暢子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 現代美術、アート、アートプロジェクト  現代の美術・芸術（現代アート）を私たちの身近にあるミュージックビデオなどの映像作品、写真作品、看板、商品等の広範な領域から考察すること、また今日、各地で開催されている芸術祭等、芸術関連のイベントの魅力や問題点について論じる。			
<b>授業の目的</b> 今日、個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることはますます重要になって来ている。企業や学校もイメージを利用しなければ、製品を売ることも共同体をまとめることも人の心を引きつけることも難しいであろう。 現代の芸術作品の意味を理解することは、身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするために大いに役に立つ。 ここで取り上げる芸術作品は、それぞれの時代背景に沿ったヴィジュアル的特徴をもっている。本授業の目的は、そのような特徴を把握しながら、これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに、自らがヴィジュアル的特徴を発見できること（共通教育スタンダードにおける「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）やイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についての知識の習得も目指す。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 現代美術・芸術作品の制作意図を把握し説明できる。 2. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎時間のミニレポートと第8回のレポートを総合的に判断する。評価基準の目安は、ミニレポート70%、まとめでのレポート30%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 1 アートとは何か？マルセル・デュシャンの「泉」から 2 アートとは何か？現代美術の意味 3 身の回りにあるものの芸術性（ミュージックビデオから） 4 身の回りにあるものの芸術性（映像） 5 身の回りにあるものの芸術性（デザイン） 6 身の回りにあるものの芸術性（写真） 7 アートプロジェクトについて 8 まとめ+レポート  <b>【授業及び学習の方法】</b> ヴィジュアルを重視し、美術・芸術作品の画像を鑑賞しながらその魅力をひもとく解説を行う。また、学生の提出したミニレポートについての質問等にできる限り応えていく。  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 1～2回：現代美術作品を画集等で鑑賞する。 2～6回：身の回りにある芸術作品を探し、鑑賞する。 7回：高松駅周辺にあるアート作品を鑑賞する。			
<b>教科書・参考書等</b> テーマごとにプリントを配付する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日 昼休憩時間 吉川研究室（幸町北2号館3階）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 教室の収容人数の都合のため、初回に人数調整（抽選）を行う場合がある。 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「美術表現の探求－近世～現代－（その2）」と同じ内容であるため、平成30年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-cbaG-10-Ex1 授業科目名 (時間割コード:000403) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 教養としての書道実技 Practical Skills in Calligraphy	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Ex	単位数 1	
担当教員名 小西 憲一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義及び作品制作 90分×7回+45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 手書き文字 書道は、人間の生み出した文字文化の粋である。この講義では、「手書き文字」をキーワードとして、書道について学んでいく。活字全盛の現代にあって、自分が書いた文字を見直し、問題点と改善の方法を探り試みる。さらに「教養としての書道」というテーマのもと、実技を中心に、書道の歴史や書体の変遷を概観する。また、毛筆を含む筆記具の歴史や、書作品の鑑賞方法などにも触れる予定である。 授業は毛筆の小筆を使用し、墨を磨るところから始める。			
<b>授業の目的</b> 教養としての書道に関する知識習得と、たとえば、自分の名前を楷書と行書で書き分けられることなど、場面に応じた「文字を書くこと」への意識を高める。特に写経を通じて、書道文化への理解と、短期間においても習熟によって手書き文字の変容が実感できることを目的とする。 これらの活動を通して、21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養う（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自分の文字を見直し、問題点と改善の方法を探ることができる。 2. 場面に応じて「文字を書くこと」を意識することができる。 3. 写経等を通じて、書道文化を理解し、自己の手書き文字の変容を実感できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席と毎回の提出物 (90%、その内写経が60%) + 最終レポート (10%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 書道の概説と実作を行う。特に実作の部分では、自学自習を求める。 書道の道具一式 (小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど) が必要である。詳細はオリエンテーション時に説明する。			
(1) オリエンテーション (講義) 授業の概要、目的、到達目標、授業計画、必要な用具用材の説明			
(2) 硬筆 ー鉛筆と筆ペンー (実習) 自分の文字を振り返る (平仮名) (講義) 鉛筆の持ち方、平仮名のポイント (実習) 筆ペンで書く			
(3) 小筆 ー楷書と行書ー (実習) 自分の名前を楷書と行書で書き分ける (硬筆と毛筆) (講義) 毛筆の扱い方、楷書と行書のポイント			
(4) 小筆 ー篆書と隸書ー (講義) 書体の変遷、篆書と隸書の書き方 (実習) 篆書と隸書で書く			
(5) 写経① (講義) 写経の歴史、現代的意義 (実習) 写経を書いてみる			
(6) 写経② (講義) 写経生の生活 (実習) 写経に慣れる			

(7) 写経③

(実習) 写経を仕上げる、自己の写経を鑑賞する

(8) まとめ

最終レポートをまとめる

教科書・参考書等

毎時間プリント等を配布する。

書道の道具一式（小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど）が必要である。

オフィスアワー 木曜日 4時限目 北2号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎時間、書の実習を行う。したがって書道実技に関して意欲のある学生を求める。

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「教養としての文学と書道実技 その1」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目を単位取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THB-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000404) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 現代詩の批評 最果タヒ『夜空はいつでも最高密度の青色だ』論 (TAHI SAIHATE"The night sky appeared to be the highest density blue")	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 渡邊 史郎	関連授業科目	文学B、文学C	
	履修推奨科目	文学B、文学C、日本近代文学史	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】自由な表現 (わかりやすい)意見以外を排除し(中立性)や発言者の(立場)に即した表現を強いても、現代人は「表現の自由」を止めない。しかし、様々な暴力的な言葉を放置しておくほどわれわれの本性は寛容でもないだろう。本授業は、教員の講義(近代詩史)を参考に、若手の詩人・最果タヒの作品を学生諸君自ら「批評」する。そのことで自由で闊達な言論とは何かを考える(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
授業の目的 ネット登場以前の論壇には、優良な言説だけが「表現」だという前提があり、言論の作法にもある程度共通理解があった。が、現在、所謂「畜群」(ニーチェ)の攻勢により議論の作法は失われ、のびのびした「表現の自由」が社会から失われた。学生は、本授業で、他者の作品の「批評」を行うことで自由な表現のあり方を探るのである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1、日本の近代詩史の概略を理解し、説明することができる。 2、最果タヒの詩に対する「自由な批評」を行うことができる。 3、「批評文」による議論を行うことができる。			
成績評価の方法と基準 1、詩の「批評文」執筆×3回(60%)……1回未提出あるいは提出の遅れ、で成績「不可」となる。 2、詩史についての試験(40%)……未受験で成績「不可」となる。 3、出席、授業態度(適宜減点する)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1、ガイダンス(最果タヒについて、「表現の自由」とは何か) 2、日本近代文学史の復習 3、日本近代詩史1——新体詩の登場/「批評文」による議論1 4、日本近代詩史2——島崎藤村 5、日本近代詩史3——象徴派・萩原朔太郎/「批評文」による議論2 6、日本近代詩史4——ダダイズム・シュルレアリスム 7、日本近代詩史5——小野十三郎・吉本隆明/「批評文」による議論3 8、日本近代詩史6——谷川俊太郎など+試験  【自学自習に関する注意】 ・上記の「議論」のために、指定された詩についての「批評文」を必ず執筆しなければならない。その批評文は、各授業終了時に提出すること。 ・「批評文」における剽窃が見出された場合は、ただちに成績「不可」となるので注意が必要である。			
教科書・参考書等 最果タヒ『夜空はいつでも最高密度の青色だ』(リトル・モア、2016)1296円			
オフィスアワー 木曜日5校時 渡邊史郎研究室(幸町キャンパス 8号館5階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「批評文」については教員による添削等があるので注意すること。『夜空はいつでも最高密度の青色だ』は、石井裕也監督によって映画化されているので、興味のある学生は参考にしてもよい。			

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000405) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art A I と法—自動運転車事故責任を中心に— Artificial Intelligence(AI) and Law—Who is responsible for Autonomous Vehicle Accident ?—	科目区分 主題科目	時間割 1Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 肥塚 肇雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】自動運転 新しい技術である人工知能(以下「A I」といいます)が誤作動しそれによってケガをした人がいた場合、また、施設や設備を壊した場合、誰が法律上の損害賠償責任を負うかという問題について、A I が搭載された自動運転車が誤作動により事故が発生した事例を想定して、考察します。			
授業の目的 法学の基礎的な知識を前提として、A I 搭載の自動運転車事故、さらにはA I 搭載のロボット事故による損害に対し誰が法律上の損害賠償責任を負うのかという問題に対する解決のためには何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら探究できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自動運転車事故に被害者と誰が責任を負うのかという問題の解決のためには何が権王とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら説明することができる。 2. 自分の法的主張をわかりやすく記述することができる。			
成績評価の方法と基準 次の基準に基づき評価します。 1. 小テスト: 20点 2. 学期末試験: 80点			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. 授業計画 次の通りです。ただし、やむを得ず休講したり授業の進行等考慮すべき事情により変更したりする場合があります。  <予定> 第1回 ガイダンス—この授業で何を学ぶのか等— 第2回 一般原則: 自転車事故を惹き起こし歩行者に損害を与えた場合どうなるか 第3回 自賠法上の責任: 自動車事故を惹き起こし歩行者に損害を与えた場合どうなるか 第4回 自賠法上の保険: 自動車事故被害者はどのようにして救済されるか +小テスト(1回～3回分) 第5回 法律の世界とA I: 法律の世界ではA Iはわたくしたちと同じ「人」か 第5回 自動運転車事故と責任: 自賠法上誰が法律上の損害賠償責任を負うのか 第6回 自動運転車事故と保険: 自動運転車事故に保険は適用されるか 第7回 自動運転車と「街づくり」: 消費者市民社会の構築に向けて 第8回 まとめ(授業45分)+試験(45分: 1回～8回分)			
2. 授業及び学習の方法 講義形式で進めます。自学自習は課題として適宜指示します。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー (注) やむを得ず変更する場合があります 前期=火曜日9:45-10:15 (法学部棟<幸町南6号館>4F研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 六法(コンパクトなものでよい)は必携です。授業は課題に取り組んだことを前提に進めます。			

ナンバリングコード B2THB-dexG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード： 0004051) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その1 Local Contents and Management of Intellectual Property first period	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 dexG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 村井 礼, 藤本 憲市	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 地域コンテンツ、知的財産管理、コンテンツ保護、特許出願  地域コンテンツを紹介しながら、知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回では発明やブランドの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
<b>授業の目的</b> 香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (発明, 商標など) について知識を得ることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b>			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 発明の保護その1 (法目的, 特許を受ける権利) 2. 発明の保護その2 (特許出願) 3. 発明の保護その3 (特許権の活用) 4. 発明の保護その4 (係争対策) 5. 罰則・雑則, これまでの復習 6. ブランドの保護 7. 知財管理と周辺領域 (外国出願, 実用新案) 8. 期末レポート  <b>【授業及び学習の方法】</b> インターネット配信されるe-Learning教材を, 大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴するには, ノートへの書き取りなど, 主体的な態度を心がけなければ, 講義を理解することは不可能である。各回の内容について, 理解度を測るため及び出席確認のため, e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので, 教科書を必ず購入すること。  四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし, 成績評価に影響しない。法改正も踏まえ, 適宜, インターネットや書籍等で情報収集に努めること。  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書	書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター」		
	I S B N 978-4-86251-086-0 著者名 佐倉 豪		
	出版社 三和書籍出版 出版年 2015		
	金額 2,596円		

参考書1 書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」  
I S B N 4862511198 著者名 本間 政憲  
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年  
金額 2,484円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目  
場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室  
備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール (lc\_ipm@cc.kagawa-u.ac.jp) を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

【注意】平成30年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THB-dexG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード： 0004052) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その2 Local Contents and Management of Intellectual Property second period	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 dexG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 村井 礼, 藤本 憲市	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 地域コンテンツ、知的財産管理、コンテンツ保護、特許出願  地域コンテンツを紹介しながら、知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回ではインターネット時代におけるコンテンツやデザインの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
<b>授業の目的</b> 香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (デザイン、コンテンツなど) について知識を得ることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。知的財産管理に関する基礎知識を習得し、問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
知的財産管理の基礎知識を説明し、社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 知財法の体系, 知財管理の基礎 2. インターネットとデジタルコンテンツ 3. コンテンツの保護その1 (著作物と著作者) 4. コンテンツの保護その2 (著作者の権利) 5. コンテンツの保護その3 (著作隣接権, 保護期間, 侵害対応) 6. デザインの保護 7. 知財管理と周辺領域 (知財法比較, 練習問題) 8. 期末レポート  <b>【授業及び学習の方法】</b> インターネットで配信されるe-Learning教材を、大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので、教科書を必ず購入すること。  四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター」 I S B N 978-4-86251-086-0 著者名 佐倉 豪 出版社 三和書籍出版 出版年 2015年 金額 2,596円 (紙の本)			

参考書1 書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」  
I S B N 4862511198 著者名 本間 政憲  
出版社 三和書籍出版 出版年 2011年  
金額 2,484円

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目  
場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室  
備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール (lc\_ipm@cc.kagawa-u.ac.jp) を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

【注意】平成30年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THB-cebG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000406) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 水の活かし方、治め方ーグローバルな視点でー (Wise water management, -examples of water subjects in other countries-)	科目区分 主題科目	時間割 3Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cebG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 角道 弘文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 (90分×7回+45分×1回) + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】 利水、治水 地球上ではtoo much and too little water と言われる深刻な洪水や水不足が各地で発生しています。この授業では、地球上の水を巡る諸問題について概観し、現代社会と水問題の関係性について学びます。			
授業の目的 地球上で起こっている水不足や洪水といった水問題、水問題が社会や環境に及ぼす影響について理解し、現代社会と水問題の関係性について考えます (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 水資源の偏在性、変動性について説明できる。 2. 水不足が社会や環境に及ぼす影響について具体的に説明できる。 3. 現代の社会構造と水問題の関係性について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ミニレポート40点、期末レポート60点で評価します。授業終了時に提出するミニレポートは、毎回の授業で求められるわけではありません。ミニレポートの提出状況が芳しくない場合、期末レポートの評価がよくても単位は認定されません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 講義形式で行う。 【授業計画】 第 1回 資源としての水の特殊性、地球上の水の分布 第 2回 地球上の様々な水問題ーtoo much and too little waterー 第 3回 失われつつある水資源 (事例: アラル海、オガララ帯水層) 第 4回 武器ではなく命の水を (事例: アフガニスタン復興と水利開発) 第 5回 風土・地域環境に立脚した水利用 (事例: メコン河流域) 第 6回 生態系サービスと利水・治水 第 7回 市場経済のグローバル化と水輸入 (バーチャルウォーター) 第 8回 まとめ (45分間授業)  【自学自習に関するアドバイス】 第 1回 水資源の特徴を見出すために、たとえば鉱物資源や森林資源と比較してみよう。 第 2回 各国の水ストレスの程度はそれぞれの国の経済指標等と関連あるだろうか。 第 3回 塩害が起こるメカニズムについて調べてみよう。 第 4回 中村哲医師の著作を読んでみよう。 第 5回 各地の伝統的水利用 (例: 中東地域のカナート) について調べてみよう。 第 6回 治水・利水開発による自然環境への負の影響としては何があるだろうか。 第 7回 授業で例示されなかった輸入農産物の仮想水を試算してみよう。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿ったレジュメや関連資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。差し当たり、以下を参考書としてあげておきます。 水の基本、千賀裕太郎監修、誠文堂新光社 (2013)、1728円 天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い、中村哲著、NHK出版 (2013)、1728円			
オフィスアワー 電子メールで質問内容 (大まかでもよい) と希望日時 (いくつかの候補) を知らせて下さい。折り返し連絡します。 研究室所在: 創造工学部2号棟5階 メールアドレス: kakudo@eng.kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「水の活かし方、治め方 その1」(2018年度第3クォーター開設科目)を受講し単位が認められた学生は受講できません。 聴講だけで判ったつもりにならないことが肝要です。新たな知識によってさらに疑問が湧くことを期待します。			

ナンバリングコード B2THB-cebG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000407) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 水の活かし方、治め方ー日本における展望ー (Wise water management, -current subjects and perspective of water use in Japan-)	科目区分 主題科目	時間割 4Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cebG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 角道 弘文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 (90分×7回+45分×1回) + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】 利水、治水 地球上ではtoo much and too little water と言われる深刻な洪水や水不足が各地で発生しています。この授業では、私たちは水をどのようにコントロールしてきたのか、すなわち、水を活かし治める工夫について理解します。また、都市化による水循環の改変が引き起こした浸水被害の拡大、気候変動と異常渇水、集中豪雨の多発化など、現代社会と水問題の関係性についても学びます。			
授業の目的 代表的な利水技術、治水技術について学びながら、都市域での浸水被害の増大、気候変動と異常渇水・集中豪雨の多発化など、現代社会と水問題の関係について考えます (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 水を活かし治める方法について、いくつかの例をあげながら説明できる。 2. 香川県におけるため池の特徴、香川用水の意義、役割について説明できる。 3. 日本の現代の社会構造と水問題の関係性について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ミニレポート40点、期末レポート60点で評価します。授業終了時に提出するミニレポートは、毎回の授業で求められるわけではありません。ミニレポートの提出状況が芳しくない場合、期末レポートの評価がよくても単位は認定できません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 講義形式で行う。 【授業計画】 第 1回 日本の水資源と水利用 第 2回 水を活かし治める方法 (ため池による水資源確保を例に) 第 3回 水を活かし治める方法 (流域外導水の香川用水を例に) 第 4回 発災時における水利用の問題と雑用水利用の方策 第 5回 集中豪雨、浸水被害とその軽減策 第 6回 異常渇水とその軽減策 第 7回 水道事業を巡る課題と水道事業の広域化 第 8回 後半のまとめ (45分間授業)  【自学自習に関するアドバイス】 第 1回 諸外国との比較において日本の水資源の特徴について 第 2回 歴史的にみて、利水技術はどのように展開していったのだろうか。 第 3回 流域外に水資源を求めることへの先人の苦労について調べてみよう。 第 4回 地震等の災害時における水確保の方法について考えてみよう。 第 5回 各自治体の取組例 (水循環再生プランなど) を調べてみよう。 第 6回 異常渇水の被害軽減のため、個人や地域が行いうることはないだろうか。 第 7回 水道事業の広域化にあたって懸念されることは何だろうか。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿ったレジュメや関連資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。差し当たり、以下を参考書としてあげておきます。 水の基本、千賀裕太郎監修、誠文堂新光社 (2013)、1728円 水土を拓く、「水土を拓く」編集委員会、農山漁村文化協会 (2009)、4629円			
オフィスアワー 電子メールで質問内容 (大まかでのよい) と希望日時 (いくつかの候補) を知らせて下さい。折り返し連絡します。 研究室所在: 創造工学部2号棟5階 メールアドレス: kakudo@eng.kagawa-u.ac.jp			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「水の活かし方、治め方 その2」(2018年度第4クォーター開設科目)を受講し単位が認められた学生は受講できません。

聴講だけで判ったつもりにならないことが肝要です。新たな知識によってさらに疑問が湧くことを期待します。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード:000408) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 現代科学と研究倫理 Modern science and research integrity	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用  本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。			
<b>授業の目的</b> 科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じる事が難しくなってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)必要がある。この授業は、大学の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
学生が大学でおこなわれている研究について理解を深めることができる。 研究の倫理について目を向け、自覚を持つことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます(小課題)。単にビデオを視聴するだけでなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が6回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ①金西 計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス) ②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」 ③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」 ④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」 ⑤楊河 宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」 ⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」 ⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」 ⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」 ⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」 ⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」 ⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」 ⑫金西 計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」 ⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」 ⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」 ⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」 ⑯定期試験(レポート)			
<b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書1 書名 「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」			

著者名 『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）』

出版社 丸善出版 出版年 2015

オフィスアワー e-mail:marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
特になし

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000409) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 ユーラシア大陸における 人と金属生産の関わり Involvement of people and metal production in Eurasia	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 村上 恭通	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】銅, 鉄, 起源, ユーラシア大陸, 考古学  今から約10000年前、西アジアにおいて自然銅が利用されるようになり、人は金属の価値に触れることとなりました。その後、鉱石を製錬して銅を得るまでに数千年、さらに鉄を製錬するまでに数千年と、長い時間をかけて古代人は金属を生活の中に取り入れるようになりました。その過程で金属の技術、価値は大きく変わっていきます。また西アジアからユーラシア草原地帯を經由して北アジアやわれわれが生活する東アジアに金属が到達するまで、その技術や価値はまた大きく変わりました。金属の技術や利用法は地域の文化や環境に応じて多様に展開したのです。発掘によって地中から現れたものを対象としながら、金属の技術や利用のあり方を通じて、ユーラシア大陸のダイナミックな歴史をみなさんと味わうことができればと思います。			
授業の目的 考古学的な資料をもとに金属の技術や価値の移り変わりを理解 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
金属が古代社会の発展に与えた影響や金属の価値が地域によって多様であったことを説明できる。 多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識を身につける。			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 ①人間と金属の出会い ②鉱石製錬のはじまり ③鉄の起源 ④鉄製品の普及 ⑤東アジアにおける金属文化の幕開け—中国を中心に— ⑥中国の青銅器文化と鉄器文化 ⑦青銅と鉄—朝鮮半島から日本へ— ⑧技術復元から金属生産を考える  【授業時間外学習について】 東アジア古代鉄文化研究センターのホームページ ( <a href="http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/">http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/</a> ) や愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000410) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 身体運動の仕組みと科学技術 Mechanics of human movement and technology	科目区分 主題科目	時間割 1Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 井上 恒	関連授業科目	身体運動の仕組みと工学的応用	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 身体運動、仕組み、科学技術 普段、何気なく動かしている身体について、その運動の仕組みを科学的に説明します。また、仕組みの解明に貢献した科学技術や、それらに関連する計測技術等について説明します。			
<b>授業の目的</b> 日常生活やスポーツ活動で不可欠な身体運動に対する科学的基礎知識は、現代社会における多くの場面（自身の生活やビジネスなど）で有用となります。本授業では、身体運動の科学的知識とその解明に貢献した科学技術などについて知識を深めます。これにより、現代社会の身体運動の諸問題について、自己と関連付けながら探究できるようになります。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 身体運動の仕組みについて説明できる。 2. 身体運動の仕組みの解明に貢献した科学技術について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験100%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 筋骨格系の仕組み：解剖学的配置、動作（関節運動）の計測方法 第2回 筋収縮の仕組み：筋の収縮機構、収縮力の計測方法 第3回 筋収縮の仕組み：最大筋力の決定要因 第4回 エネルギー代謝の仕組み：ATPの再合成、無酸素・有酸素運動 第5回 呼吸・循環系の仕組み：ガス交換、血液循環 第6回 神経系の仕組み：伝導・伝達 第7回 神経系の仕組み：神経回路、円滑な運動・複雑な運動の制御 第8回 まとめと試験  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 自身の日常生活のあらゆる場面に存在する身体運動に関心を持ち、その仕組みについて調査することを推奨します。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：なし 参考書：「ニューロメカニクス -身体運動の科学的基盤-」、西村書店、ロジャー・M・エノーカ 著／鈴木秀次 総監訳、2017 「運動生理学20講(第3版)」朝倉書店、勝田茂、征矢英昭 [編]、2015 その他、授業中に適宜、紹介します。			
オフィスアワー 月曜日3時限目 創造工学部(林町キャンパス)1号館4F1406室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本授業の内容と日常生活における自身の経験との関わり合いを常に考えながら受講することを勧めます。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000411) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 太陽光利用型植物工場における知的農作物生産 Intelligent greenhouse plant production	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 高山 弘太郎	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 気温, 暖房, 施設生産, 光合成, 植物診断ロボット  太陽光植物工場は, 太陽光エネルギーを最大限に活用して大規模な農作物生産を行う施設であり, 気温・湿度・CO2・光強度などの様々な環境要因を制御することで4定(定時・定量・定品質・定価格)の農作物生産を実現します。本講義では, 太陽光植物工場における知的農作物生産を支えるスピーキング・プラント・アプローチ技術(植物診断に基づいた環境制御)をはじめ, 環境制御の基礎となる気温・湿度および暖房, 植物の最も重要な環境応答である光合成と蒸散について学びます。			
授業の目的 太陽光植物工場における農作物生産の概略とそれを支える先端的技術について理解(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
食料生産システムとしての太陽光植物工場の位置づけを理解し, 農作物生産の将来像を明確化する。			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 ① オリエンテーション: 植物工場の概略(高山) ② 光合成と蒸散の基本(高山) ③ 生体情報に基づいた環境制御(高山) ④ 温室環境制御1(仁科) ⑤ 温室環境制御2(仁科) ⑥ 温室環境制御3(仁科) ⑦ 温室環境制御4(仁科) ⑧ 温室環境制御5(仁科)  【授業時間外学習について】 愛媛大学植物工場研究センターのホームページ等を参考にしてください。 <a href="http://igh.agr.ehime-u.ac.jp/">http://igh.agr.ehime-u.ac.jp/</a>  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴, 課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ, 単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000412) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 飛行機はなぜ飛ぶのか Principles of aircraft flight	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 岩本 幸治	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 飛行機, 飛行機の歴史, 運動量理論, 安定性  まず、世界と日本で飛行機がどのように生まれたかを説明して先人の想像力や洞察力、工夫を見習う。その後、揚力や抗力といった飛行機にかかる力がどのように発生するのかを学び、有人飛行では不可欠な安定性について考える。これらの知識を取り入れて、紙飛行機を作って飛ばしてみることを計画している。			
<b>授業の目的</b> 飛行機を例題として、自然物や人工物の仕組みに興味を持ち、理論的に理解できる力（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）を身につけてほしい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
飛行機の各部品の役割を述べるようになる。力学の初歩が分かるようになる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> ①世界の飛行機の歴史1 ②世界の飛行機の歴史2 ③日本の飛行機の歴史1 ④日本の飛行機の歴史2 ⑤飛行機にかかる力 ⑥翼理論 ⑦エンジン、二宮翔会の紹介 ⑧安定性、紙飛行機  <b>【授業時間外学習について】</b> 必要に応じてMoodle上でお知らせします。  <b>【参照ホームページ】</b> 愛媛大学航空力学研究会二宮翔会のホームページ <a href="http://ninomiyashokai.com/">http://ninomiyashokai.com/</a>  ツイッター <a href="https://twitter.com/ninomiyashokai">https://twitter.com/ninomiyashokai</a>  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書1 書名 鳥と飛行機どこがちがうかー飛行の科学入門 I S B N 978-4794209184 著者名 ヘンク・テネケス 出版社 草思社 出版年 1999 金額 2052 備考 絶版ですが、古本として出回っています。  参考書2 書名 紙ヒコーキで知る飛行の原理―身近に学ぶ航空力学 I S B N 978-4061327337 著者名 小林昭夫			

出版社 講談社 出版年 1988  
金額 929

参考書3 書名 Theory of Wing Sections: Including a Summary of Airfoil Data  
I S B N 978-0486605869 著者名 Ira H. Abbott, A. E. von Doenhoff  
出版社 Dover Publications 出版年 1959  
金額 2511

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000413) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 身体運動の仕組みと工学的応用 Engineering applications of mechanism of human movement	科目区分 主題科目	時間割 2Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 井上 恒	関連授業科目 履修推奨科目	身体運動の仕組みと科学技術	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 人の身体運動を補助する機械など、身体運動の仕組みを工学的に利用・応用している健康福祉機器等の原理について説明します。また、それに先立ち、関連する身体運動の科学的仕組みについて説明します。			
<b>授業の目的</b> <b>【キーワード】</b> 身体運動、仕組み、機械システム 身体運動の仕組みを理解することは、我々の生活をより豊かにしていく機器や環境を作ることに役立つ。現代社会ではこれまで十分に解決してこなかったもの（例えば各種作業による腰痛）や、新たに高齢化などに起因して発生している種々の問題がある。本授業では、身体運動の仕組みを健康福祉やスポーツに利用・応用した機器について知識を深めます。これにより、現代社会の身体運動の諸問題について、自己と関連付けながら探究できるようになります。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 身体運動の仕組みについて説明できる。 2. 身体運動の仕組みに関する工学的に応用した健康福祉機器について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験100%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 器官の組成・形態・機能と計測方法 第2回 身体運動の計測とシミュレーション技術 第3回 神経系の仕組み、神経・筋の活動を利用した機器 第4回 エネルギー代謝の仕組み、呼吸・循環系の仕組み、関連機器 第5回 身体運動における力学的負荷と負荷軽減のための機器 第6回 感覚器の仕組みと補助機器 第7回 スポーツ動作の計測と関連機器 第8回 まとめと試験  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 身体運動を補助する・計測する機器に関心を持ち、その原理などについて調査することを推奨します。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：なし 参考書：「ニューロメカニクス -身体運動の科学的基盤-」、西村書店、ロジャー・M・エノーカ 著／鈴木秀次 総監訳、2017 「運動生理学20講(第3版)」朝倉書店、勝田茂、征矢英昭 [編]、2015 その他、授業中に適宜、紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日3時限目 創造工学部(林町キャンパス)1号館4F1406室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本授業の内容と日常生活における自身の経験との関わり合いを常に考えながら受講することを勧めます。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000414) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 文化心理学入門 文化心理学入門/An Introduction to Cultural Psychology	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 川野 卓二	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 心理学、教育、学習、発達、認知  心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。			
<b>授業の目的</b> 心理学の歴史を知ることで、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ることで、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計点が60点以上である。</li> <li>・小レポートを5回以上提出している。</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ※授業内容は変更になる可能性があります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「科学的な方法」ってなに？-心の社会・文化・歴史性-</li> <li>2. 「個人」と「社会」はどちらが先か？-ピアジェとヴィゴツキーの考え方-</li> <li>3. 「道具」は何を変える？-「媒介された行為」の概念-</li> <li>4. 実験室は「真空」か？-心理学実験の生態学的妥当性-</li> <li>5. 世界がヒトに「語りかけてくる」？-生態学的心理学とアフォーダンス-</li> <li>6. 学習は「獲得」か？-状況的学習論-</li> <li>7. 学校はなにを教えるのか？-学校教育への社会・文化的アプローチ-</li> <li>8. 大人は子どもになにができる？-ポストモダンの発達支援-</li> </ol> <b>【授業時間外学習について】</b> 毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			
<b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書1 書名 文化心理学-発達・認知・活動への文化-歴史的アプローチ- I S B N 978-4788508170 著者名 マイケル・コール 出版社 新曜社 出版年 2002 金額 5940  参考書2 書名 社会と文化の心理学-ヴィゴツキーに学ぶ- I S B N 978-4790715375 著者名 茂呂雄二・田島充士・城間祥子(編) 出版社 世界思想社 出版年 2011 金額 2400			

オフィスアワー moodle(LMS)上の「質問コーナー」を利用すること。  
email:kawano (アットマーク) tokushima-u. ac. jp (アットマーク)を@に置き換えてご利用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000415) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 知プラe科目 身の回りの放射線 (放射線と放射能の基本的知識と安全な 取り扱い) /Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes (Scientific Basis, Safe Handling of Radioisotopes and Radiation Protection)	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 田中 寿郎	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】放射線、放射性同位体、安全操作、原子力発電所、放射線療法  現在われわれの身の回りには産業機器、エネルギー、安全管理、医療・福祉などの分野で放射線を利用した様々な技術が使われています。しかしながら、われわれは放射線について、どのくらい理解しているのでしょうか。放射線とはいったい何。なぜ危険なのか。安全に利用する手法はあるのか？など、科学としてきちんと理解している人は少ないのではないのでしょうか？そこで、身の回りにある放射線について基本的な性質と安全に利用するための方法を学びます。			
授業の目的 多くの放射線がわれわれの身の回りに存在し、産業や健康管理、エネルギーに役立っていることを理解する。さらに、放射線や放射能とは何か、どのような特性を持っているのか、その計測方法について科学的に理解する。さらに、放射線の医療への応用、エネルギーへの応用、放射線の遮蔽、安全な取り扱いを学ぶ。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・われわれの身の回りには自然放射線や放射能を利用した機器があることを理解する。</li> <li>・放射線の発生原理を説明できる。</li> <li>・放射線の測定法を説明できる。</li> <li>・放射線の遮蔽法を説明できる。</li> <li>・放射線の人体に対する影響を定量的に説明できる。</li> <li>・私たちの生活に欠かせない放射線を利用した危機があることを説明できる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 ①身の回りにある放射線 ②放射線と放射能 1 ③放射線と放射能 2 ④放射線計測の原理と装置 ⑤放射線計測実験 ⑥放射線防護 ⑦人体への影響 ⑧まとめ  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、課題提出)を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000416) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 細胞と遺伝子の科学史 History of cell biology and gene engineering	科目区分 主題科目	時間割 2Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 京 正晴	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 細胞と遺伝子 近年の報道では「遺伝子組換え作物」や「iPS細胞」という言葉はすでに耳慣れたものになっています。しかし、それらの背景にある100年以上に及ぶ研究の経緯に思いが至る人は少ないかもしれません。この授業では、生物系分野を専攻していない人を主な対象として、細胞培養の黎明期から今日までの発展の経緯と、遺伝子組換え技術の原理と多細胞生物への応用について、歴史的に重要な実験を辿りつつ解説します。言うまでもなく、細胞と遺伝子は我々の体の構成単位であり、まさに自分自身に関わるテーマです。			
<b>授業の目的</b> 20世紀の研究を通じて確立された細胞と遺伝子の概念やそれらの操作技術は、これからの我々の生活や21世紀の社会にどのような影響をもたらすのでしょうか。決して楽観できない展開や想像を超えた混迷が待っているのかもしれませんが。そのような時代が来る前に、流言や扇動に乗せられることのない自立した見識を持つことが大切です。この授業では、そのための教養となる基礎事項と自発的に考える習慣を身につけることを目的します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 動植物の細胞培養の基本事項と技術的発展の経緯を概説できる。 2. 遺伝子組換え実験の原理を踏まえて動植物への応用方法について概説できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席カード 50 %、理解度テスト 50 %			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 イントロダクション 第2週 細胞培養の黎明 第3週 動物細胞の培養 第4週 植物細胞の培養 第5週 遺伝子の発見と単離 第6週 遺伝子導入技術 第7週 細胞から個体へ 第8週 まとめと理解度テスト  <b>【授業及び学習の方法】</b> プロジェクターを用いて講義する。スライドの一部をプリントとして配布する。毎回、出席カードとして 2,3のクイズに回答し提出する。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 教養や見識を身につけるには、好きなればこそです。本講義で触れた話題について自分なりに考えをめぐらせてみましょう。なにか興味を感じるテーマを見つけて自学自習の原動力にしてください。 下掲の参考書は、広範な分野への入門書です。興味を惹かれたキーワードを索引から探して該当ページを読むだけでよい学習になります。専門用語は、分子細胞生物学辞典(東京化学同人)、生物学辞典(岩波書店)、Wikipedia などでも調べられます。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 R. レンネバーグ著 西山ら訳(2014)「バイオテクノロジーの教科書 上・下」¥1836, ¥ 1944 講談社ブルーバックス			
<b>オフィスアワー</b> 農学部キャンパスは遠いので質問があれば授業後の昼休みに講義室にて対応します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 配布プリントは、以前のものを参照することもあるので、毎回全て持参して受講してください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000417) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 植物バイオテクノロジーの展開 Development of Plant Biotechnology	科目区分 主題科目	時間割 1Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 鳴海 貴子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】 遺伝子組換え植物</b> バイオテクノロジーは、生物が持つ様々な能力を活用することにより、私たちの生活を豊かにする欠かせない技術です。人類は、古くより発酵や品種改良などのバイオテクノロジーを利用してきました。近年、遺伝子組換え技術の開発や各種生物における全ゲノム配列の解読なども相まって、バイオテクノロジーは新たな展開を迎えています。本講義では、植物を生物資源とするバイオテクノロジーについて紹介および解説し、それらの持つ可能性や課題等について考える機会を提供します。			
<b>授業の目的</b> 現在、私たちは、食料、健康、環境などの多方面において、バイオテクノロジーの恩恵を受けています。本講義では、私たちの生活に深く関与する植物を生物資源とするバイオテクノロジーの歴史や現状を紹介し、それらの理解を深めることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 植物の役割について多面的に説明することができる。 2. 植物を利用したバイオテクノロジーについて説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回出席をとります。出席状況と試験の結果から総合的に判断します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1週 植物と人との関わり 第2週 植物の特徴と組織培養 第3週 遺伝子組換え技術とは 第4週 遺伝子組換え技術による食糧生産I 第5週 遺伝子組換え技術による食糧生産II 第6週 遺伝子組換え技術による花きの品種改良 第7週 遺伝子組換え作物の現状と展望 第8週 試験  [自学自習に関するアドバイス] 講義中に紹介する文献・書籍を参考に復習し、自分自身のレポートを作成することで復習をする。その際、理解できなかったポイントや語句等があれば、授業毎に配布する質問カードおよびオフィスアワー等を利用し理解に努める。また、予習に関しては、担当教員より適宜指示する。			
<b>教科書・参考書等</b> テーマごとに、必要な文献・書籍があれば紹介します。			
オフィスアワー 火曜日・水曜日随時 鳴海研究室 (農学部BE棟202) メール等での事前連絡により確実に対応出来ます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本授業の内容は、平成30年度の「植物の多面的な役割 (その2)」と同じ内容であるため、平成30年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000418) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 筋肉の科学 (Science of Muscle)	科目区分 主題科目	時間割 3Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 石川 雄一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回(テスト含む) + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 筋肉 貯筋 健康 スポーツ選手ばかりでなく、最近は老若男女が積極的に筋トレに励むようになってきました。ウォーキングをはじめとする有酸素運動ばかりでなく、筋肉を鍛えることがダイエットに効果的であり健康にもプラスになるという認識も浸透しつつあります。体重の約40%を占める筋肉は身体を動かすだけでなく、人間が生きていく上で様々な役割を果たします。講義では、筋肉の性質、運動の仕組み、筋肉のトレーニング方法などについて解説していきます。			
<b>授業の目的</b> 筋肉についての様々な知見を知ることにより、現代社会の科学と人間の関わりを理解することを目的とする。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応) 筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応について考えをとりまとめられることを目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
筋肉についての様々な知見を学び、現代社会における科学と人間の関わりについて理解できる。 筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応についての考えをとりまとめられることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業後に提出してもらう出席確認内容(50%)とクイズ形式の試験(50%)にて判定する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> プロジェクターを用いて、講義形式で行います。			
第1回 筋肉は何故存在するのか 第2回 筋肉の形状と機能 第3回 筋収縮の仕組みと形態 第4回 筋線維タイプについて 第5回 筋肉の動的特性 第6回 筋肉の伸張性収縮について 第7回 スポーツと筋パワー 第8回 内分泌器としての筋肉(マイオカイン)			
なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。			
<b>自学自習のアドバイス</b> 講義の中で取り上げられた、専門用語や人物等についてインターネットを使い検索してみましょう。その中で関連する事項についても調べてみましょう。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に選定しない。 適宜、講義中に紹介する。			
オフィスアワー 月曜日の3時限目 研究室は教育学部5号館4階にあります。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 受講のマナーを守る。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000419) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art こころとからだの科学 Psychology and Health Science	科目区分 主題科目	時間割 4Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 鎌野 寛 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 健康科学・心理学  我々が社会的にも文化的にも豊かな生活を送る上で、心身の健康を自然科学的および人文科学的に分析することは重要なことである。世の中にはいわゆる「健康」といわれる状態にある人もいれば、「不健康」といわれる状態にある人もいるが、大切なことは、「心身の健康状態を自らの人生の中にどのように位置づけるか」、あるいは、「どのようにマネージメントしていくか」ということなのではないだろうか。 この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネージメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、からだの科学では「健康科学」という自然科学的なテーマから、こころの科学では「心理学」という人文科学的なテーマから概説していく。			
<b>授業の目的</b> 健康科学、心理学について、青年期や大学生活に関係する事柄を具体的に学ぶことで、心身両面から健康に対する関心を高め、より身近な自然科学・人文科学的な問題として理解を深める（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）ことを目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. からだの健康・疾患・予防法について自然科学的な知識を持ち説明することができる。 2. 青年期におけるこころの健康について人文科学的な知識を持ち説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ① 最終講義日に試験を実施する。主として試験結果を基に成績評価を行う。 ② 自学自習として授業以外に、保健管理センターが主催し学内で行われるヘルストピックス講演会出席が必須である。出席できない場合はそれに代わるレポート提出が必要である。ヘルストピックス講演会の出席の有無、レポート提出の有無も成績評価に加味される。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> からだの科学 第1回 生活習慣病 (1) 第2回 生活習慣病 (2) 第3回 生活習慣病 (3) 第4回 からだに関するさまざまな問題 (1) 第5回 からだに関するさまざまな問題 (2) こころの科学 第6回 こころに関するさまざまな問題 (1) 第7回 こころに関するさまざまな問題 (2) 試験 第8回 テスト+まとめ  <自学自習のアドバイス> ① 自学自習としてヘルストピックス講演会に出席することが必須です。ヘルストピックス講演会の日程等は授業で説明します。ヘルストピックス講演会に出席できない場合は指定されたレポートを提出することが必要です。レポートの内容、提出期限等については授業で説明します。 ② 講義や講演会で出てきた専門用語について図書、文献、信頼のおけるインターネットの情報をを用いて調べましょう。			
<b>教科書・参考書等</b> 授業においてプリント等を配布します。			
オフィスアワー 教員に用のある場合、保健管理センター事務室に連絡してください。場所：幸町南キャンパス 電話：087-832-1282 月～金曜日9:00-17:00、但し国民の祝日・休日・年末年始・大学休業日を除きます。詳しくは保健管理センターの掲示に注意して下さい。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「こころとからだの科学 その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

受講者希望者の人数によって受講調整を行うことがあります。

授業の進行状況によって授業内容は多少変更されることがあります。

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000420) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art はじめて学ぶDRI Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 1Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考 (D)」、「リスクマネジメント (R)」、「インフォマティックス (I)」の頭文字です。これら能力の習得は、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
<b>授業の目的</b> DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. DRIとは何か説明できる。 2. DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート50%（到達目標2、3に対応）、グループ発表30%（到達目標2、3に対応）、コメントシート20%（特に到達目標1、3に対応）			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション（小坂有資・西本佳代） 第2週 地域の課題を考える（小坂有資・西本佳代） 第3週 デザイン思考を活用した地域活性化（佛圓哲朗） 第4週 リスクマネジメントを活用した地域活性化（井面仁志） 第5週 インフォマティックスを活用した地域活性化（林敏浩） 第6週 グループワーク／DRIを地域活性化にどのようにいかせるか？（小坂有資・西本佳代） 第7週 発表／DRIを地域活性化にどのようにいかせるか？（小坂有資・西本佳代） 第8週 まとめ（小坂有資・西本佳代）  <b>【授業及び学習の方法】</b> 第1週から第5週までは講義形式で行い、そこで得た理解をもとに第6週のグループワークと第7週の発表を行います。講義形式の授業では、毎回学んだ内容をコメントシートにまとめてもらいます。また、第7週に発表した内容をレポートとしてまとめてもらいます。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 最終発表に向けて、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、参考文献等で学びながら考えておいてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> ・全般的な点については、コーディネーターの小坂（オフィスアワー：水曜日12～14時・幸町北5号館5階）へ。 ・第3～5週については、授業中に講義担当者に相談のこと。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000421) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 差別とマイノリティ Discrimination and Minority	科目区分 主題科目	時間割 2Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目	瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題	
	履修推奨科目	マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 共感、差別、日常、マイノリティ デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスの中で重要な位置を占める「共感」に焦点をあてます。具体的には、「日常の中に潜む差別」に着目し、共感という技法を用いてマイノリティの人のびとが抱える問題を明らかにします。			
<b>授業の目的</b> マイノリティへの差別問題は、自分自身と関係のないものだと考えられているかもしれませんが。この授業では、日常から距離をとる態度、自分の中にある決めつけや思い込みから距離をとる態度を身につけることによって、マイノリティの人のびとが抱えている問題を自分自身と関連づけて考察することを目的とします(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。このことは、デザイン思考との関係でいうと、共感の技法を身につけることと同様です。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 普段意識しないような日常生活の中にある差別を発見し、説明することができる。 2. 自分自身と関連づけて日常生活の中にある差別の問題点を論じることができる。 3. 本授業のアプローチを、デザイン思考の共感の技法に関連づけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> コメントシート40% (到達目標の1に対応)、レポート60% (到達目標の2と3に対応)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 ガイダンス：デザイン思考と差別問題 第2週 差別の日常 第3週 差別について 第4週 差別者と被差別者の対話 第5週 差別を学ぶ 第6週 からかいに対抗する 第7週 「決めつけ」「思い込み」を崩す 第8週 振り返りとまとめ  <b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義とグループワークによって構成されています。各週の授業は、主に次のような方法で行われます。講義は、第1週と第8週です。グループワークは、第2週～第7週です。第2週～第7週の授業では、LTD話し合い学習法(Learning Through Discussion)という小グループによる話し合いを中心に学習を進める技法を用います。LTD話し合い学習法の具体的な方法については、第1週のガイダンスで説明します。コメントシートは、毎週提出です。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第2週～第7週は、教科書の指定箇所を事前に読んできてください。教科書の指定箇所や予習の仕方については、第1週のガイダンスで説明します。			
<b>教科書・参考書等</b> ・教科書：好井裕明(2007)『差別原論：〈わたし〉のなかの権力とつきあう』平凡社、760円(税別) ・参考書等：授業中に適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日12時～14時 小坂有資研究室(幸町北5号館5階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・教科書の購入は必須です。第2週の授業時に持参してください。 ・授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000422) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art マイノリティのライフヒストリー The Life Histories of Minorities	科目区分 主題科目	時間割 3Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目	瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題	
	履修推奨科目	差別とマイノリティ、社会デザインとマイノリティ問題	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 共感、課題発見、マイノリティ、ライフヒストリー (生活史) デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、わたしたちが抱える重要な問題である差別問題について考えるために、デザイン思考のプロセスのうち「共感」と「課題発見」に焦点をあてます。具体的には、マイノリティへの「カテゴリー化」に関する問題について考えます。たしかにマイノリティとして「カテゴリー化」される一面もありますが、マイノリティと一括りにはできない多様な人びとがいて、多様な人生があります。ここにアプローチする共感の技法としてライフヒストリーデータの収集法と分析法を学び、マイノリティのライフヒストリーを分析します。さらにこの分析をもとに、マイノリティ問題の具体的な課題を発見しグループ発表を行います。			
<b>授業の目的</b> この授業では、マイノリティの人びとの多様な人生を知り、マイノリティの人びとが抱えている問題を自分自身に関連づけて理解し、そしてマイノリティ問題の具体的な課題を発見・見つけだすことができるようになることが目的です (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。このように人やモノ等に対する見方や考え方を再構築し、適切な課題を発見することは、デザイン思考の共感から課題発見にいたるプロセスにあたります。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ライフヒストリーデータの収集法と分析法について説明することができる。 2. マイノリティのライフヒストリー分析をもとにして、マイノリティ問題を解決するための具体的な課題を見つけたすことができる。 3. マイノリティ問題の具体的な課題について、自分自身と関係づけることができる。 4. 1～3を、デザイン思考の共感から課題発見にいたるプロセスと関連づけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> コメントシート20% (到達目標1と4に対応)、グループ発表30% (到達目標2と4に対応)、レポート50% (到達目標の3と4に対応)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 ガイダンス：デザイン思考とマイノリティ問題 第2週 差別について 第3週 「共感」のための技法①：ライフヒストリーデータの収集法 第4週 「共感」のための技法②：ライフヒストリーデータの分析法 第5週 グループ発表の準備① 第6週 グループ発表の準備② 第7週 グループ発表 第8週 振り返りとまとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義、グループワーク、グループ発表、コメントシートの作成によって構成されています。各週の授業は、主に次のような方法で行われます。 講義は、第1週と第8週です。講義とグループワークは、第2週～第4週です。第3週と第4週は、ジグソー学習法というメンバーごとに担当を決めて教え合う技法を用いて授業をします。ジグソー学習法の具体的な方法については、第2週の授業で説明します。グループワークは、第5週と第6週です。第5週と第6週は、各グループがそれぞれ1つのマイノリティ問題を担当してもらいます。教員が提示したいいくつかのマイノリティ問題からグループごとに選択してもらいます。グループ発表は、第7週です。コメントシートは、毎回の授業で提出してもらいます。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第7週のグループ発表に向けて、授業中だけでなく授業外でもグループで準備をしてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書等は授業中に適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日12時～14時 小坂有資研究室 (幸町北5号館5階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lp1 授業科目名 (時間割コード:000423) 主題B-4「文化と科学・技術」 How Culture Shapes Science and art 社会デザインとマイノリティ問題 Social Design and the Problems of Minorities	科目区分 主題科目	時間割 4Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lp	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目	瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題	
	履修推奨科目	差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー	
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> デザインのプロトタイピングおよび検証、社会デザイン、マイノリティ問題 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業ではデザイン思考のうち「デザインのプロトタイピングおよび検証」、具体的にはマイノリティの人びとが生きやすい社会デザインをテーマにします。そのために、共生社会の理論や具体例について学びます。つぎにこれらをもとにして、グループでマイノリティの視点から社会をデザインします(主にデザインのプロトタイピングおよび検証のプロセスと関連します)。			
<b>授業の目的</b> この授業では、共生社会を理解したうえで、マイノリティの人びとの視点に立ち、マイノリティの人びとが生きやすい社会のためのアイデアを出し、共感という技法にもとづいて社会をデザインできるようになることが目的です。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。このことは、デザイン思考におけるデザインのプロトタイピングおよび検証のプロセスを身につけることと同様です。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 共生社会について説明することができる。 2. 自分自身と関連づけながら、マイノリティの視点から社会をデザインすることができる。 3. 2を、デザイン思考におけるデザインのプロトタイピングおよび検証のプロセスとの関連で理解できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> コメントシート20% (到達目標1に対応)、グループ発表30% (到達目標2と3に対応)、レポート50% (到達目標の2と3に対応)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 ガイダンス：デザイン思考と社会デザイン 第2週 差別について 第3週 マイノリティのライフヒストリーについて 第4週 「共生」と「社会」について 第5週 共生社会の事例について 第6週 グループ発表の準備 第7週 グループ発表 第8週 振り返りとまとめ  <b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義、グループワーク、グループ発表、コメントシートの作成によって構成されています。各週の授業は、主に次のような方法で行われます。 講義は、第1週と第8週です。講義とグループワークは、第2週～第5週です。グループワークは、第6週～第7週です。コメントシートは、毎回の授業で提出してもらいます。 この授業では、少人数グループによる課題解決型学習=PBL (Problem Based Learning) の技法を用います。PBLについては、第1週の授業で説明します。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第7週のグループ発表に向けて、授業中だけでなく授業外でも自分あるいはグループで準備をしてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12時～14時 小坂有資研究室 (幸町北5号館5階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B2THB-dbeG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000501) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 身の回りの環境問題A Environmental Problem in our Life A	科目区分 主題科目	時間割 1Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 dbeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 環境対策  現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ることで、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①新聞やテレビで報道されている環境問題を説明できる。 ②新聞やテレビで報道されているエネルギー問題を説明できる。 ③修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のミニレポート (50%) ならびに期末レポート (50%) により認定します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b>  第1回：イントロダクション 第2回：高松市の取り組み事例 第3回：香川県の取り組み事例① 第4回：香川県の取り組み事例② 第5回：香川県の取り組み事例③ 第6回：香川県環境保全公社の取り組み 第7回：香川県地球温暖化防止活動推進員の取り組み 第8回：前半のまとめ  <b>【授業方法】</b> 担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。  新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。			
<b>オフィスアワー</b> 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。 なお、この授業は昨年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。			

ナンバリングコード B2THB-dbeG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000502) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 身の回りの環境問題B Environmental Problem in our Life B	科目区分 主題科目	時間割 2Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 dbeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 環境対策  現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関における環境問題への様々な取り組みを知ることで、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①新聞やテレビで報道されている環境問題を説明できる。 ②新聞やテレビで報道されているエネルギー問題を説明できる。 ③修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のミニレポート (50%) ならびに期末レポート (50%) により認定します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b>  第1回：イントロダクション 第2回：環境省の取り組み事例 第3回：四国環境パートナーシップオフィスの取り組み事例 第4回：四国地方ESD活動支援センターの取り組み事例 第5回：四国経済産業局の取り組み事例① 第6回：四国経済産業局の取り組み事例② 第7回：国土交通省の取り組み事例 第8回：後半のまとめ  <b>【授業方法】</b> 担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。  新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。			
<b>オフィスアワー</b> 金曜日4時限目 <b>経済学部2号館2F古川研究室</b>  <b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。 なお、この授業は昨年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000503) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 食品加工と食生活 (Food Processing and Eating Habits)	科目区分 主題科目	時間割 1Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 吉井 英文	関連授業科目	化学	
	履修推奨科目	化学B	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 加工食品 この授業では、を講義課題として取り上げます。食品加工とは、食品保存性を高め、おいしく食べやすく栄養価の高い食品に加工するプロセスである。少子高齢化時代の現在社会において、食品加工は栄養価、食べやすさ、機能性の点で非常に重要である。よって、講義において現在の食生活における食品加工の重要性と食品加工にかかわる事項について理解を深めることを目的とする。			
<b>授業の目的</b> 現在社会において、食べやすく機能性（生理活性）のある食品が重要となってきた。毎日の生活で食べている食品が何なのか？ 加工食品として食べているものが、どのようにつくられているかグループ毎に調べ、発表する。食生活に必要な基本的語句を理解できることを目的に、加工食品について調べる。たとえば、カロリーとは？（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対応する探究能力」に対応）			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 食品加工、食品を理解する上での科学（化学）に関連する基本的語句を理解し、説明することができる。 2. 毎日の食生活で何を食べているのか、それがどのような働きをしているのか説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> グループ発表40%、レポート60%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1週 インTRODクション：料理と食品加工 第2週 食品の化学：pH、カロリー 第3週 食品の種類、発表課題の選択 第4週 加工食品① 第5週 加工食品② 第6週 加工食品③ 第7週 加工食品④ 第8週 まとめ（45分間授業）  各回講義で強調するキーワードについて、各自、グループで調べてください。また、生活において必要な知識として、身につけてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 料理の科学加工・加熱・調味・保存のメカニズム（サイエンス・アイ新書）、斎藤勝裕、SBクリエイティブ 1080円			
<b>オフィスアワー</b> 金曜日 12:00-13:00（農学部BE402）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 各種図書や資料を利用して、図書館で調べる習慣をつけてください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000504) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 糖と環境 Sugar and Environment	科目区分 主題科目	時間割 2Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 吉原 明秀	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 環境問題、糖 地球環境に関する問題の中から廃棄物や未利用資源に関して紹介し、そのそれら問題の改善技術や有効利用技術について紹介する。またその中で廃棄物や未利用資源からの希少糖の生産技術に関して紹介する。			
<b>授業の目的</b> 地球環境に関する問題に関して理解して、説明、考察できるようにする。また様々な課題を解決するための技術について理解し説明できるようにする。微生物や酵素を利用した技術に関して理解し説明できるようにする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 環境に関する問題を客観的に判断し評価考察できる。 2. 廃棄物や未利用資源の利用技術を理解して説明・考察できる。 3. 希少糖の生産方法について理解し説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況とテストの結果を考慮して総合的に判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回：ガイダンスおよび授業概要 第2回：環境問題について 第3回：廃棄物の利用技術 第4回：バイオマスの利用 第5回：微生物や酵素を用いた転換反応 第6回：微生物や酵素を用いた糖の生産 第7回：微生物や酵素と希少糖 第8回：まとめ（45分）と試験（45分）			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は特に指定しない。講義時に必要な文献や書籍があれば紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日、水曜日午後 吉原研究室（農学部BE棟102-2） 事前にメール等で連絡してくれると確実に対応できます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 毎回出席を取ります。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000505) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 植物科学入門 Introduction to Plant Sciences	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 市村 和也	関連授業科目	生物学B、植物生理学、植物栄養学、植物病理学、分子生物学、分子細胞生物学	
	履修推奨科目	生物学B、植物生理学、分子生物学、分子細胞生物学	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】環境と植物</b> 植物は、食料や家畜飼料の供給など農産物生産だけでなく、建材、繊維、燃料の原材料、花卉園芸など、様々な産業・分化と密接に関連している。本講義では、環境と植物の関わりに重点を置きながら、環境に対する植物の反応、環境応答に関わる植物ホルモン、遺伝子組換え技術を利用した植物機能開発など、植物に関わる社会的な話題についても紹介する。講義はオムニバス形式で行う。			
<b>授業の目的</b> 概要で述べたとおり、我々人類の様々な活動は、全て植物に依存している。この点を再認識した上で、植物の研究の現状や遺伝子組換え、植物の持つ特有の機能、我々の生活環境と植物との関わりについて理解することを目的としている。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 環境に対する植物の反応を列挙することができる。 2. 植物が有する様々な能力や機能について説明できる。 3. 植物科学の持つ社会的側面について説明できる。 4. 植物遺伝子組換え技術の安全性について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況やテストの結果を考慮して総合的に判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1週 なぜ植物を学ぶのか？ 第2週 DNA・遺伝子・ゲノム 第3週 植物バイオテクノロジーとは？ 第4週 植物バイオテクノロジーの光と影 第5週 実用化に向けた植物研究 第6週 植物の環境応答 (1) 第7週 植物の環境応答 (2) 第8週 まとめ (45分授業)			
<b>自主学习について:</b> 毎回の講義で理解できなかった概念や用語を調べ、次回までに理解しておくこと。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書: 植物まるかじり叢書全5冊 植物生理学会監修 化学同人 2007			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日午後2時から17時、木曜日10:30から17時。訪問の場合はメールであらかじめ連絡し、アポイントを取ることを勧めます。研究室は農学部BW棟3階305-3です。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 農学部1年次開講の植物生理学を受講する学生は、本講義をあらかじめ受講することを推奨する。			

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000506) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 タンパク質で生命を斬る Look Deep into Life through Proteins	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 坪井 敬文	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 遺伝子, タンパク質, 遺伝子組換え, バイオ, 光合成  一般的にタンパク質というと、食物等に含まれるものが知られており、人の健康を維持するために摂取していく栄養素という印象を持つでしょう。実は、タンパク質にはそれ以外にも、大きな人の生命の維持という重要な役目も担っており、このタンパク質の役割を理解すると、これまでは単なる「なぞ」であったものが、より理論的に説明できることに気づくはずで。本科目は愛媛大学プロテオサイエンスセンターに所属する教員が提供する科目であり、最先端のタンパク質に関する研究に触れながら、タンパク質の力と魅力について伝えていきます。タンパク質をよりもっと身近に感じ、科学の魅力への入り口でもあります。みなさんと議論を展開できることを期待しています。			
<b>授業の目的</b> 生命現象がどのように営まれているか理解する (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
タンパク質を通して生命の仕組みが説明できる。 問題の発見・解決に取り組むための思考力を身につける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 全15回分 オリエンテーション: タンパク質はマラリアを無くす切り札 (第1回分) 坪井 ①タンパク質の発現システムを操る (第2回分) 小川 ②バイオの世界を変える技術イノベーション: コムギ胚芽無細胞タンパク質合成法 (第3回分) 澤崎 ③無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる (第4回・第5回分) 野澤 ④治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする (第6回・第7回分) 竹田 ⑤光合成のしくみと新エネルギーへの応用 (第8回・第9回・第10回分) 杉浦 ⑥タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ (第11回・第12回) 林 ⑦ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする (第13回・第14回分) 高橋 ⑧マラリアは巧みにタンパク質を操って感染する (第15回分) 高島  <b>【授業時間外学習について】</b> プロテオサイエンスセンターのホームページ等を参考にしてください。 <a href="http://www.pros.ehime-u.ac.jp/">http://www.pros.ehime-u.ac.jp/</a>  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			
<b>オフィスアワー</b> Moodleのフォーラムを利用する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000507) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 サイエンスリテラシーの 化学 (すべての大学一年生のための化学 入門) Chemistry of Science Literacy (Introduction of Chemistry)	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 立川 明	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 化学, 無機化学, 有機化学  教科書に沿って, 酸塩基, 衣服, 洗濯, プラスティック, 料理, コロイド, 医薬品, 石油, セラミックス, 電池, 家電, 三態, 環境の順に進めます。 まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から, 具体的で重要な事柄を各パラグラフから1つ選び, 説明文を完成させます。1つの事柄を1文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。 レポートを提出したら, PDF教材を見てください。教材にはいろいろな質問や問いかけがあります。力試ししてください。 最後に章末テストに解答します。 質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。			
<b>授業の目的</b> ・この授業に主体的に取り組むことにより, あなたは身の回りに存在する化学物質の知識を得ることができます。 ・化学の知識を得ることにより, 持続可能で健康的な生活を送るために必要な正しい選択ができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)ようになります。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・みのまわりのものを化学物質としてとらえることができる ・みのまわりに起こる事柄を化学変化としてとらえることができる ・教科書で扱われている化学物質の構造が正しくかける ・教科書で扱われている化学反応式が正しくかける ・教科書で扱われている事柄をわかりやすく, 相手によって化学の専門用語を使い, あるいは使わずに伝えることができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・毎回のレポート 20% レポートは全て期限内に提出すること。前半のレポートは中間締切までに, 後半のレポートは期末試験受験期限までに終わってください。期限を過ぎると成績評価は行いません。 ・毎回のレポート追加点 10% 毎回4つ以上の説明文を作成しており, Goodの評価を受けている場合の加点。 ・章末テスト 50% 十分な予習時間をとり, 間違えずに短時間で10問正解すること。誤答するたびに減点されます。2回解答可能で, 2回解答した場合は平均点を成績とします。1回で高得点を得た場合, 2回受解答する必要はありません。 ・期末試験 20% 章末テストと同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。 ・単位修得のためには, 全ての課題を終えた上で合計60点以上の点数を取得する必要があります。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> <b>【前半】</b> 第1週 受講の仕方, 「化学って何だ?」 第2週 「真水・お酢・石けん水の違いって?」 第3週 「衣服は第二の皮膚」 第4週 「環境にやさしい洗濯を」 第5週 「もっとも身近でもっとも不思議な物質」 第6週 「生活材料今昔物語」 第7週 「お料理は化学実験」・・・・・・・・・・・・・・・・・・中間締切 <b>【後半】</b> 第8週 「生活を彩る驚異の粒子」 第9週 「化学の力で命を守る」 第10週 「身の回りには石油製品がいっぱい!」 第11週 「現代生活を支えるすぐれモノたち」			

- 第12週 「電気パワーが社会を明るくする」
- 第13週 「身の回りの電気製品をカガクする」
- 第14週 「物質は自在に変わる」
- 第15週 「化学は未来をひらく」
- 第16週 期末試験

**【授業及び学習の方法】**

全回オンデマンド型（非同期型遠隔講義）で行われます。教科書を使ってよく予習をし、毎回のレポートを提出した後、インターネットで配信されるeラーニング教材を大学や自宅などで学習し、指定された期限までに章末テストに解答する順序で学習する。

詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。

**【授業時間外学習について】**

**■授業及び学習の方法■**

教科書をよく読み、レポートを提出してから教材に取り組むこと。詳細はコースのトップに記載している「受講の仕方」を見ること。

**■レポートの書き方■**

・準備として、教科書を読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つ（以上）を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。

・説明文は1文に1つの事柄を、具体的に書くこと。2つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。

\*章末テストの正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。

・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。提出後（締切日以降）にコメント欄を必ず確認すること。

・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を3つ書くこと。

\*毎回説明文を4つ以上書き、Goodの評価を得た場合は加点とします。

・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)

・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。

・レポートはすべて提出すること。未提出や再提出が必要なのにしていなかった場合は、成績評価を行わない場合があります。

**【e-Learning科目の履修登録に際して】**

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

**教科書・参考書等**

教科書1 書名 「身の回りから見た化学の基礎」  
 I S B N 9784759812923 著者名 芝原 寛泰、後藤 景子  
 出版社 化学同人 出版年 2009  
 金額 1,944円

オフィスアワー Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム）を利用すること。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

各章の章末テスト問題に、標準的なスケジュール（期限）を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。毎回のレポートを全て提出し、章末テストや期末試験に解答すること。未提出のレポートや未解答のテストがある場合、0点と評価します。

\*締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、章末テストに解答してください。ただし前半の課題は中間締切まで、後半の課題は期末試験受験までに終えること。この期限は動かせません。

\*章末テストは2回解答可能で、2回解答した場合は平均点を成績とします。

\*標準スケジュールで示した各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出とします。

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード:000508) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 気象学入門 Introduction to meteorology	科目区分 主題科目	時間割 前期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 佐々 浩司	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 気象、天気予報、気象災害  気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演示実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。			
<b>授業の目的</b> 天気の移り変わりにおけるおおまかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) する。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点 ※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。 5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。 ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気象の様々なすがた</li> <li>2. 天気と気候のとらえかた</li> <li>3. 気象の時間的空間的な大きさ</li> <li>4. 大気の気温分布と熱のやりとり</li> <li>5. 地球規模の流れ</li> <li>6. 低気圧と高気圧</li> <li>7. 熱帯低気圧：台風</li> <li>8. 風の吹き方、局地的な風</li> <li>9. 天気図をみてみよう</li> <li>10. 雲のできかたと雨</li> <li>11. 豪雨</li> <li>12. 強風と突風</li> <li>13. 竜巻とダウンバースト</li> <li>14. 地球温暖化とは</li> <li>15. 気候変動と気象災害</li> </ol> <p><b>【授業時間外学習について】</b> 毎回の講義内容のまとめを行う</p> <p><b>【受講の条件】</b> 気象に興味があること。</p> <p><b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a></p>			

教科書・参考書等

【Webテキスト】

Moodle上に掲載

オフィスアワー e-mail:sassa@kochi-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと良いと思います。

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000509) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 生物多様性を考える What is Biodiversity?	科目区分 主題科目	時間割 4Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 伊藤 文紀	関連授業科目		
	履修推奨科目 生物学		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 様々な生物の存在が人間生活を豊かにしていることは間違いありません。しかし、生物の多様性は近年急速に減少しており、その保全は現代人にとって火急の課題のひとつとされています。一方で、生物多様性とその価値や意義についての理解は十分とは言えません。この講義では、生物多様性についてさまざまな面から解説し、その重要性の理解をうながし、現代人が取り組むべき課題について考える機会を提供します。			
<b>授業の目的</b> 生物多様性について多面的に解説することにより、人間にとっての生物多様性の重要性が理解できるようになります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 生物多様性とは何かを説明できる。 2. 生物多様性を脅かす要因が何かを説明できる。 3. 香川県の生物多様性の特徴を説明できる。 4. 生物多様性の保全のために現代人が取り組むべき課題を考えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> テストと出欠を中心に、不定期にレポート等の課題を出すこともあります。成績はこれらの総合判断で評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1週 生物多様性とは何か 第2週 生物多様性の実態 (1) 第3週 生物多様性の実態 (2) 第4週 生物多様性の危機 (1) 第5週 生物多様性の危機 (2) 第6週 生物多様性の保全 (1) 第7週 生物多様性の保全 (2) 第8週 テスト			
<b>教科書・参考書等</b> 講義の中で随時紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 金曜午後 伊藤研究室 (農学部CE402) 事前にメールで連絡してください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 講義は、はじめに先週の質問カードに対する答えを示しながら復習します。遅刻厳禁です。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000510) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 昆虫と環境 Insects and Environment	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 小西 和彦	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 昆虫、分類、多様性、環境  昆虫は地上のありとあらゆる環境に進出し繁栄しているグループで、身近に目にするものも多いと思います。昆虫類はこれまでに知られている種だけでも約10万種いて、実際には50万種はいるだろうと考えられているくらい種数が多く、全動物の種数のうち80%以上を占めるといわれています。本科目では、このように多様な昆虫についてその特徴を理解し、どうして多様性が増大し得たのかを考えます。そして、その多様性が現在の日本でどのような状態にあるのかを知り、私たちの周りの自然や環境について考えるきっかけとします。			
<b>授業の目的</b> 昆虫に関する理解を深め、昆虫と環境かかわりについての知識を習得（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
地球上で最も繁栄する生物としての昆虫を理解することによって、関心を持つことができる。基本的な昆虫の分類についての知識を修得できる。昆虫類の多様性保全を理解できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> ①昆虫ってどのようなもの？ (小西) ②昆虫を分類する。分類とは？ (小西) ③昆虫にはどんなものがある？昆虫の目 (もく) 1 (小西) ④昆虫にはどんなものがある？昆虫の目 (もく) 2 (小西) ⑤昆虫コレクションの紹介—愛媛大学ミュージアム・ツアー (吉富) ⑥絶滅危惧種—多様性の損失 (吉富) ⑦外来種—多様性を脅かす存在 (吉富) ⑧昆虫の保護と保全—多様性を守ること (吉富)  <b>【授業時間外学習について】</b> 以下のホームページや愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 <a href="http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/index.html">http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/index.html</a> 日本昆虫分類学会 <a href="https://sites.google.com/site/jjsystem/">https://sites.google.com/site/jjsystem/</a> 愛媛大学ミュージアム <a href="https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/">https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/</a>  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			
<b>オフィスアワー</b> Moodleのフォーラムを利用する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2THB-bceG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000511) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 知プラe科目 人工魚礁の開発と環境保全 Development of Artificial Reefs and Environmental Conservation	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 末永 慶寛	関連授業科目 グ	数学C、海域環境マネジメント、プログラミン	
	履修推奨科目	数学C、海域環境マネジメント	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】人工魚礁, 流動制御, 環境改善, 資源生産力  我が国沿岸海域における水産資源生産力の向上のための施設として、様々な人工魚礁が開発されてきた。本講義では、人工魚礁開発の歴史と人工魚礁の有すべき水産資源生産力向上および環境改善機能について、実海域における具体例を挙げながら解説する。			
授業の目的 主に瀬戸内海を中心として、人工魚礁の開発にまつわる歴史、求められる機能、設計コンセプトおよび実海域における生物資源増大に資する効果に関する知識 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) を得ることが本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
本講義を受講することにより、以下の項目を説明できる。 1. 人工魚礁の歴史、役割 2. 人工魚礁の流動制御機能 3. 人工魚礁の実海域における生物資源生産力向上効果 4. 地場産業との共同研究による技術の実用化			
成績評価の方法と基準 4回の小テストを計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験 (提出) 回数が3回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。  1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、人工魚礁開発の歴史 2. 人工魚礁の安定性 3. 人工魚礁の流動制御機能 4. 人工魚礁の生物増集機能 5. 人工魚礁の藻場造成機能 6. 人工魚礁の環境改善機能 7. 大学と地場産業との連携による実用化の事例 8. 期末レポート  【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a>			
教科書・参考書等 参考書:閉鎖生態系・生態工学ハンドブック, 大政, 竹内ら, 監修, アドストーリー発行, 丸善出版, ISBN978-4-904419-57-1 オフィスアワー 電子メール (suenaga@eng.kagawa-u.ac.jp) を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回 (ガイダンス) を参照されたい。			

ナンバリングコード B2THB-cbeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000512) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 加工食品の現状と今後の展望 Present and Future of Processed Foods	科目区分 主題科目	時間割 2Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 小川 雅廣	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 食品問題 この授業では、現代社会における加工食品の問題点をテーマとして取り上げる。21世紀に生きる私たちが食品に求めるものは何ですか。1) 安心安全ですか、2) おいしさですか、3) 低カロリーですか、それとも4) 健康改善効果ですか。ここに挙げた4つの事柄について講義する。また、講義で提供した知識をもとに、食品の問題点と今後求められる食品について、消費者と製造者の両方の視点から、グループディスカッションを行いながら考えていく。また、香川県で行われている食品展開についても紹介する。			
<b>授業の目的</b> 私たちの身の周りには様々な加工食品がある。栄養補給を主目的とした食品、栄養よりもおいしさを追求した食品、健康を意識した食品など。これらの食品のニーズは社会情勢や経済情勢によって変わる。21世紀に入り少子高齢化が急速に進むなかで、現在の食品における諸問題を認識できるようにするとともに、消費者はこれからどのような特徴(機能)をもった食品を求めていくのか? 食品の製造者はどのような発想で食品を開発していくべきなのか? など、今後の対応策を科学的な根拠をもとに考える力を身につけるようにする(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 21世紀社会の加工食品の現状と課題を説明することができる。 2. 現代の食品がもたらす諸問題の解決に向けた自分の考えを論理的に述べることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニレポート35%、期末レポート65%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 加工食品の問題点 第2週 食品の栄養とカロリー 第3週 おいしさの要素とは 第4週 加工の重要性と課題 第5週 食品添加物の功罪 第6週 トクホ・機能性表示食品とは 第7週 香川の食品展開 第8週 まとめ(45分間授業)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各週の授業の終盤にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び自ら学んだ内容の整理を促します。また、授業外では、加工食品のパッケージを入手してもらい、そのパッケージの記載内容をまとめてきてもらいますので、事前準備をしっかりと行ってください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 講義で提供された加工食品に関する知識をさらに深めるために、図書館の資料や中央省庁(厚生労働省、農林水産省、消費者庁など)のURLで公開されている情報を入手して調べてください。調べた内容をまとめることにより、食品についてより深い知識を身につけてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は指定しない。参考書は必要に応じて適宜紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 授業に関する質問や相談については、基本的に講義終了後に講義室で受け付けます。研究室(農学部CW棟3階)への訪問は、講義終了後に直接又はメール(ogawa@ag.kagawa-u.ac.jp)で問い合わせてください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 初回到履修に関する説明・注意を行います。ミニレポート、期末レポート未提出の場合は単位認定しない。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000513) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 日常生活の中の生命科学 Life sciences in the daily life	科目区分 主題科目	時間割 3Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 末吉 紀行	関連授業科目	分子生物学、機能生化学	
	履修推奨科目	生物学B	
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(講義の予習・復習+レポート作成)			
<b>授業の概要</b> [キーワード] 生命科学 最近の生命科学の進歩は著しく、我々は日々の生活の中で様々な恩恵を受けている。一方で、人間活動によって環境は変化し、人間自身もその対応に追われている。本講義では、生命科学と環境に関する身近な話題を取り上げ、自然界と人間社会に果たすべき生命科学の役割について共に考えてみたい。			
<b>授業の目的</b> テレビやネット上に溢れる膨大な情報の内容は玉石混交であり、私達が生活していく上で、しばしば「疑似科学」に遭遇する。それらに惑わされないためには、私達自身が確かな知識を持ち、日常生活のあらゆる事柄を科学的に理解する必要がある。本講義では、生命科学や環境に関する身近な事柄を科学的知見に基づき理解して、合理的な行動ができるようになることを目的とする。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力・・・人間が生きていく‘環境’の在り方を考えていく授業群」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 生命科学や環境に関する身近な事柄に関する基礎的知識を身につけた上で、諸問題や解決策について自ら考えることができる。 2. 知的好奇心を持ち、自分で興味を持ったテーマに関して情報を集める能力(課題発見・解決力)を身につける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 定期試験と出席状況、レポートにより総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> [講義計画] 第1回：イントロダクション、アンケート 第2回：蜂蜜の生化学 第3回：ニホンミツバチと環境 第4回：ミツバチを取り巻く諸問題 第5回：アルコールの生化学 第6回：ビタミン欠乏症 第7回：鎌状赤血球貧血症とマラリア 第8回：まとめ、試験 *これはあくまで例である。初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性と知識レベルを把握する。それを踏まえて取り上げるトピックスを決定し、第2回の講義で周知する。			
[講義および学習の方法] 講義の最初にプリントを配布し、プロジェクターを用いて講義する。  講義の最後に、その日の講義内容に関連したレポートの課題を提示し、次回の講義の開始前に提出させる。  学生自らが知的好奇心を持ち、自分で興味を持った事柄に関して情報を集める能力(課題発見・解決力)を身につけるため、レポートの課題は「面白いことを探させる」、「考えさせる」、「調べさせる」ようなものにする。定期試験は、レポート課題の中から出題する。  理解できなかったポイントや語句などがあれば、講義ごとに配布する出席カードおよびオフィスアワー、メール等を利用し、理解に努める。予習のポイントに関しては、適宜指示する。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用せず、適宜プリント類を配布する。 参考書等は適宜指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 講義終了後15分程度、講義室にて対応する。 その他の日時を希望する場合は、まずはメールにて対応する。面談の必要がある場合は、事前にメール連絡の上で、農学部BE402-3に来ること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 毎回出席を取ります。			

ナンバリングコード B2THB-acxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000514) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 農業バイオテクノロジー AgriBiotechnology	科目区分 主題科目	時間割 2Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 acxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 野村 美加	関連授業科目	植物栄養学	
	履修推奨科目	基礎生物化学	
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> キーワード：農業とバイオテクノロジー 植物バイオテクノロジーはめざましい勢いで発展しています。本授業では今後この技術をどのように農業へ結びつけるのか学びます。そのためにまず前半に現代のバイオテクノロジー技術を学びます。後半では日本・世界の農業問題を明らかにした後、次世代農業バイオテクノロジーのあり方について考えていきます。前半は基礎知識を学び、後半にはその知識を活用して自分なりの問題の解決策をまとめ、表現することができる力が身につくことを目指します。適宜、ディスカッションやレポート課題を取り入れる予定です。			
<b>授業の目的</b> 前半では、現代のバイオテクノロジー技術の基礎知識を習得する（共通教育スタンダードの「広範な人文・自然に関する知識」に対応）。後半には前半習得した基礎技術を基盤に現在の日本・世界の農業問題について明確にし、解決策を提示できるようになる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 現代のバイオテクノロジー技術の基礎知識を習得し、日本・世界農業の諸課題・次世代農業のあり方などを明らかにし具体的に説明することができる 2. 自分の主張を分かりやすく記述することができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> グループ発表40% (到達目標①に対応)、レポート課題60% (到達目標②に対応)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 「授業計画」 第1回 オリエンテーション 第2回 農業バイオテクノロジー 第3回 世界の農業バイオテクノロジー 第4回 農業バイオテクノロジーと環境問題 第5回 日本農業と諸問題 第6回 世界の農業問題 第7回 次世代農業 第8回 まとめ  「授業および学習の方法」 第2回から3回は講義中心に進めますが、第4回から7回は課題を課し、まずグループ内でとりまとめた後発表を行ってまいります。  「自学自習のためのアドバイス」 課題を課し翌週にレポートを提出してまいります。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない			
<b>オフィスアワー</b> 特に設けない、質問は随時受け付ける。面会の場合は、メールで連絡しアポイントを取ることを勧める。nomura@ag.kagawa-u.ac.jp			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 初回の授業時に履修等に関する説明を行うので、履修希望者は出席すること。 毎回出席レポートを提出			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 000515) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 微生物が関わる生活環境 (Living environment involving microorganisms)	科目区分 主題科目	時間割 3Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 Abd	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 田中 直孝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 微生物 微生物の利用は食品、医薬品から工業化学品まで様々な有用物質を生産する発酵工業に成長し、生活に大きな利益を付与している。その一方、病気や食品の腐敗など多様な微生物災害を防ぐことは重要課題であり、近年では微生物が環境の浄化や維持に果たす役割も大きくなってきている。また、遺伝子組み換え技術などの基本技術の多くは、微生物をモデル生物とした研究から生み出されたものであり、微生物の知識を介して「生命と環境」について考えたい。			
<b>授業の目的</b> 見に見えない微生物が、いかに私達の生活と密着しているかを知るとともに、微生物の特徴や機能を学ぶことで、健康や産業にどのように役立っていけば良いか考えられるようになることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 微生物の形態的な特徴について説明できる。 2. 微生物の特殊な機能について説明できる。 3. 微生物の健康や産業への関わりを説明できる。 4. 微生物の利用方法について創造できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小テスト25%, レポート25%, 期末テスト50%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 講義中心、適宜、板書とプロジェクターを使用する。			
第1回 始めに：私たちの生活（生命・環境・産業）に関わる微生物 第2回 微生物の特徴と特殊な機能① 第3回 微生物の特徴と特殊な機能② 第4回 バイオテクノロジーで明らかになる微生物と生命の関係① 第5回 バイオテクノロジーで明らかになる微生物と生命の関係② 第6回 物質生産に関わる微生物とまとめ① 第7回 物質生産に関わる微生物とまとめ② 第8回 試験			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜、参考資料を配布する。			
<b>オフィスアワー</b> 質問がある場合は、各講義の最後に各教員に相談し、訪問日時等を決定する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> これまでの微生物学の知識は不問とする。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000516) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 生活者目線で考える環境問題 Environmental issues about the living 便利さの象徴であるプラスチックが今、 社会問題にもなっている。私たちはプラ スチックとどう付き合っていけば良いの か探っていきます。	科目区分 主題科目	時間割 2Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プロ グラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 妹尾 理子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7.5回、試験45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 現代生活は便利で快適になっていますが、一方で深刻な環境問題を引き起こしています。本授業では、現在話題とな っているプラスチックをテーマに、環境汚染の背景や現状、開発・利用・活用の歴史、人への健康影響、問題解決へ の取り組みなど、社会的・文化的・科学的視点から総合的に探っていきます。理系・文系といった枠ではなく、両者 を融合した学際的な学びを大切に、人間の暮らし・生活を問題意識の中心において追求していきます。受講者それぞ れがこれからの生き方や学び、仕事を考えるきっかけとなるような授業を目指します。			
<b>授業の目的</b> 簡単に答えが出ない問題について、あせらずあきらめず、まずはできるだけ広く深く理解するよう努力する。そして、 他者と討議することで、考えを深めることを大切にします。そういった学びの場をもつことは、自分の今後の生き方 や学びの方向を考えるきっかけにもなるでしょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 現代の社会的課題について、テーマを絞って調べることができる 2. 自分が調査した内容を整理し、簡潔にまとめ、課題を整理することができる 3. 整理しまとめた内容をわかりやすく他者に伝えることができる 4. 他者から得た知識や情報をもとに、協働して討議することができる 5. 討議した内容をもとに自分の考えをまとめることができる 6. 自分の考えをわかりやすく他者に伝えることができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 調査レポート(個人) 30% グループワークのまとめ(個人・集団) 30% 発表および討議のまとめレポート(試験) 40%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 授業は一方的な講義を行うのではなく、個人での調査とまとめ、グループでの作業とまとめ、グループ発表とまとめな どを取り入れ、主体的な学びを重視します。自分なりの課題を見つけられるようニュースや報道などの情報に日頃か ら関心を持っておきましょう。積極的な参加・学びあい活動が不可欠となります。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 課題の理解と授業の進め方の確認「プラスチックから学ぶとは？」 ～それぞれの調査テーマをみつけよう～ 例：・身近なプラスチックの種類・用途 ・プラスチックの歴史 ・マイクロプラスチック問題 ・プラスチックのリサイクル ・プラスチックの代替品 ・持続可能な社会とプラスチック ・プラスチック規制(世界と日本) ・企業・NPO・NGOの取り組み  第2回 個人での調査(資料)をもとに、グループごとに内容を深める 第3回 グループごとに整理した内容を、他者に伝えられるようにまとめなおす 第4回 発表1・2と討議・まとめ 第5回 発表3・4と討議・まとめ 第6回 発表5・6と討議・まとめ 第7回 発表7・8と討議・まとめ 第8回 まとめと試験			
<b>教科書・参考書等</b> 授業内で紹介する			

オフィスアワー 火曜日14:40=16:00 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室（8号館5階）にて受け付ける  
履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
各自が調べてきた内容をグループで討議したり、それをまとめて発表したりする活動があります。積極的に参加してください。

ナンバリングコード B2THB-ecdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000517) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 瀬戸内海の環境と諸課題 The environment of the Seto Inland Sea and its agenda	科目区分 主題科目	時間割 3Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 多田 邦尚 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人分科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
<b>授業の目的</b> 我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。また、その解決策を自分自身で考えられるようになる（全学共通教育スタンダード：「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境や歴史・文化的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業履修後に提出するレポート。授業内容の理解度と、授業内容に対する感想ではなく自分なりの考えを要求する(レポート100%)。出席していないとレポート提出は認められません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 講義の概要、「瀬戸内海とは？」 第2週 瀬戸内海の環境の現状と課題 第3週 赤潮の科学-1 第4週 赤潮の科学-2 第5週 河川の水質変化と環境行政の対応-1 第6週 河川の水質変化と環境行政の対応-2 第7週 瀬戸内海に現存する干潟・藻場 第8週 干潟・藻場の役割 (45分授業)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 最初に、本授業の概要を説明し、その後、4名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その1」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様に内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本事業を受講できません。 授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。この授業は、「瀬戸内海の環境の諸問題」と「瀬戸内海の環境とその保全」をあわせて受講することを奨励します。			

ナンバリングコード B2THB-ecdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000518) 主題B-5「生命と環境」 Life and the Environment 瀬戸内海の環境と保全 Environment of the Seto Inland Sea and itsconservation	科目区分 主題科目	時間割 4Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 多田 邦尚 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人分科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
<b>授業の目的</b> 我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。また、その解決策を自分自身で考えられるようになる（全学共通教育スタンダード：「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境や歴史・文化的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明することができる。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業履修後に提出するレポート。授業内容の理解度と、授業内容に対する感想ではなく自分なりの考えを要求する(レポート100%)。出席していないとレポート提出は認められません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 漁業生産を支える瀬戸内海- 1 第2週 漁業生産を支える瀬戸内海- 2 第3週 水産廃棄物の有効利用と海域環境改善 第4週 波浪エネルギー吸収技術と防災への備え 第5週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-1 第6週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-2 第7週 慶長年間の讃岐国絵図に見る海岸線-3 第8週 まとめ (45分間授業)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 最初に、本授業の概要を説明し、その後、3名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 本授業の内容は、平成30年度以前開講の「瀬戸内海の環境と保全 その2」及び平成28年度以前の高学年向け教養科目「瀬戸内海の環境と保全」と同様に内容であるため、平成30年以前に当該科目の単位を取得した学生は本事業を受講できません。 授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。この授業は、「瀬戸内海の環境とその保全」と「瀬戸内海の環境の諸問題」をあわせて受講することを奨励します。			

ナンバリングコード B2THB-baeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000601) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- A Mental health and support A	科目区分 主題科目	時間割 3Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 baeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 竹森 元彦, 山田 俊介	関連授業科目 心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- B	履修推奨科目	
学習時間 講義90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 心の健康と援助 現代社会は、物質的にも経済的にも豊かとなった。しかし、私たちは、健康的で幸せな日々を過ごしているであろうか？忙しい毎日の中で心の豊かさを持ち得ているのであろうか？本講義では、現代社会に生きる私たちの心の健康と援助について、臨床心理学やカウンセリングの視点から捉え直したい。そして、受講者一人ひとりがどう生きてきたのか、どう生きるのかについて自分の問題として“立ち止まって”考える機会としてもらいたい。			
<b>授業の目的</b> 現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学ぶ。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心の健康や問題に関する基礎的な概念について説明することができる。 2. 現代社会における心の健康や問題について、自己と関連づけて探求することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のミニレポート(20%)、定期試験(80%)。3回の欠席によって不可となります。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1～2回 現代社会と心の問題、カウンセリングとは何か 第3～5回 健康なパーソナリティ 第6～7回 映画に見る登場人物の心理、カウンセリングとは何か。 第8回 まとめ(45分) + 定期試験  <b>【授業及び学習の方法】</b> 現代社会と心の問題について、講義中心にすすめます。適時、資料をもとに進めます。最後に、ミニレポートに記録をしてもらいます。次の講義で、ミニレポートに記された質問などに対応します。  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 第1～2回 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、現代社会と心の関係、カウンセリングについて考察すること 第3～5回 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、健康なパーソナリティについて考察・明確化すること 第6～7回 配布した資料や映画等を手掛かりに、カウンセリングとは何か、こころの支援の在り方について関心を持ち、理解を深めること 第8回 配布した資料や紹介した文献、ミニレポートなどを手掛かりに、振り返りや整理をすること。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料などを配布する。			
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に、教室で質問をうけます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 心の問題と深くかかわるので、自分の問題として捉える姿勢が望まれる。他の受講者に迷惑にならないように私語を慎み、真摯な態度で臨むこと。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000602) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- B Mental health and support B	科目区分 主題科目	時間割 4Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 林 智一, 橋本 忠行	関連授業科目 心の健康と援助 B		
履修推奨科目			
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 心の健康 この授業では、21世紀社会の諸課題として心の健康と援助を取り上げます。心の健康や援助を中心的に扱う学問の1つに、臨床心理学があります。臨床心理学は、「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の一領域」(野島, 1995)と定義されます。本科目では、その基礎を概説し、心の発達、健康、人格などについて学びます。			
<b>授業の目的</b> 臨床心理学の基礎に触れることを通じて、多様な人間理解の方法を深める。心の健康と援助についての基礎的な考え方を身につける。実習を通して、臨床心理学における倫理の基礎を学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心の健康と援助に関する基礎的な考え方について説明できる。 2. 対人コミュニケーションに必要な倫理観について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> テスト45%、レポート45%、授業中の取り組み10%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 こころの理解①: 心理アセスメントとは 第2週 こころの理解②: 心理アセスメントの実習 第3週 カウンセリングの基礎知識 第4週 ロールプレイによるカウンセリングの実習 (45分) + テスト (45分) 第5週 映画『ビューティフル・マインド』—心の病とともに生きる①— 第6週 映画『ビューティフル・マインド』—心の病とともに生きる②— 第7週 レポートのピアレビュー 第8週 レポート発表会  <b>【授業及び学習の方法】</b> 講義、実習、映画の視聴などを中心に進め、適宜グループワークを取り入れます。資料は適宜、配布します。			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜、紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 橋本: 火曜日12:00-12:50 橋本研究室(北8号館6階)、林: 火曜日12:00-12:50 林研究室(北8号館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 課題等、積極的に取り組んでください。授業回数の3分の2以上の出席がない場合、定期試験等の評価は受けられません。本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- (その1、その2)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。			

ナンバリングコード B2THB-abcG-10-Eg1 授業科目名 (時間割コード:000603) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 発達障害当事者研究の意義 I The importance of my own developmental disabilities research I	科目区分 主題科目	時間割 1Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 西岡 圭子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 「発達障害当事者研究」では、「発達障害」を、専門家が既存のスケールで「正常」の範囲外として測定し、投薬を中心にして治療する事態、として、とらえない。誰もが日常的に体験する状態と連続する事態として、とらえる。さらに、「当事者」が自分自身の状態を子細に叙述して他者に読解されて意見交換することを繰り返して、開かれた人間関係を構築することで、対処できる事態、として、とらえる。当授業では、近年、世界的に注目されている日本の「発達障害当事者研究」の論者、綾屋紗月と熊谷晋一郎による著述の読解を軸にして、受講者間での「当事者研究」を、アクティブ・ラーニングで推進して、人間とは何かを探求する。教員の西岡が一方的に見解を示すのではない。受講者間でそれぞれの読解レポートを回し読みして検討しあうことを重視する。当然、自分の個人的情報を他者に開示していくことになる。レポートの内容を授業外に漏洩することなく、授業時間内に個人的情報の交換を行うことの必然性と意義を理解し、承諾することが、当授業への参加条件である。			
<b>授業の目的</b> 健全者と障害者とは異なる、とみなされる客観化の手前、「当事者」としての人間、の立ち位置から、人間とは何か、という哲学的問題を考察する（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）姿勢を形成できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 「発達障害当事者研究」の理論を自分なりの表現で説明することができる。 2. 自分自身に対しても他者に対しても、「健全者か障害者か」、という、二者択一的で固定的な見かたをしないようになる。 3. 人間が生きるありさまについて深く考えるようになる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席回数、毎時間ごとの感想文、授業時間内の発言、4回の課題レポート（1回が1200字程度）の内容から、総合的に評価する。4回の課題レポートは、授業の進展に合わせてテキストを読み進めながら作成するのであり、一度に4枚を作成して提出するようなことは認めない。また、出席もほぼ毎時間であることを求める。 初回に、西岡が、授業の趣旨を説明し、次回の授業内で「回し読み」する、第1回の課題レポートを課す。テキストは初回到教室で販売する。初回に、何らかの理由で出席不可能になった受講希望者は、次回の授業までに、必ず西岡と面談し、授業の趣旨を了解した上で、次回の授業時には、第1回の課題レポートを持参すること。この経緯を経ない者は、受講者登録はしていても、受講する意志がないものと判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>[授業計画]</b> 第1回 レクチャー [キーワード: 発達障害当事者研究, 現象学, べてるの家] 第2回 テキスト第1章のレポート回し読み [キーワード: 体の内側の声を聞く] 第3回 レクチャー [キーワード: したい性・せねば性・します性] 第4回 テキスト第2章のレポート回し読み [キーワード: 外界の声を聞く] 第5回 レクチャー [キーワード: アフォーダンス・感覚飽和] 第6回 テキスト第3章のレポート回し読み [キーワード: 夢か現か] 第7回 レクチャー [キーワード: 夢侵入] 第8回 テキスト第4章のレポート回し読みとレクチャー [キーワード: 他者と自己]			
<b>[自学自習に関するアドバイス]</b> 自宅、テキスト及び授業時に配布するプリントを熟読し、隔週で、宿題のレポート（1200字程度、4回）を作成することが基本である。各自のレポートは、受講者間で、回し読みをして、議論の素材にする。毎回の授業の終了時に、出席者の理解度を把握する趣旨でのミニ感想文の提出も求める。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書: 綾屋紗月+熊谷晋一郎『発達障害当事者研究 - ゆっくりしていねいにつなりたい』医学書院 2008年2000円+税、授業で使用する他、レポート作成のための必読資料として指定する。初回の授業時間に、教室で、販売する。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日 3時間目 8号館4階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 1. 遅刻厳禁 出席重視 2. 本授業は、平成30年度以前開講の「発達障害当事者研究の意義 その1」を受講して単位を修得した学生は受講できない。			

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000604) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 健康と法—CyberとPhysicalの融合の世界— Health and Law—in Cyber Physical Systems—	科目区分 主題科目	時間割 2Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 肥塚 肇雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 8回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習			
授業の概要 【キーワード】健康増進 ビッグデータ、人工知能（以下「AI」といいます）、IoT（Internet of Things）およびテレマティクス等を活用して、健康の増進が図られたり、国または自治体が健康政策を策定したりしています。スマート社会またはデータ駆動型社会への移行を目指しているわが国では、健康を増進するため新技術がますます活用されていきます。本授業では、このような新技術を活用して健康増進に役立てようとするときに潜む法的問題点を考察します。			
授業の目的 法学の基礎的な知識を前提として、新技術が社会的に普及する過程において生じ得る法的問題点に対する解決のために何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら探究できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 健康増進のため新技術を活用したときに生じる法的問題を理解し対応するためには何が必要とされるのか、自己がなぜ権利を取得し義務を負うのかその根拠・法原則に関連づけながら説明することができる。 2. 自己の法的主張を分かりやすく記述することができる。			
成績評価の方法と基準 次の基準に基づき評価します。 1. 小テスト：20点 2. 学期末試験：80点  ただし、特段の事情が認められるときはそれを加味して総合的に評価する場合があります。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. 授業計画 次の通りです。ただし、やむを得ず休講したり授業の進行等考慮すべき事情により変更したりする場合があります。  <予定> 第1回 ガイダンス—この授業で何を学ぶのか等— 第2回 Cyber Physical Systems：ウェアラブル端末（たとえば、Apple Watch）は健康増進にどのように活用されているか？ 第3回 もうなにも隠せない？：健康増進のためのウェアラブル端末による情報収集は全てを見通す「目」か 第4回 民間の保険と健康増進：いまのあなたのリスクが評価され将来のリスクも評価されてしまったら？ + 小テスト（15分：1回～3回分） 第5回 国や自治体の健康政策：データに基づく健康政策等はくらし安全安心につながるか？ 第6回 Cyber攻撃とデータの改ざん：あなたの健康情報が書き換えられてしまったら？ 第7回 健康増進社会と「街づくり」：「人生100年時代」に向けて 第8回 まとめ（45分間授業）+ 試験（45分間：1回～8回分）  2. 授業及び学習の方法 講義形式で進めます。自学自習は課題として適宜指示します。			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー (注) やむを得ず変更する場合があります 前期＝火曜日9:45-10:15 (法学部棟<幸町南6号館>4F研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は課題に取り組んだことを前提に進めます。			

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000605) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 平和学 Peace Studies	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 黒滝 直弘	関連授業科目	なし	
	履修推奨科目	なし	
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> キーワード：平和、健康 多くの人々は健康で経済的に困らない平和な生活を希求している。しかし実態は、世界では紛争が起り人が死に、個人においては病気になったりいろいろな悩みに苦悩することが生きていく上では避けられないものである。平和な世界を望むという万国共通の願いをもとに、唯一の被爆国である日本で直接に原爆の被害を受けた長崎大学では30余年に渡り平和講座という授業が開講されていた。その発展形として、本授業では主に単に政治的な意味合いのみならず、社会におけるコミュニケーションや健康、保健等様々な側面からテーマを決め、思考することによって、より健康で平和に生きる意味を模索する。			
<b>授業の目的</b> 日常の場面で起きる様々な問題を取り上げ、文献を調べて発表し議論することによって、健康に、平和に生きていく意味を探る。思想信条の自由に基づき、活発な議論を行うことによって、大学で学ぶ意味も考えていく。(共通教育スタンダードの「21世紀の諸問題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
図書館で必要な書物を探ることができる。 インターネット上にある雑多な情報の中から信頼性の高い情報を取り出せる。 パワーポイントを自由に使いこなす。 学生自身の考えを自分の言葉で発信できる。 学生生活を含めた日常の中で遭遇する困難を解決する道筋を探ることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席70パーセント、レポート20% 他、議論に参加する積極性など。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回・・・授業の内容、進行方法の説明。及びグループ分け。グループごとのテーマの決定。 第2回～第7回・・・グループごとの発表と質疑応答を含んだ議論。 第8回・・・まとめ。			
<b>教科書・参考書等</b> なし			
<b>オフィスアワー</b> 毎週水曜日、お昼休みの時間。医学部キャンパスの研究室。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 確実に出席すること。文献の調査において真摯に取り組むこと。 本講座を受講している期間だけでも新聞を読んでください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000606) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 心と身体の関係と医療 Mid-body correlation and medical care	科目区分 主題科目	時間割 2Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 神原 憲治	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 心身医学 本講義では「心と身体の関係」をテーマに、その生理的機序や実際について概説し、医療における疾患や健康における意義やストレスマネジメントとの関連について、実践的な理解を目指します。			
<b>授業の目的</b> 心と身体とは密接不離な関係にある。心と身体の関係は、ストレス社会と言われる現代を生きる上で必要なストレスマネジメントにおいて重要であり、医療においてもストレスに関連する疾患はその比重を増している。健康管理や医療において重要な心と身体の関係（心身相関）について、その医療における意義を中心に概説し、知識と理解を深めることを目的とする（香川大学共通教育スタンダード①「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身相関の基礎的概念やその生理機序について例を用いて説明できる。</li> <li>・ストレスの身体への影響及びストレス反応について説明できる。</li> <li>・心身症の病態について概説できる。</li> <li>・心身相関の医療における意義とストレス関連疾患について理解できる。</li> <li>・心身医学、心療内科について説明できる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業参加度及び試験により評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 インTRODクシヨン：心と身体の関係と心身医学 第2週 心身相関の機序 第3週 情動と身体 第4週 応用精神生理学と心身相関 第5週 ストレスとホメオスタシス（恒常性） 第6週 心身の気づきと身体感覚 第7週 ストレス関連疾患と医療 第8週 まとめ（45分間授業）、試験  <b>【授業及び学習の方法】</b> 講義はスライド、板書を用いて行う。 一部において、精神生理学的な手法による心と身体の関係についてのデモンストレーションを行う予定（ただし設備や受講人数により変更の可能性があります）。 参考書の「心身相関」についての部分を学習しておくことを推奨します。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身医学標準テキスト 第3版, 久保千春編, 医学書院, 2009</li> <li>・バイオフィードバックとリラクゼーション法, 竹林直紀・神原憲治・志田有子, 金芳堂, 2011</li> </ul>			
オフィスアワー アポイントメントにより対応します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 自発的、積極的な学習姿勢を期待します。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000607) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 文系学生のための人体解剖学 人体解剖学入門 Introduction to Human Anatomy	科目区分 主題科目	時間割 2Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 荒木 伸一, 江上 洋平	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> ヒトのからだ 正常の人体の構造について学ぶ解剖学は、医学の中でも最も基礎となるものです。医学・医療系以外の学生を対象とした人体解剖学の基本を講義します。解剖学の概要、解剖実習や日本の献体制度などについて学び、問題点を探求します。ついで、私たちの体の構造・仕組みを臓器、系統別に学びます。受講者は、デザイン思考に則って課題論文または人体図鑑の作成をすることにより、課題に対する問題解決や提案を行います。			
<b>授業の目的</b> 医学を専門としない人にとっても、人体についての正しい知識は、病気になった時や健康維持に役立つ。この授業を通じ、人体の構造と仕組みを理解し、その知識を自らの健康に関連づけて活かせるようになる。また、日本の献体制度の課題について探求できるようになる。デザイン思考を取り入れたオリジナルの解剖学図鑑を考案し作成する（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 解剖学とは何かを説明できる 2. 今日における献体制度の問題を自ら考え、解決策を提案できる。 3. 人体の構成する細胞組織について説明できる。 4. 人体を構成する各臓器・系統について基本構造を説明できる。 5. オリジナルのデザインで人体図鑑を考案し、作成することができる。 6. ヒトのからだを理解することで、健康について考えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 成績評価の基準は、期末テスト 50%、課題の評価 30%、出席20%の予定です。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回：解剖学とは、日本の献体制度 (荒木) 第2回：細胞と組織 (江上) 第3回：骨と筋：運動器系 (荒木) 第4回：消化と吸収：消化器系 (荒木) 第5回：呼吸と循環：循環器・呼吸器系 (江上) 第6回：皮膚と感覚：感覚器系 (荒木) 第7回：排泄と生殖：泌尿生殖器系 (江上) 第8回：テストと課題発表 (荒木・江上)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 教科書とPowerPointで講義を行います。教科書を読むなどの事前準備を行ってください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 課題作成は、以下の課題から1つ選択し、授業時間外に各自で行ってください。			
課題1 現代の日本における献体制度の問題を考える (現状と課題。解決するには。 1200文字以上 手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。盗用は不可。)			
課題2 わかりやすい人体解剖図鑑を作る (自分で対象を決める： ○○のためのわかりやすい人体解剖図鑑。全身でも、系統や器官別でも良い。対象、目的にあうように自分でデザインする。手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。コピーの貼り付けは不可。必ず自作する。)			
<b>教科書・参考書等</b> 下記の教科書を講義で利用します。 「美しい人体図鑑 自分のからだを知り尽くす！」監修者 梶原哲郎、笠倉出版社、2013年、1000円+税			
オフィスアワー 月曜日 12時～13時 医学部基礎臨床研究棟 5F			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 3分の2以上の出席と1つ以上の課題提出は必須です。 医学科・看護学科の学生は受講しないでください。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000608) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 健康と疾病 Relationship between health and disease	科目区分 主題科目	時間割 2Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 星野 克明 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 感染症と生体防御 我々生物が病原体から身を守ろうとする時、病原体は生物から排除されまいとしている。この関係の中で、生物と病原体は共に進化してきたと考えられている。この授業では、人類にとって不可避の感染症について、人類と病原体の関係を概説する。そして、医学の発展により「人間」が得た、「健康」を保つための戦略について説明する。今後の社会で健康に生き続けるための知識・情報を提供する。			
<b>授業の目的</b> 我々にとって最も身近な疾病である感染症について歴史を学ぶ。続いて、病原体が感染する仕組みと、感染した時の生体防御反応を学ぶ。さらに、感染症に対抗する方法（予防法、診断法、治療法）について学び、医学の発展による健康の向上について考える。21世紀社会を健康に生き延びるための教養を身につける（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1, 身近な疾病としての感染症について歴史を説明することができる。 2, 病原体の感染メカニズムについて説明できる。 3, 感染症に対する防御応答を概説できる。 4, 疾病に対する人類の戦略について概説できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 各授業終了時にミニレポート、あるいはミニテストを行う。全体の平均得点が60%以上を合格とする。定期試験は実施しない。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 本授業は全て講義形式で、1回ずつが独立したテーマです。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15分程度を、ミニレポート作成やミニテストの時間にあてます。最後の8回目に、まとめのレポート作成を行います。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 感染症から自分のからだを守る仕組みについて（担当：星野） 第2回 さまよえる遺伝子、ウイルス（担当：藤井） 第3回 治癒と再生について（担当：村上） 第4回 感染症と人類の歴史（担当：横田） 第5回 結核感染症からみる病原体の戦略と免疫細胞の防御機構（担当：財賀） 第6回 体を守る抗体、体を壊す抗体（担当：仁木） 第7回 臨床検査と疾患（担当：星野） 第8回 遺伝子組換え動物を用いる研究、まとめ（担当：星野）			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 第1回 「免疫」とは何か調べる。 第2回 予習の必要はありません。興味を持って講義を聴いてください。 第3回 医学的な話のため予習は不要です。講義中に積極的に質問してください。 第4回 ペニシリンの発見、多剤耐性菌、天然痘、ペストについて調べる。 第5回 インターネット等で結核について調べる。 第6回 抗体の構造と機能について調べる。 第7回 予習の必要はありません。興味を持って講義を聴いてください。 第8回 ニュースなどで報道される「遺伝子組換え」について関心を持っておいて下さい。			
復習を兼ねて自学自習することが望まれます。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しません。各授業毎に必要なに応じてプリント資料を配布する予定。			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日(16:00-18:00) 医学部基礎臨床研究棟6階・免疫学研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 出席を毎回取ります。3分の2以上の出席を履修要件とします。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 000609) 主題B-6 「人間と健康」 Human Health 微生物と健康との関わり Microbes and human health	科目区分 主題科目	時間割 4Q月1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bc	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 桑原 知巳, 今大路 治之, 多田 彩乃	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自主学习			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】健康</b> 地球環境のあらゆる場所に微生物は存在します。微生物の中には有益物質の生産や難分解性物質の消化のために産業利用されているものが多くあります。私たちの体には多数の微生物が共生しており、その変化が感染症のみならず様々な病気と関連することが明らかにされつつあります。感染症の治療においては、薬の効かない耐性菌が拡散し、世界的な脅威となっています。この講義では、微生物と私たちの健康との関わりについて理解を深めます。			
<b>授業の目的</b> 21世紀に入り日本ではますます高齢化が進み、疾病の様相も大きく変化しています。微生物のヒトの健康への関わりを理解し、今後の微生物の地球資源としての可能性や問題点などについて学習することを目的とします。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 微生物がヒトに病気を起こすメカニズムを説明できる。 2. 私たちの体に共生している微生物とその役割について説明できる。 3. 微生物が関連した病気に対する基本的な予防法を説明できる。 4. 世界的に問題となっている感染症について説明できる。 5. 薬剤耐性菌の発生要因と対策について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の講義終了後に行う小テストで成績を評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：微生物の生物としての特徴【桑原】 第2回：微生物と社会の関わり【桑原】 第3回：感染症とその予防法【桑原】 第4回：私達と共生する微生物【今大路】 第5回：腸内フローラと疾病【今大路】 第6回：口腔細菌と歯周病【多田】 第7回：口腔ケアと疾病予防【多田】 第8回：世界に拡散する多剤耐性菌【桑原】			
<b>教科書・参考書等</b> 1. グローバル感染症－必携70疾患のプロファイル 日経メディカル編 (日経メディカル) 2. もう抗生物質では治らない－猛威をふるう薬剤耐性菌 M. シュナイアソン・M. プロトキン著 (NHK出版) 3. 細菌の逆襲－ヒトと細菌の生存競争 吉川昌之介著 (中公新書) 4. 人体常在菌のはなし－美人は菌でつくられる 青木 阜著 (集英社新書)			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日16:00-17:00			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 毎回講義終了後に小テストを行うので欠席しないこと。20分以上遅刻した場合は小テストは受けられません。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000610) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 知プラe科目 知の探訪 Guidance of Human Intelligence (Guidance of Human Intelligence)	科目区分 主題科目	時間割 後期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 2	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 徳島大学、研究、科学技術  大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。			
<b>授業の目的</b> 大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、大学では、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」って何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末に定期試験(レポート)を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はeラーニング形態ですので、各回、課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します。また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います(各回の課題が6回以上未提出の場合は成績反転の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ①金西計英・総合教育センター「ガイダンス」 /野地 澄晴・徳島大学学長 「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」 ②高石 喜久・徳島大学副学長 「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」 ③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開：ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍兒・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」 ④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」 ⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい！？～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」 ⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」 ⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」 ⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」 ⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか？」 ⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」 ⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」 ⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」 ⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」 ⑭原口雅直・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」 ⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」 ⑯定期期末試験(レポート)  <b>【授業時間外学習について】</b> 講義後に関連する事項について復習する  <b>【e-Learning科目の履修登録に際して】</b> 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期			

限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにて

e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください (e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。

ナンバリングコード B2THB-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000611) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 海外渡航と健康 Travelers' Health	科目区分 主題科目	時間割 3Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 新井 明治	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 渡航医学 海外渡航には観光、留学、仕事、移住、難民、宗教行事など、様々な目的・活動が含まれる。海外渡航時には種々の面において渡航前の日常生活とは異なる環境に身を置くこととなり、それに起因する健康問題が生じるリスクが高まる。本授業では、海外渡航に関連する各種の健康問題について、主に医学的側面から概説する。日本から海外へ渡航する人々だけでなく、日本を訪れる外国人の健康問題にも理解を深める。			
<b>授業の目的</b> 21世紀社会の諸課題に対する探求能力と必要なスキルとして、海外渡航に関連する各種健康問題について、主に医学的側面から理解する。海外渡航には様々な種類・目的があり、感染症をはじめとする健康上のリスクとその予防法に関する知識を習得するとともに、現状の課題とその解決策を探求する。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 海外渡航の種類と目的、各々のリスクについて説明することができる。 2. 海外渡航で感染する可能性のある感染症とその予防法について説明することができる。 3. ワクチンで予防できる感染症と、感染予防のための適切な行動について説明することができる。 4. 医学的配慮を要する渡航者の健康問題について説明することができる。 5. 訪日者・帰国者・日本への移住者の健康問題とその解決策について説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニレポート(第1回～第7回)50%、試験(第8回)50%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 海外渡航と健康 第2回 海外渡航の種類・目的とリスク 第3回 海外渡航で重要な感染症 第4回 ワクチンと予防内服 第5回 途上国・新興国と医療 第6回 医学的配慮を要する渡航者 第7回 訪日者・帰国者・日本への移住者 第8回 筆記試験(45分間)+まとめ(45分間)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 必要に応じて資料を配付する。授業内容の理解度をみるために毎回講義終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす(遅れて提出しても受理しない)。講義を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する(予習が必要)。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 授業内容の理解を深めるため予習・復習が必要。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書:近 利雄・三島伸介(編著)(2017)『トラベル&グローバルメディシン』南山堂(5,200円+税)			
オフィスアワー メール (medzool@med.kagawa-u.ac.jp) によるアポイントメントにより随時対応する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 2/3(6回)以上の出席を履修要件とする。時間内にレポート提出がない場合は欠席扱いとする。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000612) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 人間と健康を考える生理学 (Human physiology for better understanding of health)	科目区分 主題科目	時間割 3Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目																		
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10																		
	授業形態 Lx	単位数 1																			
担当教員名 平野 勝也	関連授業科目																				
	履修推奨科目																				
学習時間 講義90分(講義70分・ミニレポート作成20分)×8回 + 自学自習																					
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 健康増進・健康維持  人体には、その内部環境を健康な状態に保ち、生命を維持する仕組みが備わっています。この仕組みの中から、自律神経、内分泌、心臓、血管、消化器などを取り上げ、その構造と機能について解説し、健康維持にどのように関わっているかを考えます。さらに、この生理的な仕組みの異常として病気をとらえ、その成り立ちについても考察します。																					
<b>授業の目的</b> 高齢社会を迎えた21世紀を健康で活動的に暮らすための方策を考えるためには、健康を支える人体の仕組みに関して正しい知識を持つことが不可欠です(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。この講義のシリーズでは以下の4つの項目を目的に、人体生理学を学習します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の内部環境を健康に保つ生体の仕組みを理解し、その精巧さと美しさを感じる。</li> <li>2. 各細胞や器官の生理的な機能とその調節の仕組みを知る。</li> <li>3. 健康を維持するために必要な術を考察する。</li> <li>4. 人体の仕組みについて大学卒業生としての科学的な常識を身につける。</li> </ol>																					
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)																		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の臓器組織の働きとその仕組みを説明できる。</li> <li>2. 健康を保つ方策を科学的に選択できる。</li> </ol>																					
<b>成績評価の方法と基準</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価の前提: 3分の2以上の授業の出席(6回以上)を必要とします(3回以上の欠席は不合格)。</li> <li>2. レポート点: 講義内容をもとに設問を設定し、ミニレポートを作成してもらいます。レポートの点を集計して最終成績とします。</li> <li>3. 期末テストは実施しません。</li> </ol>																					
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業の方法】</b> 本授業は全て講義で構成されます。PowerPointプレゼンテーションや講義資料を用いて、授業計画に記載のテーマで講義を行います。授業時間の最後の15分程度をミニレポートの作成時間に当てます。																					
<b>【授業計画】</b> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">項目</td> <td>: 内容</td> </tr> <tr> <td>第1週</td> <td>自律神経系: 自律神経系による体の調節</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>内分泌機能: 下垂体ホルモンによる体の調節</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>消化と吸収: 栄養素の消化と吸収</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>代謝の調節: インスリンによる糖・脂質代謝の調節</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>体温の調節: 体温調節機構と発熱の仕組み</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>血液 : 血液の成分と働き</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>心臓 : 心臓の働きとその仕組み</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>血管 : 血圧の成立と血管の役割</td> </tr> </table>				項目	: 内容	第1週	自律神経系: 自律神経系による体の調節	第2週	内分泌機能: 下垂体ホルモンによる体の調節	第3週	消化と吸収: 栄養素の消化と吸収	第4週	代謝の調節: インスリンによる糖・脂質代謝の調節	第5週	体温の調節: 体温調節機構と発熱の仕組み	第6週	血液 : 血液の成分と働き	第7週	心臓 : 心臓の働きとその仕組み	第8週	血管 : 血圧の成立と血管の役割
項目	: 内容																				
第1週	自律神経系: 自律神経系による体の調節																				
第2週	内分泌機能: 下垂体ホルモンによる体の調節																				
第3週	消化と吸収: 栄養素の消化と吸収																				
第4週	代謝の調節: インスリンによる糖・脂質代謝の調節																				
第5週	体温の調節: 体温調節機構と発熱の仕組み																				
第6週	血液 : 血液の成分と働き																				
第7週	心臓 : 心臓の働きとその仕組み																				
第8週	血管 : 血圧の成立と血管の役割																				
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 講義中あるいは自学自習中の疑問点については気軽に講義担当者に質問し、学習の助けとしてください。一緒に疑問点を解決してゆきます。																					
<b>教科書・参考書等</b> <b>【教科書】</b> 特に指定しません。講義資料を配布する場合があります。																					
<b>【参考書】</b> 生きているしくみがわかる生理学 大橋俊夫・河合桂子著 医学書院 ISBN978-4-260-02833-2 生理学研究者が著した人体の機能と仕組みに関する一般向けの教養書																					

オフィスアワー 【事前の約束なしに訪問できる時間帯】木曜日2時限目（事前にメールにて連絡し、訪問することが望まれます。）

【研究室の場所】三木町医学部キャンパス 基礎臨床研究棟6階616号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業では、医学部で行っている生理学Ⅱの講義の一部を、他学部の学生を念頭に一般向けに講義するものです。履修希望者が教室の収容人数を越える場合は、他学部の学生を優先して履修を許可します。

高等教育機関である大学の卒業生は科学的態度を常識として身に付けることが望まれます。この講義を通して科学的態度とは何かを考える機会となることを期待します。

授業においては双方向性の講義を心がけます。講義には積極的に取り組んでください。

研究室ホームページ：<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html>

メールアドレス

平野勝也：khirano@med.kagawa-u.ac.jp

医学部自律機能生理学講座：physiol2@med.kagawa-u.ac.jp

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000613) 主題B-6「人間と健康」 Human Health からだのしくみと機能の調節 Human body and Functional regulation	科目区分 主題科目	時間割 4Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 中村 隆範, 小川 崇, 野中 康宏	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義・試験(前半・後半)90分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 体のしくみ この授業では、21世紀社会の諸課題として、ヒトの健康に関わる諸問題を抽出し解決するために、基本となるヒトのからだのしくみを知り、いくつかの病気(生活習慣病など)についてその状態や原因を理解することを目的としています。超高齢化社会の中で、健康を保ちながら病気にかかりにくい体の維持につとめるためにはどうすればよいか。健康に関わる膨大な情報にどう対処すればよいか。健康づくりの上で私たちが注意すべきことを共に考えたいと思います。			
<b>授業の目的</b> 健康な日常生活を送っているときには特に意識しない自身のからだについて、そのしくみをよく理解して、普段から健康に高い関心を持つことができるようになる。21世紀社会の大きな課題となっている、超高齢化社会の健康問題を理解した上で(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)、自己の生活習慣に活かせるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ヒトのからだのしくみやその変調によって現れる代表的な病気の要因やメカニズムを説明できる。 2. 健康に関する膨大な情報に対して、適切な自己評価(判断)ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 第8週に行う筆記試験で評価する(100%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 からだのしくみ ① : 全身・手足、頭部、胸部 第2回 からだのしくみ ② : 上腹部、背部、下腹部 第3回 遺伝子: 遺伝子の構造とセントラルドグマ 第4回 細胞、遺伝のしくみ 第5回 体液、血液、免疫 第6回 免疫のしくみ 第7回 メタボリックシンドローム 第8回 まとめ(前半)+ 試験(後半)  <b>【授業及び学習の方法】</b> 毎週の授業は準備したプリントに沿ってパワーポイントを使用して行います。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 教科書は使用しないが、参考書を掲載しているので、ヒトのからだに関する本を購入して、事前に学習しておくことを薦めます。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書等 教科書は指定しないが、参考図書として「しくみと病気がわかる からだの事典」監修 田沼久美子、増田律子、三枝英人 成美堂出版 1,600円+税 2018年3月20日発行 ISBN978-4-415-03129-2			
<b>オフィスアワー</b> 事前の予約があれば質問の時間を設けます。医学部キャンパス(基礎臨床研究棟7階・分子細胞機能学研究室)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 最後に筆記試験を行うので、自学自習で授業のまとめを行うように心がけてください			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000614) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 若年層の疾病と健康管理A Disorder and Healthcare of the Youth A	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 岡田 宏基 他	関連授業科目 履修推奨科目	学問基礎科目 医学	
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学习			
授業の概要 【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的 若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。特に生活習慣病の発症予防には十分留意する。 また、若年者のメンタルストレスについて知識を得、自身および友人のストレスケアができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べるができる。 3. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。 4. 若年者(特に大学生)に生じやすいストレスについて説明できる。 5. 自分自身に対してストレスマネジメントを適切に行うことができ、また友人のストレスサーに対しても配慮をすることができる。			
成績評価の方法と基準 講義によってはレポート提出を求められることがあるが、成績は期末テストで評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業形式:主として講義 第1回 オリエンテーション(担当:岡田宏基;医学教育学)、若年者の呼吸器疾患(担当:坂東修二;医学教育学) 第2回 若年者における腎臓病と予防(担当:祖父江 理;循環器・腎臓・脳卒中内科) 第3回 若年者の血液疾患(担当:門脇則光;血液・免疫・呼吸器内科) 第4回 若年層の予防と栄養管理(担当:日下 隆;小児科学) 第5回 若年者のメンタルヘルス(担当:渡辺全朗;精神神経科) 第6回 若年者の肝臓病(担当:森下朝洋;消化器・神経内科) 第7回 若年者の喫煙とその健康被害(担当:石川かおり;循環器・腎臓・脳卒中内科) 第8回 講義+試験  講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等 必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学习用には「家庭の医学」(オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ(講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。 平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その1」とは同一内容になっている。			

ナンバリングコード B2THB-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000615) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 若年層の疾病と健康管理B Disorder and Healthcare of the Youth B	科目区分 主題科目	時間割 2Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bcxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 岡田 宏基 他	関連授業科目 履修推奨科目	学問基礎科目 医学	
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学习			
授業の概要 【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的 若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。その2においては、目や耳、皮膚という感覚器系の疾患についても概説する。生活習慣病の発症予防にも触れ、自身の食生活や運動習慣を見直す契機とする。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べるができる。 3. 特に若年者から見られる生活習慣病について説明でき、予防を実践できる。 4. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。			
成績評価の方法と基準 講義によってはレポート提出を求めていることがあるが、成績は期末テストで評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業形式：主として講義 第1回 若年層の眼科疾患の特徴と予防(担当:鈴間 潔;眼科) 第2回 若年者の消化器疾患(担当:小原英幹;消化器・神経内科) 第3回 若年者の肥満とやせ、生活習慣病(担当:岡田宏基;医学教育学) 第4回 若年者の高血圧と高脂血症の予防(担当:南野哲男;循環器・腎臓・脳卒中内科) 第5回 若年者の耳鼻咽喉科疾患(担当:印藤加奈子;耳鼻咽喉科) 第6回 若年者の感染症の特徴と予防(担当:宮内康行;泌尿器科) 第7回 若年者のにきびとQOL(担当:窪田泰夫、白髭由恵;皮膚科) 第8回 講義+試験  講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			
教科書・参考書等 必要であれば、講義中に適宜推薦する。 自主学习用には「家庭の医学」(オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円)等。			
オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ(講師が全て医学部の所属であるため)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。 平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その2」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。			

ナンバリングコード B2THB-bacG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000616) 主題B-6「人間と健康」 Human Health ケアリングと健康 (Human Health Caring)	科目区分 主題科目	時間割 3Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bacG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 森永 裕美子, 南 妙子 他	関連授業科目	看護学	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+50分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> ケアリング 人と人とのかかわりの中で生じる現象であるケアリングは、一体自分たちの生活にどのように関連するのか。人間の誰もが持つ「感じ取り応答する能力」であるケア/ケアリングの基礎的知識について講義します。そして、私たちの様々なライフステージあるいはライフイベントや置かれている状況において生じやすい心と体の問題について、自分や家族と関連づけて予防策や具体的対応策を探求します。			
<b>授業の目的</b> 人の生涯にわたってのケアリングの必要性と意義を理解する。また、現代社会における健康課題を踏まえ、社会生活あるいは日常生活における他者とのかかわりの中で、ケアリングを踏まえたコミュニケーションや具体的な実践方法を理解することを目的とする。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ケアリングの基本的知識を説明できる 2. ケアリングの重要性を対人関係における責任との関係で説明できる 3. 様々なライフステージやライフイベント等の場面で、対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる 4. 日本の現代社会における健康問題に関する基本的知識を理解することができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・評価資料は、出席状況・ミニレポート、試験の3点とする。 ・講義担当教員ごとに評価し、最後に総括評価を行う。 なお、評価対象者は、各授業担当教員毎に全授業回数数の2/3以上出席したものとする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス、ケアについて考えるーメイヤロフのケアの定義 (南) 第2回 ケアの主な要素とケアの主要な特質 (南) 第3回 人をケアすることの意味 (南) 第4回 在宅看護(高齢者介護等)の現状 (在宅看護学教授) 第5回 在宅療養者とその家族への支援～介護ストレスへの対処～ (在宅看護学教授) 第6回 地域で生活する人々の健康問題 (森永) 第7回 地域で生活する人々の健康に関する支援 (森永) 第8回 支援技術の具体例、まとめ、試験 (森永) <b>【自己学習へのアドバイス】</b> 第1回 ケアとは何か、学習前の段階において自身がイメージする内容をまとめておく 第2回 前回授業時に配布した資料を必ず読み、内容理解を深めておく 第3回 前回授業時に配布した資料を必ず読み、内容理解を深めておく 第4回 高齢社会における諸問題の情報収集をしておく 第5回 高齢者の特徴や介護の実態について情報収集しておく 第6回 身の回りにある健康問題、生活習慣について振り返っておく 第7回 ニュースになっている健康に関する政策、制度について情報収集しておく 第8回 第1回～第7回までの授業内容を配布資料等で振り返り、総合的にケアリングを理解しておく			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：なし 当日資料を配布します 参考書：購入の必要はなし ・ケアの本質ー生きることの意味、ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宜之訳、ゆみる出版、2002 ・からだを聴くー看護の限りない可能性を拓くもの、見藤 隆子、日本看護協会出版会、1996			
<b>オフィスアワー</b> 質問は、講義終了後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング(その1)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。 ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。 ・看護学科学学生の履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。 ・夜間主学生は受講できない。			

ナンバリングコード B2THB-bacG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000617) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 心と体の健康 Human Health Caring	科目区分 主題科目	時間割 4Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 bacG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 谷本 公重, 市原 多香子	関連授業科目	看護学	
	履修推奨科目		
学習時間 講義・グループワーク 90分×8回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】健康課題</b> 主題B-6「人間と健康」では、疾病や医療など、現代社会の課題について「健康」をキーワードに考えていきます。本授業科目において教員は、人間の各発達段階において生じやすい心と体の問題に関する知識を学生が習得できるようにします。具体的には、発達段階の異なる小児と学生自身の生活・健康課題に関して講義およびグループワークを通して、理解を深めるように教授します。			
<b>授業の目的</b> 高度に進んだ日本社会では、より便利で快適な生活が実現しているといわれるが、その一方で複雑な心と体の健康問題が生じている。21世紀に生きる学生が、自身の健康課題への理解を深め、とるべき予防行動を理解すると共に、次世代を担う子どもたちへの発達支援に関する基礎的知識を習得することを目的とする。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 「成長」と「発達」およびその原則について説明できる (2) 子どもの認知発達の特徴について説明できる (3) 子どもの権利とその擁護について説明できる (4) 青年期で生じやすい問題と対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる。 (5) ケアリング・コミュニケーションの実施方法が説明できる。 (6) 日本人の死亡・受療・生活習慣病の現状について説明できる。 (7) 身近な大人の健康管理についてインタビューできる。 (8) (7) から得られた情報をKJ法を使って分類し、大人の健康行動を分析できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況・授業態度・小テスト等により講義担当教員ごとに評価する。加えて最終試験を行い、総括評価する。なお、評価対象者は、各授業担当教員毎に全授業回数の2/3以上出席したものとす。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回 大人の健康問題の動向 (市原) 第2回 大人の健康管理：インタビュー調査 (市原) 第3回 大人の健康管理：グループワーク (市原) 第4回 大人の健康管理：発表・まとめ (市原) 第5回 子どもの心と体の成長と発達 (谷本) 第6回 子どもの権利擁護 (谷本) 第7回 子どもを取り巻く現代社会の問題 (谷本) 第8回 子どもへの発達支援まとめ、試験 (谷本)			
<b>自学自習へのアドバイス</b> 第1回 健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく 第2回 インタビューを実施し、自分(家族)の健康問題と対処方法について整理する 第3回 インタビュー資料をもとに、自分(家族)の健康問題と対処方法について意見をまとめておく 第4回 大人の健康管理の特徴について考察しておく 第5回 新聞やテレビなどから、子ども(特に、2歳頃から8歳頃)の発言・行動に関して情報を得ておく 第6回 子ども権利条約について確認しておく 第7回 子どもの健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく 第8回 これまでの講義内容について確認し、理解を深めておく			
<b>教科書・参考書等</b> 必要な資料等は講義内で配布するため、自学自習で示された内容に対して確実に取り組んでおくこと			
<b>オフィスアワー</b> 質問は、講義終了前後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング(その1、その2)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。 ・この授業はグループワーク、ロールプレイ等を行うので、受講者数を80人までとし、受講者数多数の場合は受講調整をします。			

- ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。
- ・看護学科学学生の履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。
- ・夜間主学生は受講できない。
- ・8回目に試験を実施する。

ナンバリングコード B2THB-cbdG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000618) 主題B-6「人間と健康」 Human Health 生命保険を考える Overview of the Life Insurance Business in Japan	科目区分 主題科目	時間割 2Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THB	DP・提供部局 cbdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 矢野 弦一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習			
<b>授業の概要</b> <b>【キーワード】</b> 社会保障制度と生命保険、公的保障と私的保障、公助と自助、生活設計とリスク管理、実学講座 この授業では、まずは、日本の公的保障(社会保障制度)について概観します。その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なありかたや、私的保障(生命保険)の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、議論と考察を深めて行きます。また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の役割等について学ぶことを通じて、社会の一員として成長する契機とします。			
<b>授業の目的</b> 21世紀社会の日本の社会保障問題を背景とした、生命保険の重要性や果たすべき役割を理解し、併せて、生活設計力、生活上のリスク管理能力を研鑽する。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) そのために、現役の実務家による経験談や最新情報の提供も随所に織り込み、理論と実践の両面で理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。 2. 現代生活におけるリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することができる。 3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「出席+受講態度+(受講回によって実施)アンケート・小テストの解答内容」30%+「最終試験得点」70%の総合得点で評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 授業のガイダンス、総論(社会保障・経済環境、公私二本柱の保障、現代生活と保険、保険の歴史、等) 第2週 生活設計とリスク管理(それぞれの考え方、リスクに備える手段等) 第3週 生活保障と生命保険(死亡・病気・ケガ・老後・介護の各リスクへの公的・私的な保障) 第4週 生命保険の仕組み(生命保険の法的性質、構成要素、契約の流れ・手続、最近の変化) 第5週 生命保険商品の動向(明治～平成の時代背景・経済環境・ニーズの変化と現状、今後の動向) 第6週 (前半)大震災時の生保業界の対応、(後半)グループディスカッション 第7週 金融ADR対応(生保業界における苦情対応・紛争解決対応) 第8週 まとめ、定期試験  ※受講生の理解度や履修人数によっては、特に第5～8週の内容・順番を見直す場合があります。			
<b>【授業の方法】</b> ・各回の講義資料:パワーポイントで作成・整理した資料を、プロジェクターでスライド投影して説明。(大学側のOA環境に応じて、受講者全員に紙で配布またはmoodleにて公開可) ・グループディスカッション:講師が提示したテーマについて、当日ランダムに結成したグループで討議し、グループとしての意見を「討議シート」にまとめ、講師へ提出する方式を想定。 (履修人数によって、運営方式は見直す場合あり) ・受講回によっては、「受講者カード(A4サイズ1枚)」を記入・提出して頂くことを予定 (例:講義内容の理解度確認としての小テスト、設定したテーマに関する意見等の論述、等を想定)			
<b>教科書・参考書等</b> 指定なし。			
<b>オフィスアワー</b> 毎回の講義終了後、教室にて			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。 ・その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなります。			